

川 津 畑 橋 補 修 ・ 補 強 設 計 図

図 面 目 録

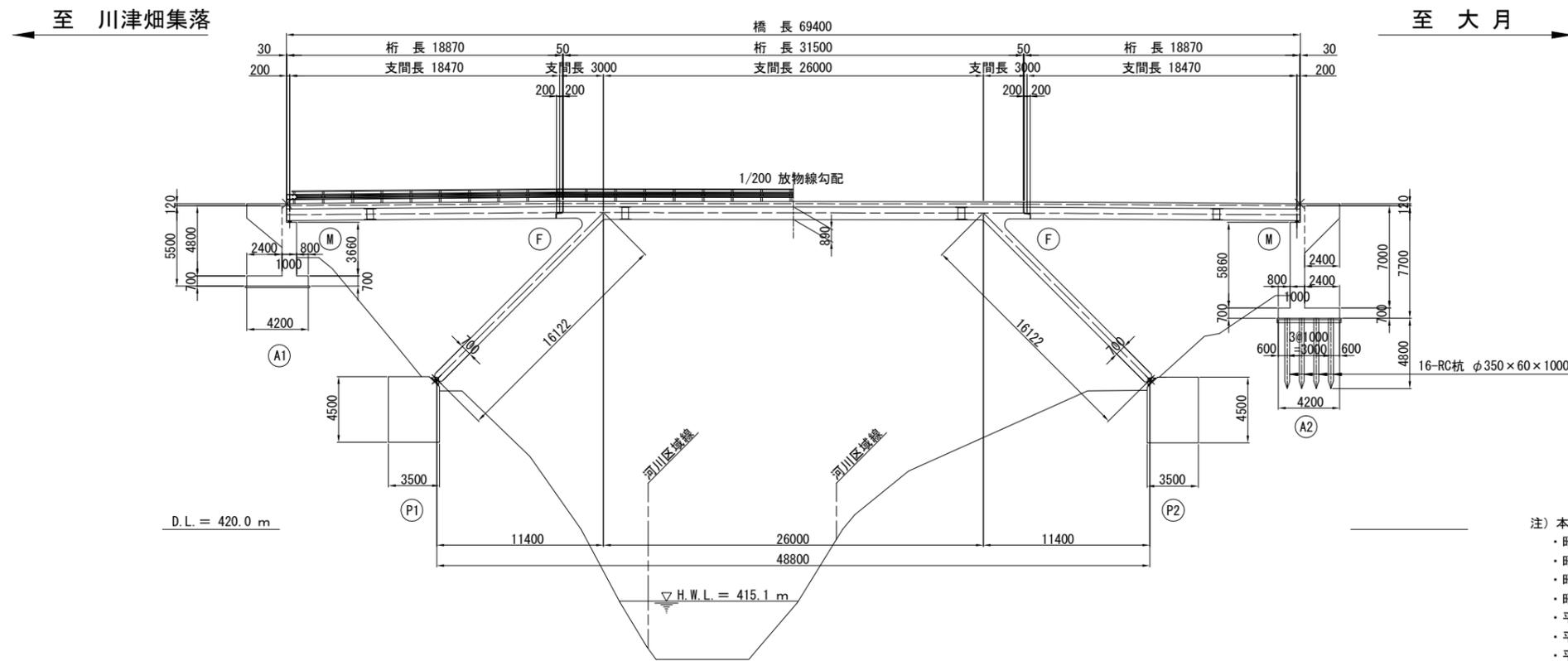
図 番	図 面 名 称	図 番	図 面 名 称
1	川津畑橋 橋梁位置図	19	川津畑橋 排水管改築詳細図
2 , 3	川津畑橋 復元橋梁一般図 (その1 , その2)	20	川津畑橋 防護柵嵩上げ詳細図
4	川津畑橋 補修・耐震補強一般図	21	川津畑橋 防護柵ボルト補填詳細図
5 , 6	川津畑橋 当て板補強図 (その1 , その2)	22	川津畑橋 床版補修詳細図
7	川津畑橋 ゲルバー部連結詳細図	23	川津畑橋 橋台補修詳細図
8	川津畑橋 免震ダンパー構造図 【参考図】	24	川津畑橋 舗装補修詳細図
9	川津畑橋 免震ダンパーブラケット図	25 ~ 28	川津畑橋 下部工検査路 (その1 ~ その4)
10	川津畑橋 座掘拘束ブレース構造図 【参考図】	29	川津畑橋 施工要領図 【参考図】
11 , 12	川津畑橋 座掘拘束ブレース取付図 (その1 , その2)	30	川津畑橋 足場一般図 【参考図】
13	川津畑橋 端支点支承詳細図	31	川津畑橋 座掘拘束ブレース設置施工要領図 【参考図】
14	川津畑橋 端支点支承取替詳細図	32	川津畑橋 ゲルバー部連結手順詳細図 【参考図】
15	川津畑橋 ゲルバー部床版連続化詳細図	33	川津畑橋 ゲルバー部仮受桁詳細図 【参考図】
16	川津畑橋 橋座縁端拡幅配筋図	34	川津畑橋 端支点ジャッキアップ補強詳細図 【参考図】
17	川津畑橋 塗装塗替詳細図	35	川津畑橋 交通規制図 【参考図】
18	川津畑橋 伸縮装置取替図 【参考図】		

平成29年度 市道川津畑六ツ原線（川津畑橋）耐震補強・補修工事
位置図



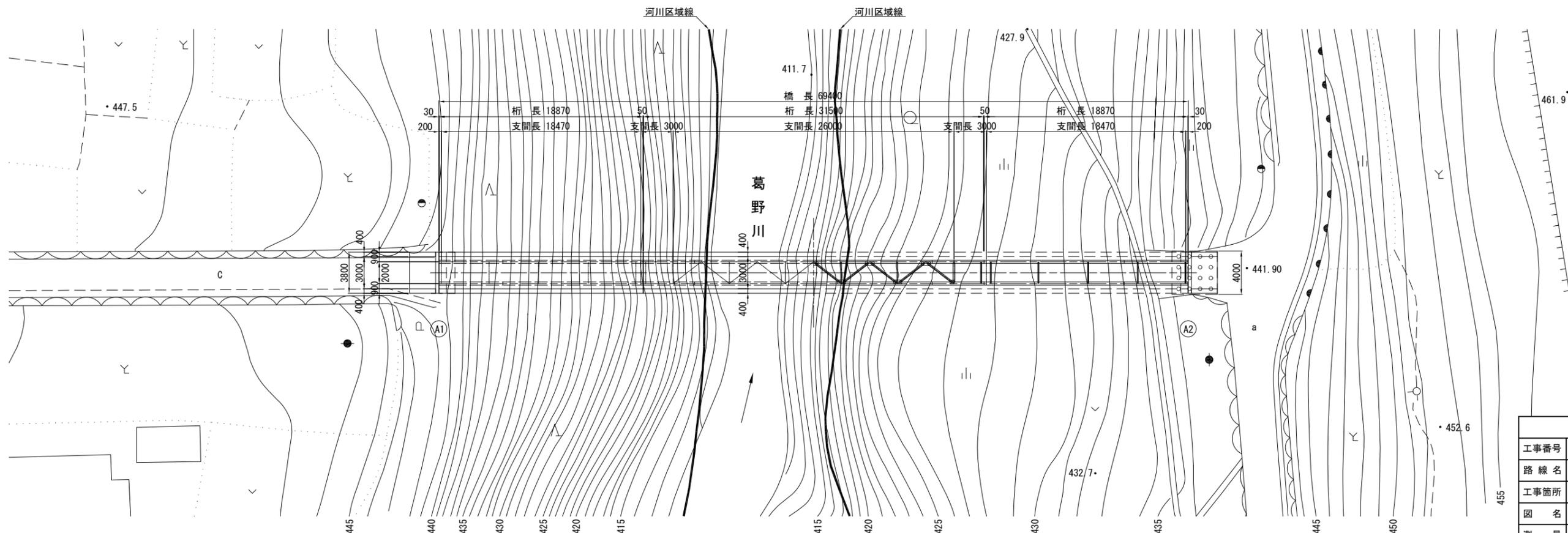
川津畑橋 復元橋梁一般図 (その1) S=1:200

側面図



- 注) 本図面は、下記資料を基に復元した現橋の橋梁一般図である。
- ・昭和45年12月 川津畑橋 設計計算書
 - ・昭和46年10月 川津畑橋 材料計算書
 - ・昭和45年12月 川津畑橋 竣工図面
 - ・昭和46年 9月 川津畑橋 竣工図面 (右岸橋台変更図)
 - ・平成24年 3月31日調整 市道道路台帳平面図 53016 川津畑六ツ原線
 - ・平成27年 7月 本業務における現橋調査結果
 - ・平成27年 8月 河川区域図 (山梨県 富士・東部建設事務所 提供)
 - ・平成27年10月 本業務における河川縦断測量結果

平面図

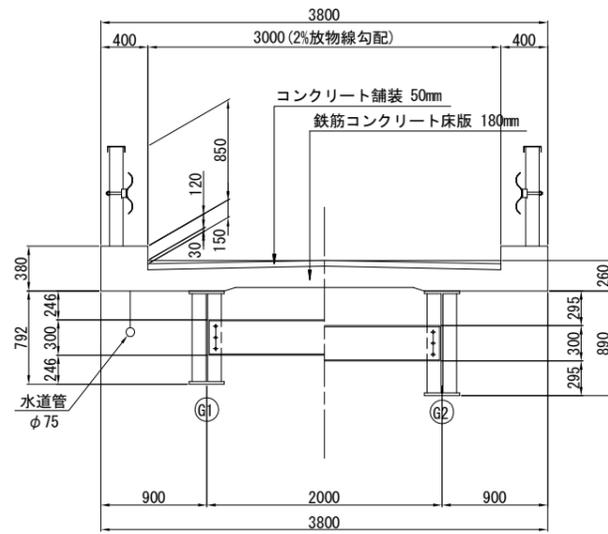


工事設計図			
工事番号	図面番号	1 / 2	
路線名	川津畑橋(市道川津畑六ツ原線)		
工事箇所	大月市 七保町 瀬戸 地内		
図名	復元橋梁一般図 (その1)	縮尺	S=1/200
測量	平成28年1月	枚数	2/35
測量者	株式会社 長大		

川津畑橋 復元橋梁一般図 (その2)

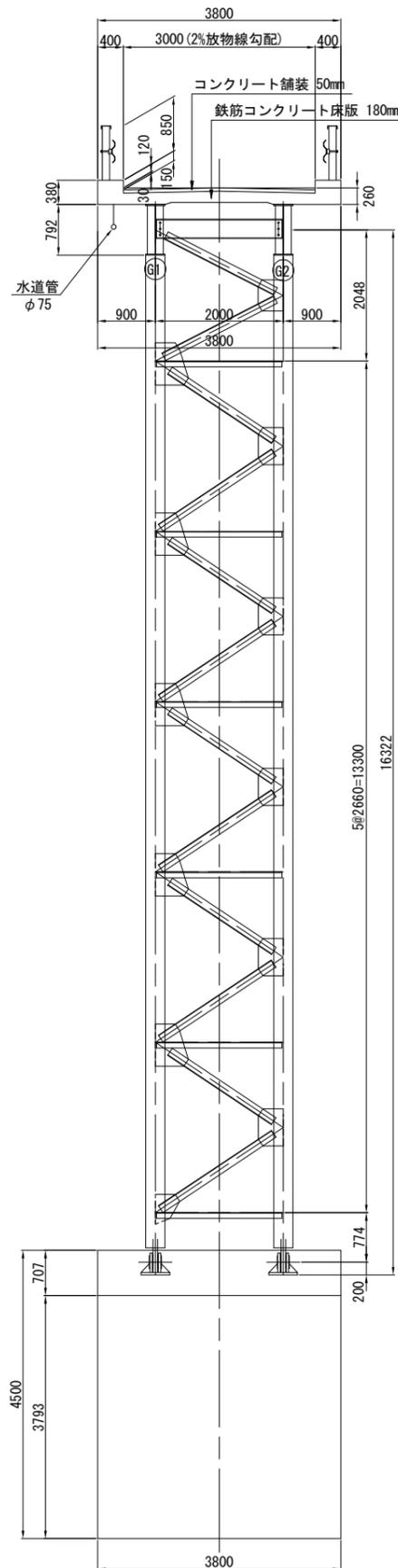
標準断面図 S=1:30

側径間部 中央径間部



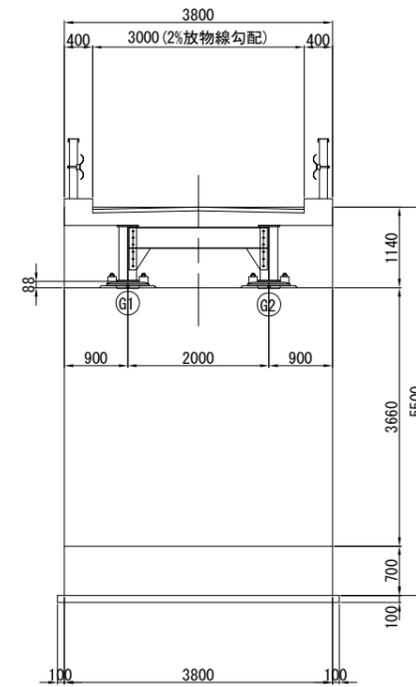
断面図 S=1:50

橋脚



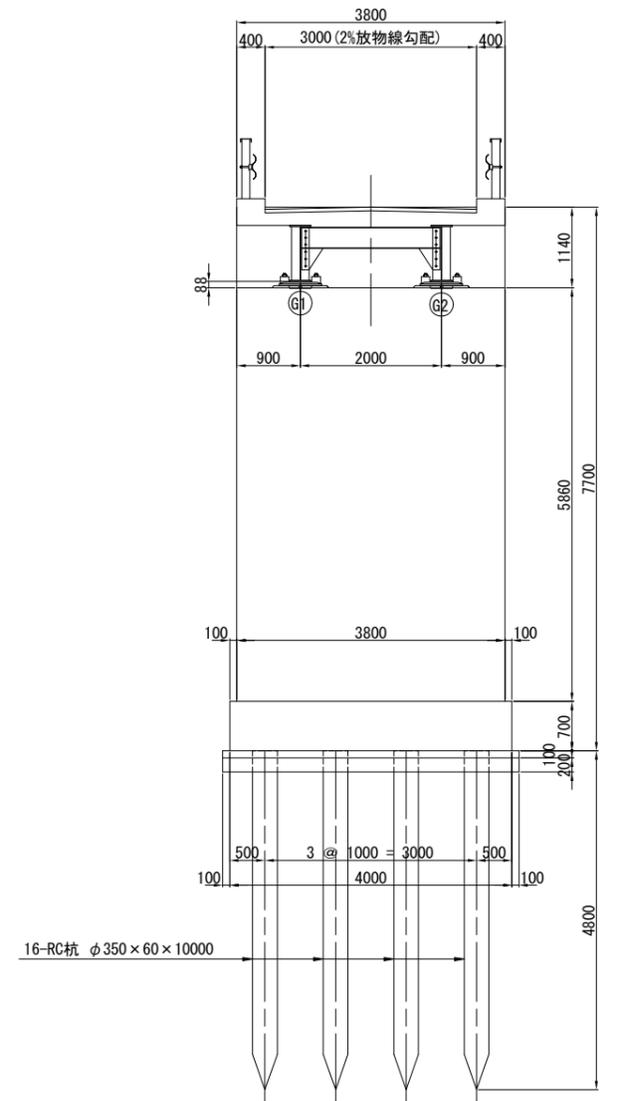
断面図 S=1:50

A1橋台



断面図 S=1:50

A2橋台



橋梁諸元

路線名	市道 川津畑六ツ原線
架橋位置	七保町 瀬戸 地内
竣工年月	昭和47年9月
交差物件	一級河川 葛野川
橋格	2等橋
設計荷重	T・L-14
橋長	69.400m
支間長	18.470m, 3.000m, 26.000m, 3.000m, 18.470m
有効幅員	車道: 3.000m
斜角	90° 00' 00"
横断勾配	2.0%放物線勾配
縦断勾配	1/200放物線勾配
上部工形式	方杖ラーメン橋
下部工形式	A1, A2: 逆T式橋台 P1, P2: 重力式橋台
基礎工形式	A1, P1, P2: 直接基礎 A2: 杭基礎 (RC杭 phi 350)
材 使用鋼材	SM50Y, SM50, SS41, F11T
強 コンクリート	上部工: $\sigma_{ck}=210\text{kg/cm}^2$ 下部工: $\sigma_{ck}=210\text{kg/cm}^2$
度 鉄 筋	SD30
添架物件	水道管 phi 75 x 1条
設計基準	鋼道路橋設計示方書 (昭和39年)
設計会社	新日本製鐵株式会社
上部工製作会社	トピー工業株式会社

河川諸元

河川名	一級河川 葛野川
計画高水流量	Q = 230 m ³ /sec.
現況河床勾配	I = 1 / 64 (平成27年10月 測量)
粗度係数	n = 0.035
水理公式	Manning公式

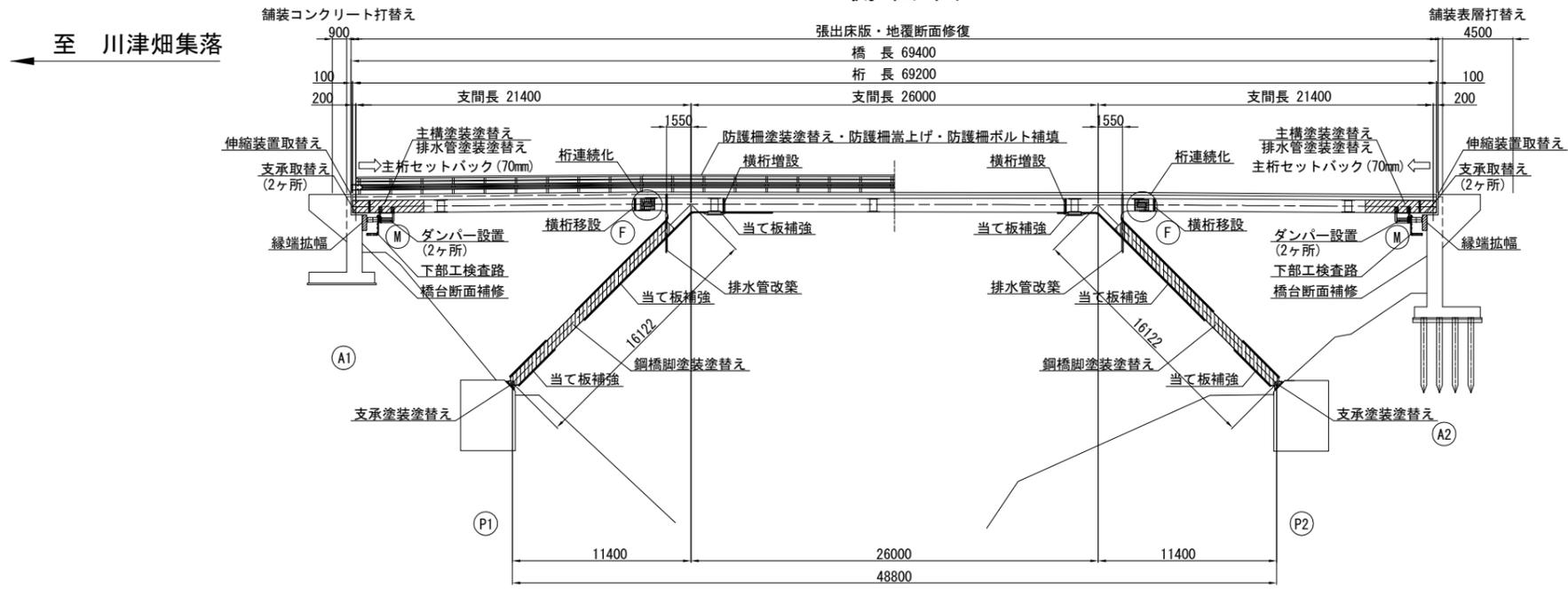
注) 本図面は、下記資料を基に復元した現橋の橋梁一般図である。

- ・昭和45年12月 川津畑橋 設計計算書
- ・昭和46年10月 川津畑橋 材料計算書
- ・昭和45年12月 川津畑橋 竣工図面
- ・昭和46年 9月 川津畑橋 竣工図面 (右岸橋台変更図)
- ・平成24年 3月31日調整 市道道路台帳平面図 53016 川津畑六ツ原線
- ・平成27年 7月 本業務における現橋調査結果
- ・平成27年 8月 河川区域図 (山梨県 富士・東部建設事務所 提供)
- ・平成27年10月 本業務における河川縦断測量結果

工事設計図			
工事番号		図面番号	2 / 2
路線名	川津畑橋(市道川津畑六ツ原線)		
工事箇所	大月市 七保町 瀬戸 地内		
図 名	復元橋梁一般図 (その2)	縮 尺	図 示
測 量	平成28年1月	枚 数	3/35
測 量 者	株式会社 長大		

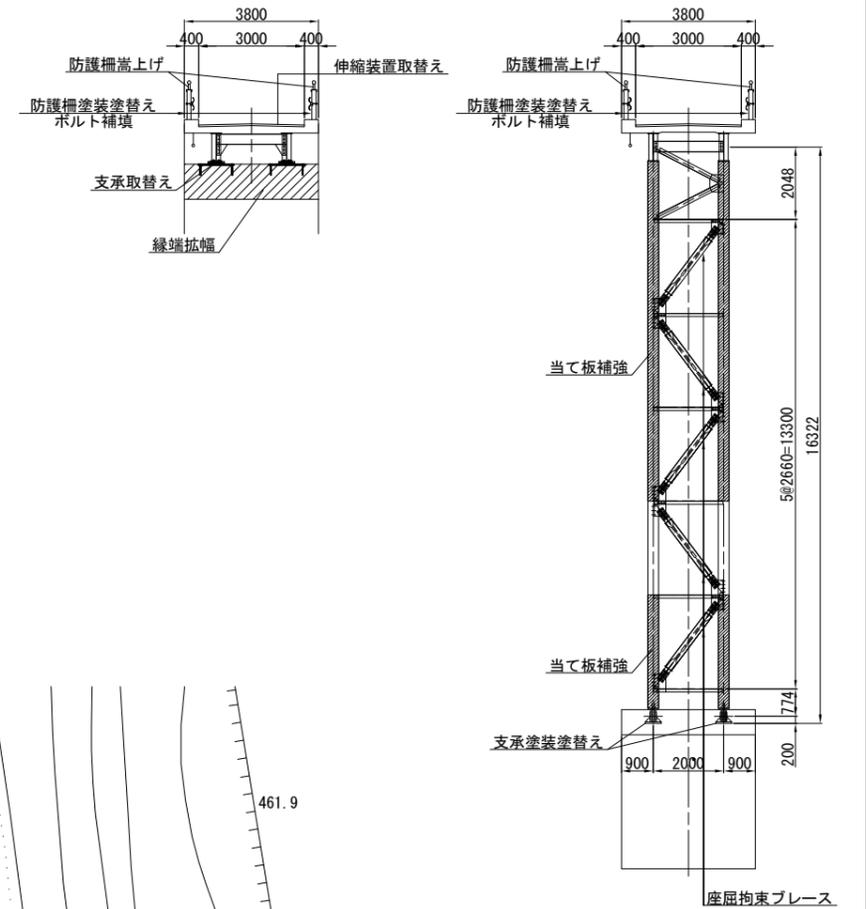
川津畑橋 補修・耐震補強一般図 S=1:200

側面図

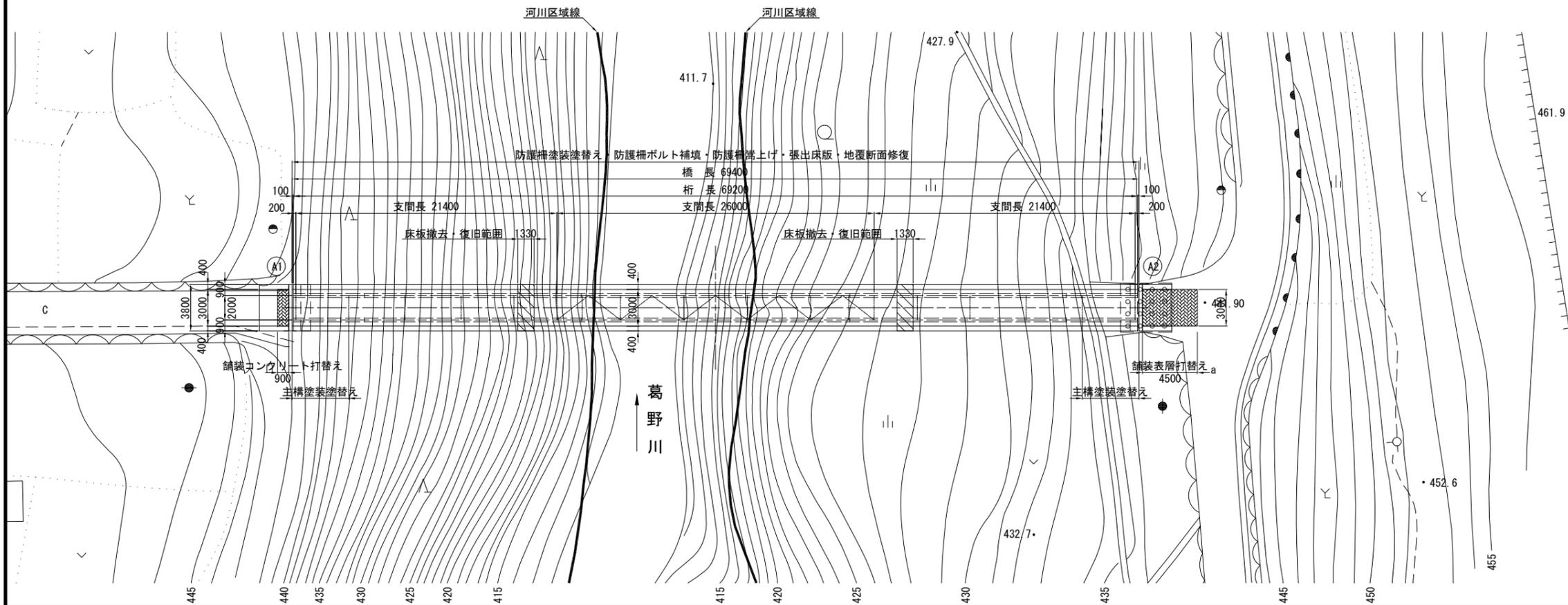


至 大月

断面図 S=1:100



平面図



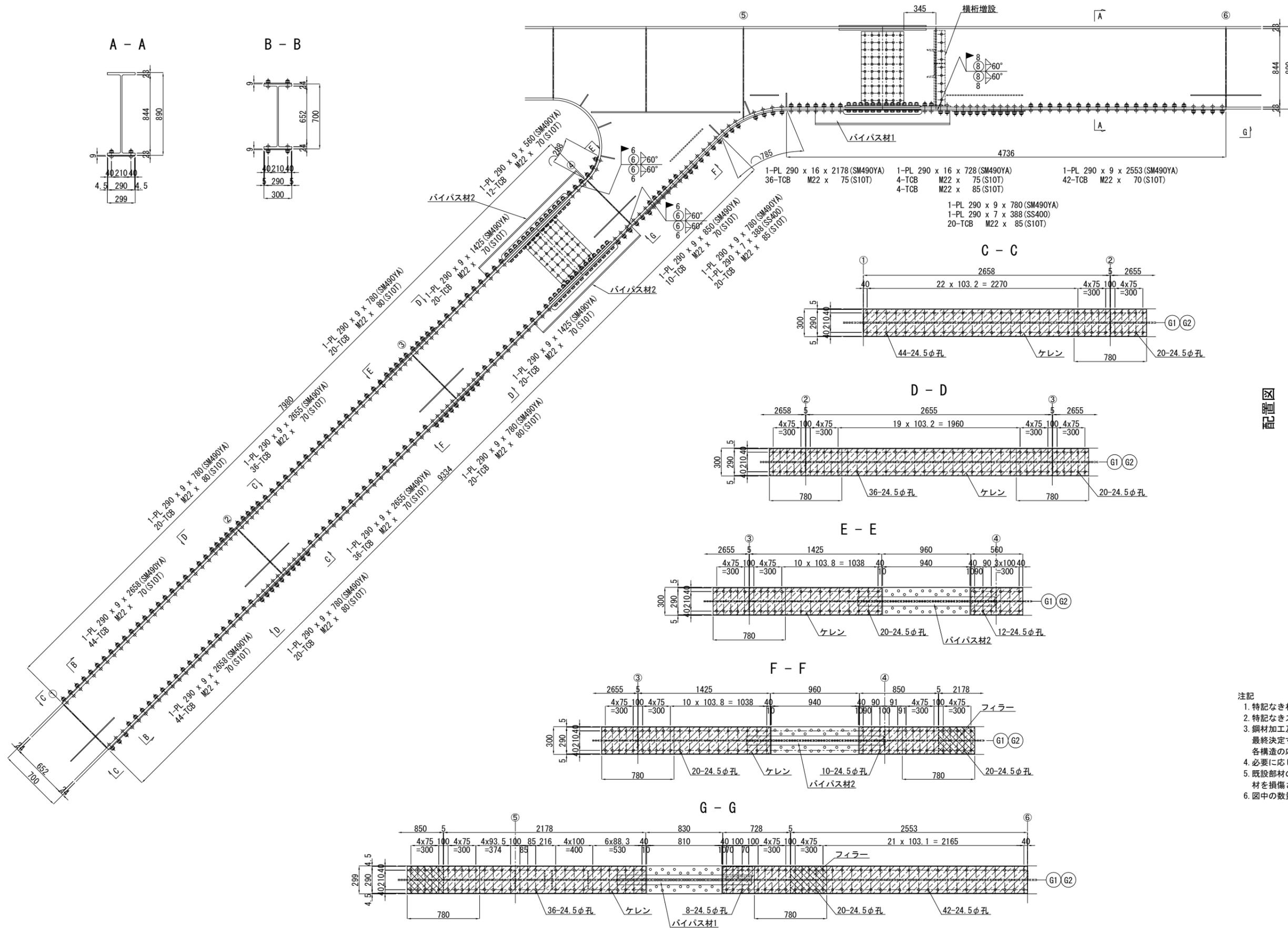
注記

1. 施工にあたっては、現地確認を行うこと。
2. 鋼材加工及びブラケットの取付位置等は、現地再調査の上、最終決定すること。寸法等を変更する場合は必要に応じて各構造の応力計算を行うこと。
3. 必要に応じて、不陸調整など実施すること。
4. 既設部材の撤去やグラインダー仕上げに際しては、既設部材を損傷させない様、十分に留意すること。
5. 下部工の施工にあたっては事前に鉄筋探査を行い、鉄筋を切らないよう留意すること。

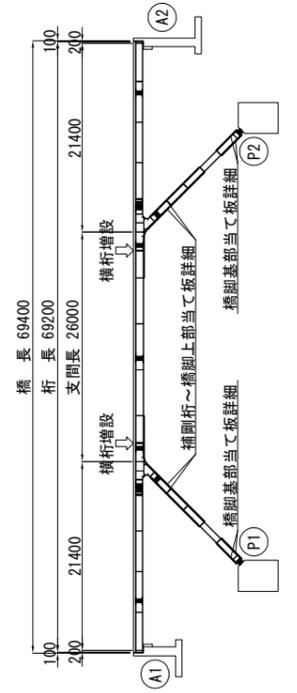
工事設計図			
工事番号		図面番号	1 / 1
路線名	川津畑橋(市道川津畑六ツ原線)		
工事箇所	大月市 七保町 瀬戸 地内		
図名	補修・耐震補強一般図	縮尺	S=1:200
測量	平成28年1月	枚数	4/35
測量者	株式会社 長大		

川津畑橋 当て板補強図 (その1) S=1:20

補剛桁~橋脚上部当て板詳細



配置図



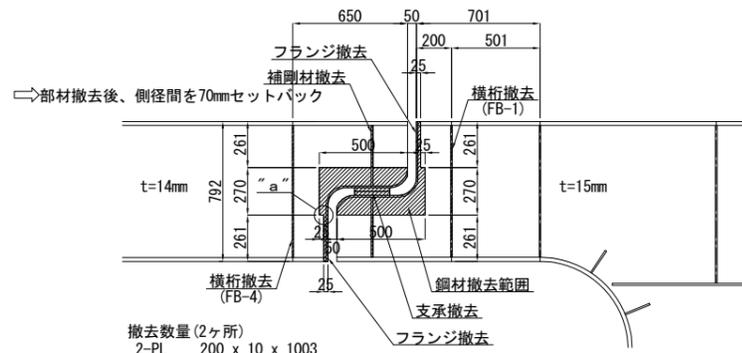
- 注記
1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
 2. 特記なきスカーリップは35Rとする。
 3. 鋼材加工及びブラケットの取付位置等は、現地再調査の上、最終決定すること。寸法等を変更する場合は必要に応じて各構造の応力計算を行うこと。
 4. 必要に応じて、不陸調整など実施すること。
 5. 既設部材の撤去やグラインダー仕上げに際しては、既設部材を損傷させない様、十分に留意すること。
 6. 図中の数量は、1カ所当たりとする。

工事設計図			
工事番号	図面番号	1 / 2	
路線名	川津畑橋(市道川津畑六ツ原線)		
工事箇所	大月市 七保町 瀬戸 地内		
図名	当て板補強図(その1)	縮尺	図示
測量	平成28年1月	枚数	5/35
測量者	株式会社 長大		

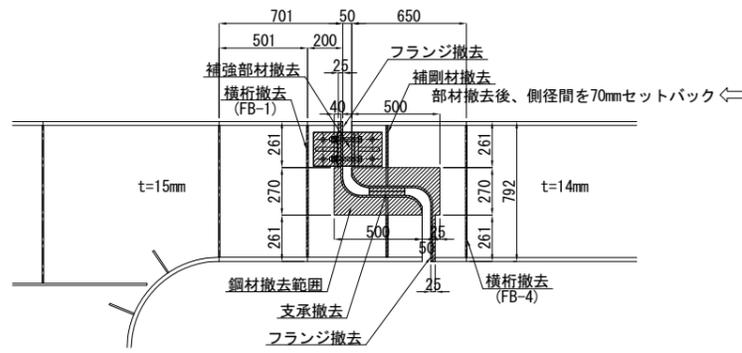
川津畑橋 ゲルバー部連結詳細図 S=1:20

補剛桁撤去詳細

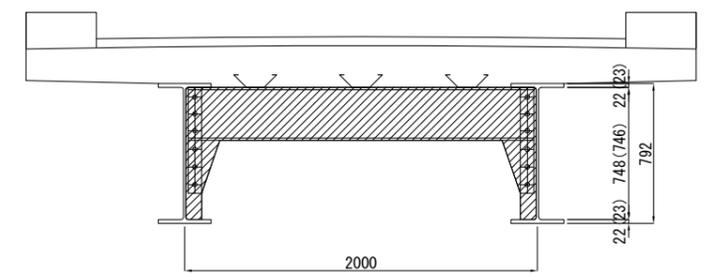
ゲルバー部連結①



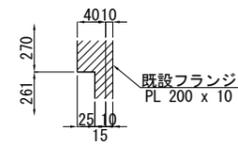
ゲルバー部連結②



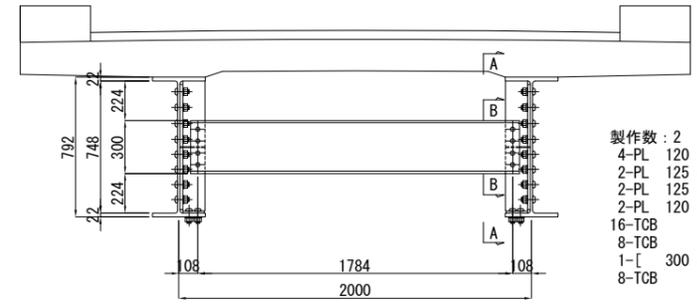
横桁撤去詳細



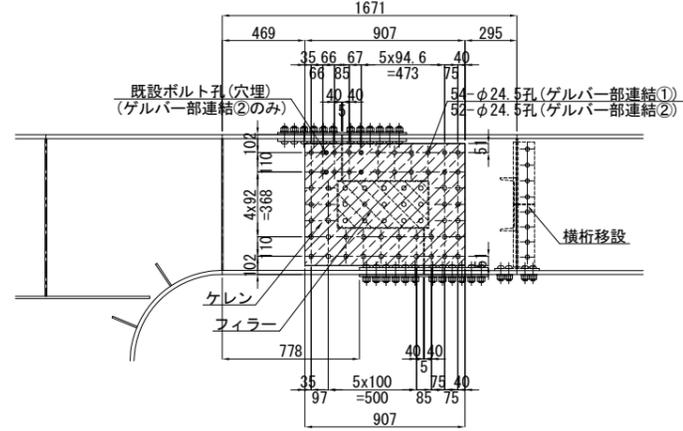
"a"部詳細 S=1:5



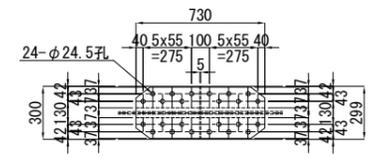
横桁移設詳細



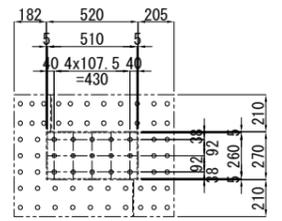
補剛桁連結詳細



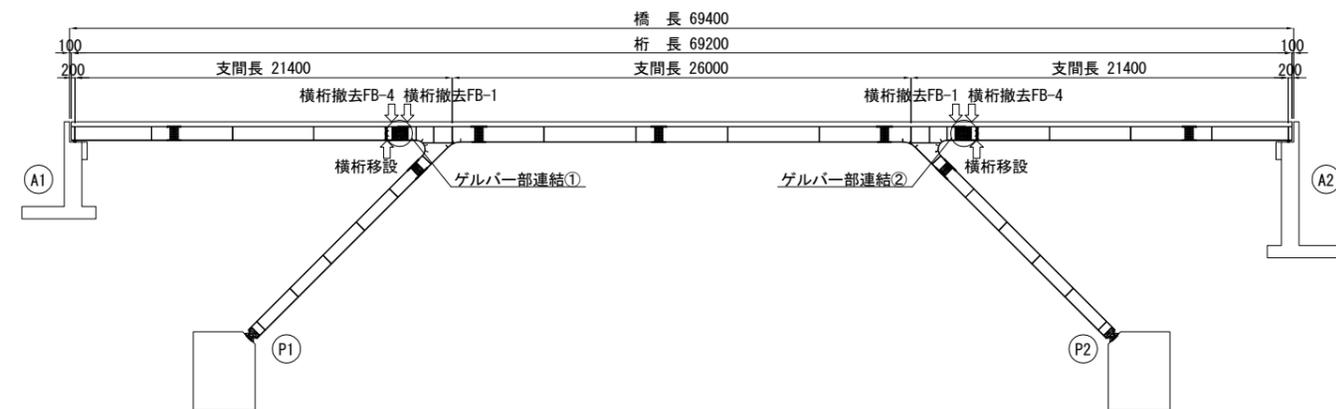
フランジ連結板詳細



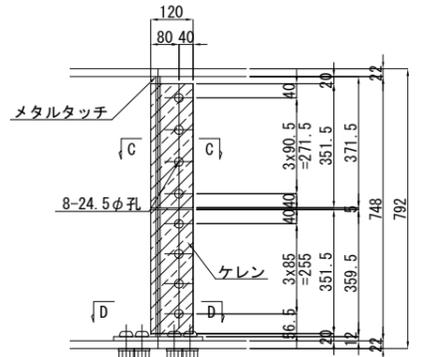
フィラープレート詳細



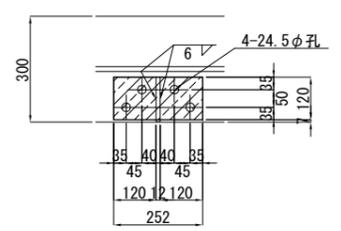
配置図



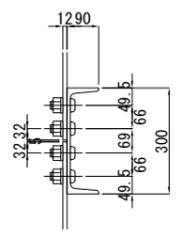
A-A S=1:10



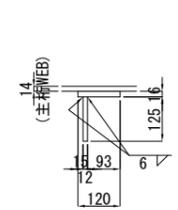
D-D S=1:10



B-B S=1:10



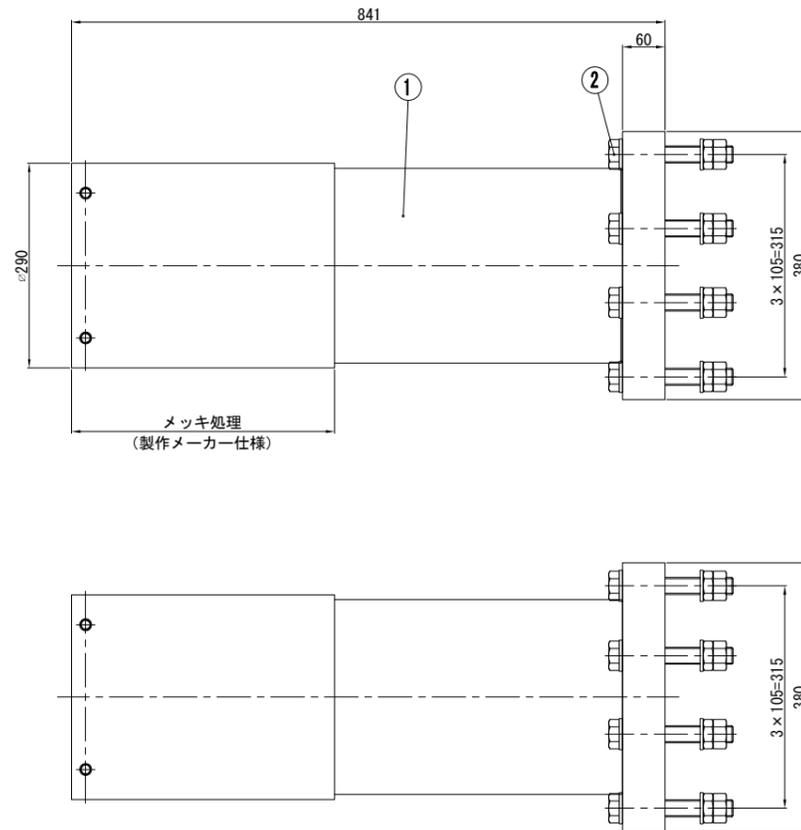
C-C S=1:10



注記

1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
2. 特記なきスカーラップは35Rとする。
3. 鋼材加工及びブラケットの取付位置等は、現地再調査の上、最終決定すること。寸法等を変更する場合は必要に応じて各構造の応力計算を行うこと。
4. 必要に応じて、不陸調整など実施すること。
5. 既設部材の撤去やグラインダー仕上げに際しては、既設部材を損傷させない様、十分に留意すること。

工事設計図			
工事番号	図面番号	1 / 1	
路線名	川津畑橋(市道川津畑六ツ原線)		
工事箇所	大月市 七保町 瀬戸 地内		
図名	ゲルバー部連結詳細図	縮尺	図示
測量	平成28年1月	枚数	7/35
測量者	株式会社 長大		



規格表

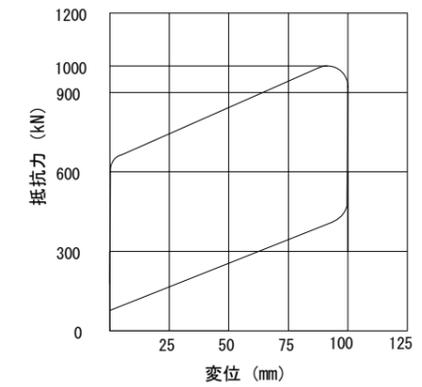
最大抵抗力	F	1000 kN
ストローク	δ	100 mm
L2地震時最大変位	δ_{\bullet}	51 mm

材料表

部番	部品名称	材質	個数	質量 (kg)	備考
1	免震ダンパー本体	-	1	344.1	
2	六角ボルト・ナット	-	12		JIS B 1180 (2-平座金)
				344.1	(kg)

注1) 防錆処理は、塗装仕様とする。
注2) ストロークは縮む側のみとする。

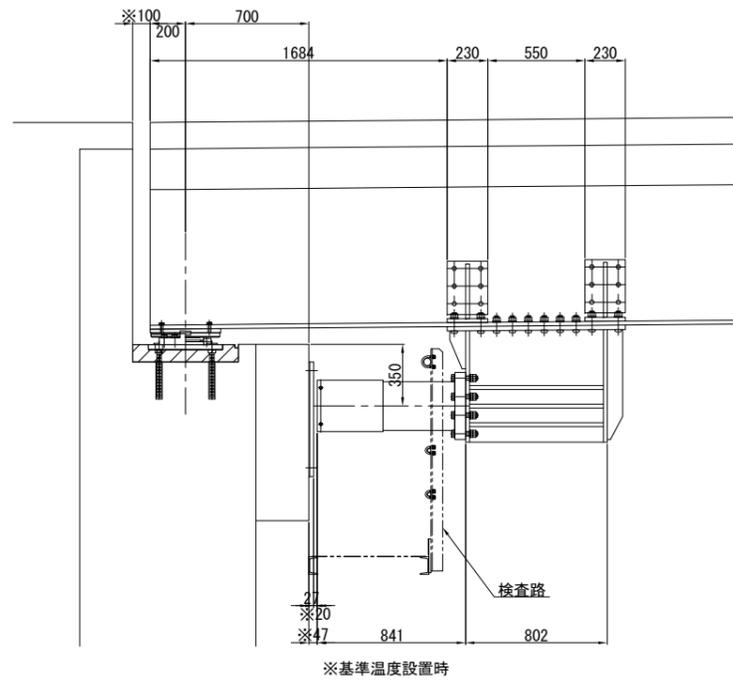
② 六角ボルト 中 M24×130 8.8
六角ナット M24 8 (1種、3種)
(2-平座金)



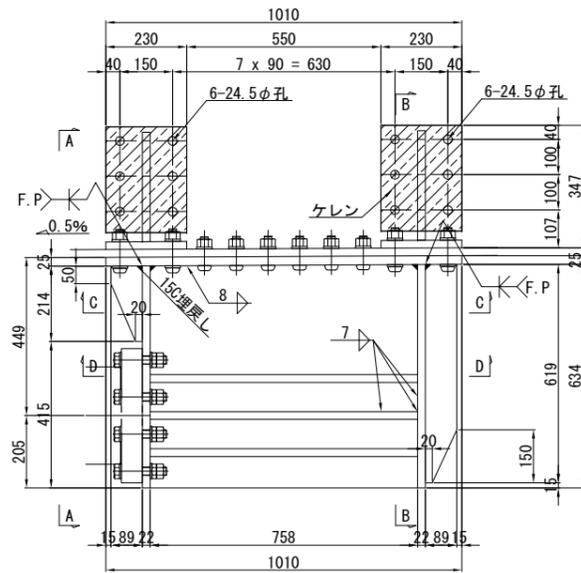
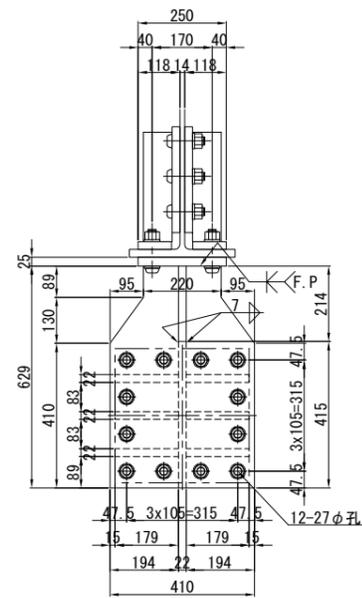
工事設計図			
工事番号		図面番号	1 / 1
路線名	川津畑橋(市道川津畑六ツ原線)		
工事箇所	大月市 七保町 瀬戸 地内		
図名	免震ダンパー構造図【参考図】	縮尺	S=1/5
測量	平成28年1月	枚数	8/35
測量者	株式会社 長大		

川津畑橋 免震ダンパーブラケット図 S=1:10

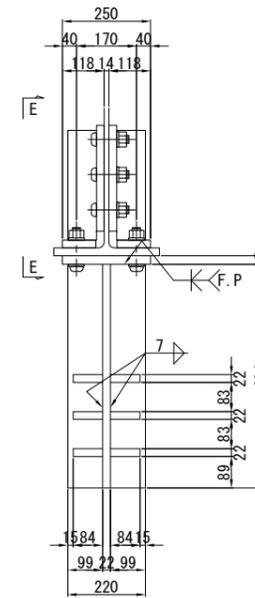
側面図



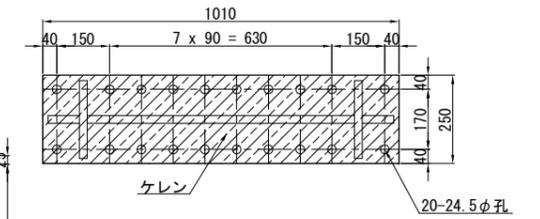
A - A



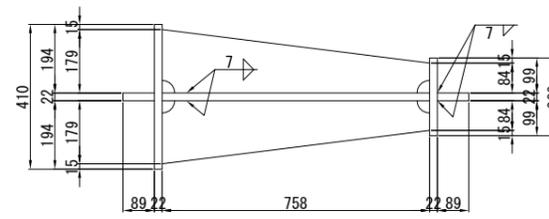
B - B



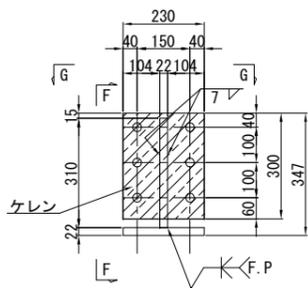
C - C



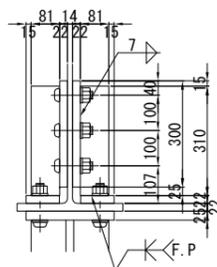
D - D



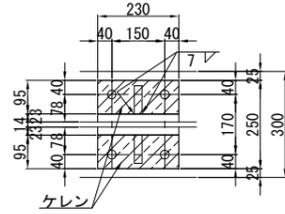
E - E



F - F



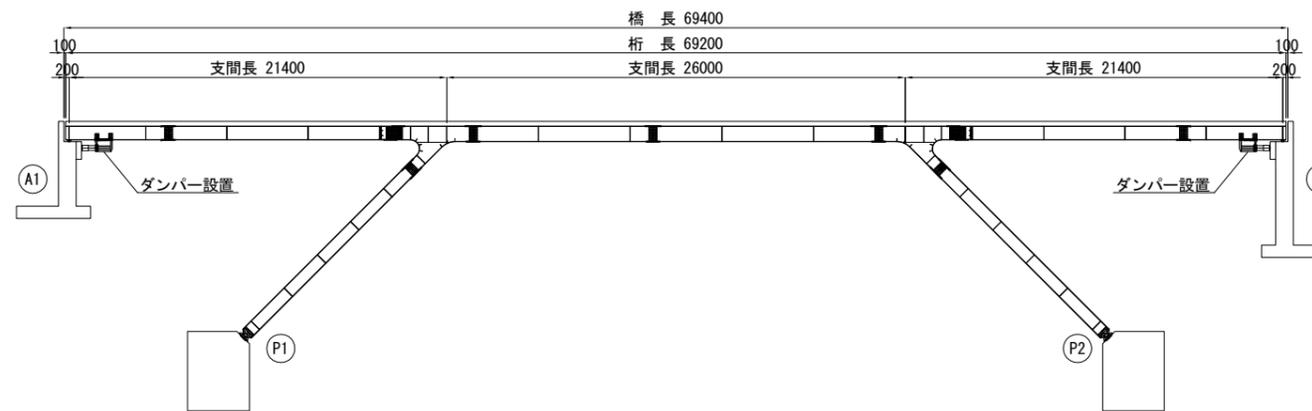
G - G



1箇所当たり数量
 製作数: 4

- 1 - BASE. PL 250 x 25 x 1010
- 1 - FLG. PL 410 x 22 x 629
- 1 - WEB. PL 758 x 22 x 634
- 1 - FLG. PL 220 x 22 x 634
- 1 - RIB. PL 89 x 22 x 214
- 1 - RIB. PL 89 x 22 x 619
- 6 - RIB. PL 179 x 22 x 758
- 8 - TCB M22 x 110 (2-W) (S10T)
- 12 - TCB M22 x 85 (S10T)
- 4 - BASE. PL 95 x 22 x 230
- 4 - FLG. PL 230 x 22 x 300
- 4 - WEB. PL 81 x 22 x 310
- 12 - TCB M22 x 95 (S10T)

配置図



注記

1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
2. 特記なきスカーラップは35Rとする。
3. 鋼材加工及びブラケットの取付位置等は、現地再調査の上、最終決定すること。寸法等を変更する場合は必要に応じて各構造の応力計算を行うこと。
4. 必要に応じて、不陸調整など実施すること。

工事設計図

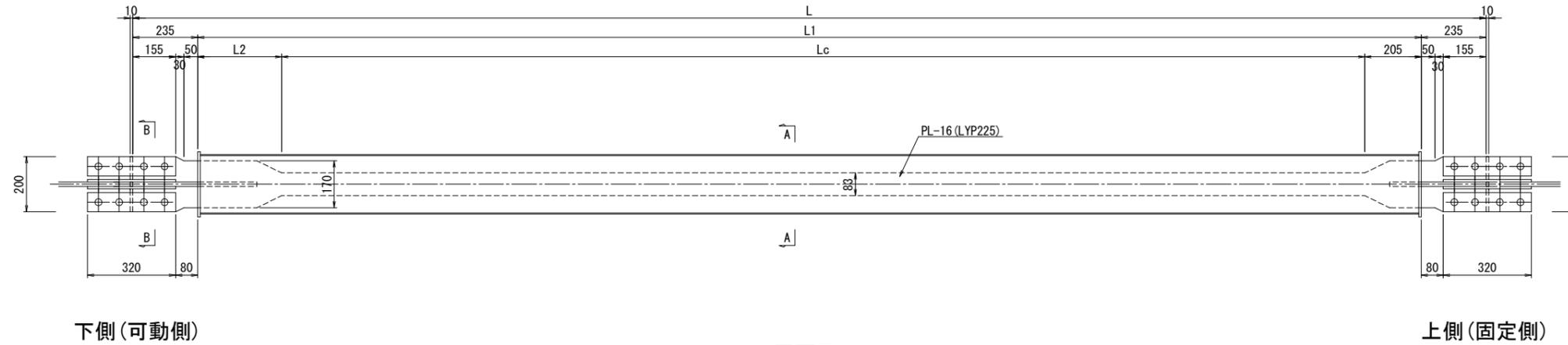
工事番号	図面番号	1 / 1
路線名	川津畑橋(市道川津畑六ツ原線)	
工事箇所	大月市 七保町 瀬戸 地内	
図名	縮尺	S=1:10
測量	平成28年1月	枚数 9/35
測量者	株式会社 長大	

川津畑橋 座屈拘束ブレース構造図

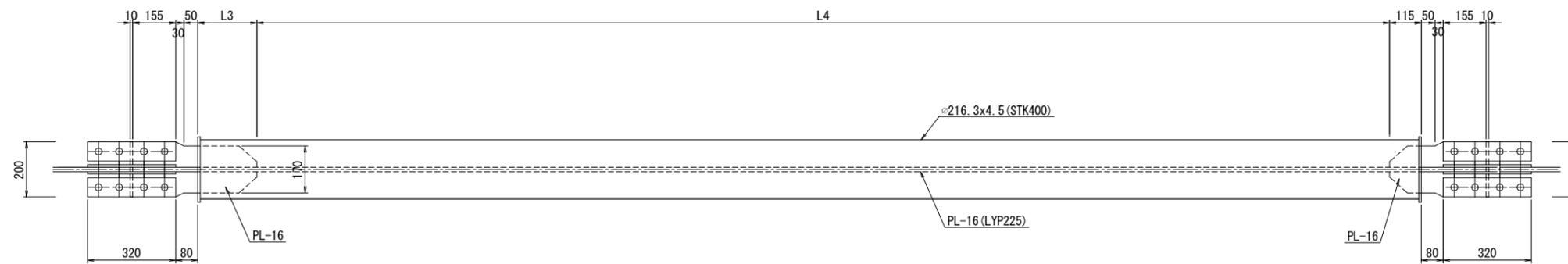
S=1:10

【参考図】

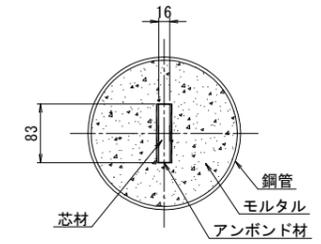
側面図



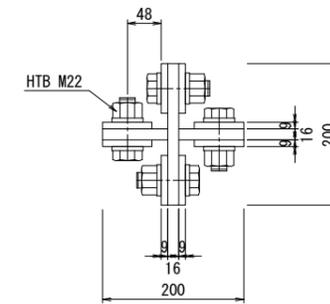
平面図



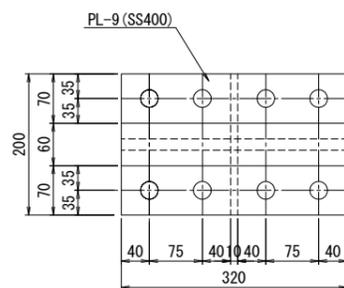
A - A s=1:5



B - B s=1:5



継手部詳細 s=1:5



1箇所当り
8-SPL PL 70 x 9 x 320 (SS400)
16-HTB M22 x 75 (F10T)

座屈拘束ブレースの諸元および寸法

種別	規格・寸法
製作数本	10
降伏耐力 kN	300
一次剛性 kN/mm	156.6
二次剛性 kN/mm	3.132
L	2400
L1	1930
L2	255
Lc	1470
L3	165
L4	1650

注記)

- 特記なき材質はSM400Aとする。
- 特記なきボルト孔はφ24.5とする。
- 部材寸法は現地計測結果を反映すること。
- 表記の降伏軸力はLYP225の降伏応力強度が225N/mm²で、静的な軸力が作用した時に実現できる。
- 本橋は図面に明示する座屈拘束ブレースの仕様にもとづき、橋梁全体での耐震性能を動的解析により検証している。図面と異なる履歴特性（軸降伏力・二次剛性）や重量の異なる座屈拘束ブレースを使用する場合は、再度動的解析にて検証し、各種部材の発生応力や変位、支承耐力など橋梁全体の安全性を確認する必要がある。
- 防錆仕様は、溶融亜鉛メッキHDZ55 (550g/m²以上)とする。ただし、継手材（添接板、高力ボルト）は塗装仕様とする。
- 現場継手部のみ材料を計上。

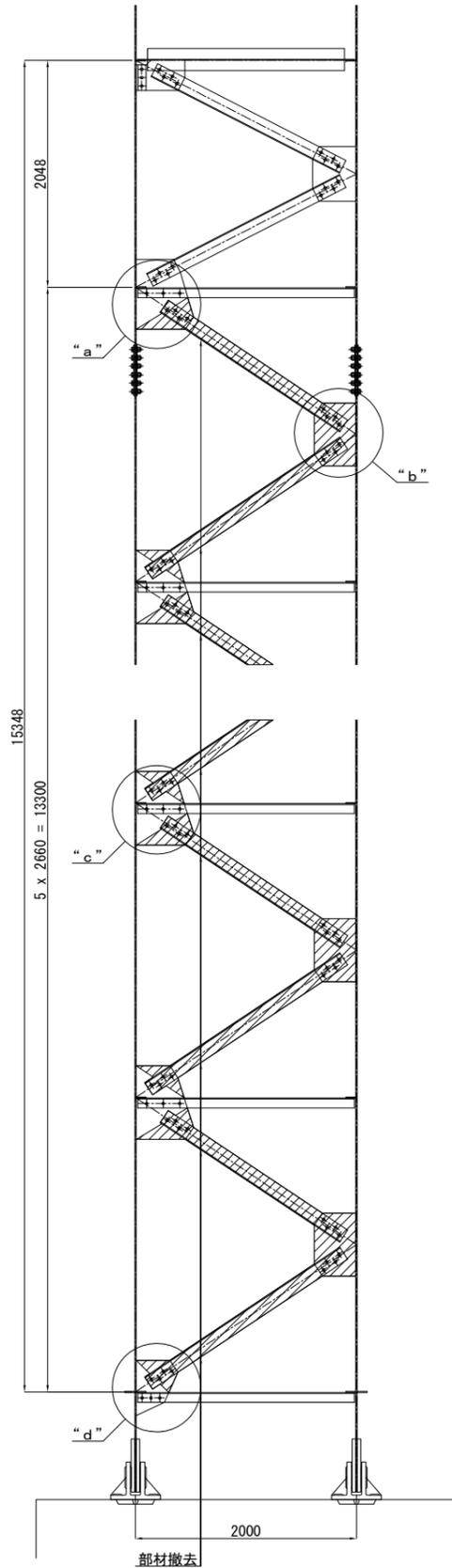
工事設計図

工事番号	図面番号	1 / 1
路線名	川津畑橋(市道川津畑六ツ原線)	
工事箇所	大月市 七保町 瀬戸 地内	
図名	座屈拘束ブレース構造図【参考図】	縮尺 図示
測量	平成28年1月	枚数 10/35
測量者	株式会社 長大	

川津畑橋 座屈拘束ブレース取付図 (その1)

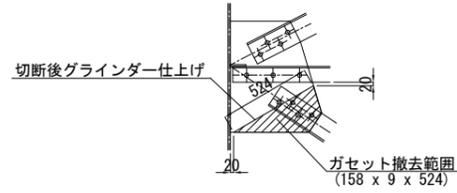
S=1:30

既設部材撤去 P1・P2

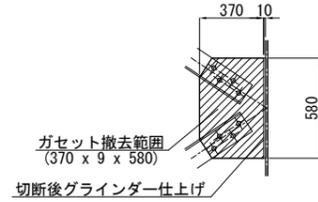


対傾構撤去数量(箇所数: 2)
 5-L 130 x 130 x 9 x 1950
 5-L 130 x 130 x 9 x 2120
 80-HTB W7/8 x 60

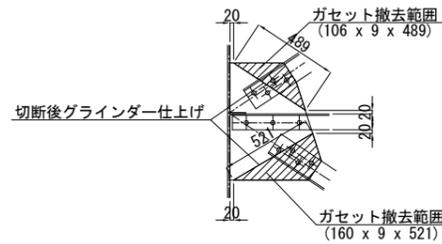
“a”部詳細 S=1:20 箇所数: 2



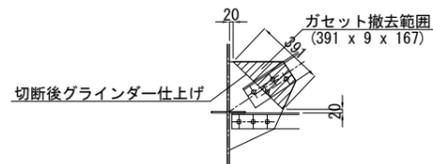
“b”部詳細 S=1:20 箇所数: 10



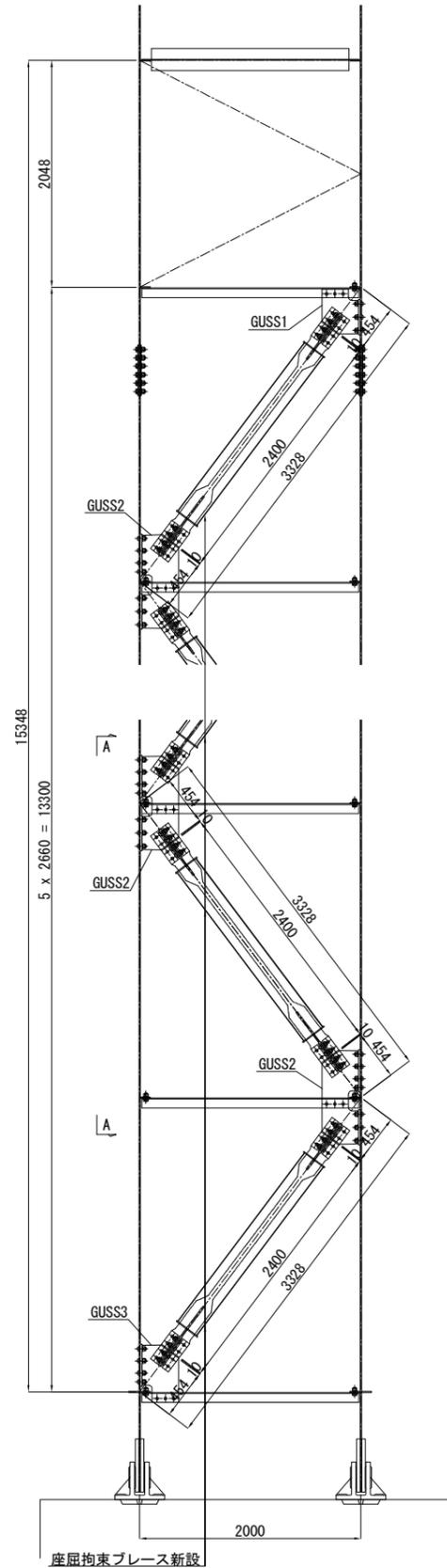
“c”部詳細 S=1:20 箇所数: 8



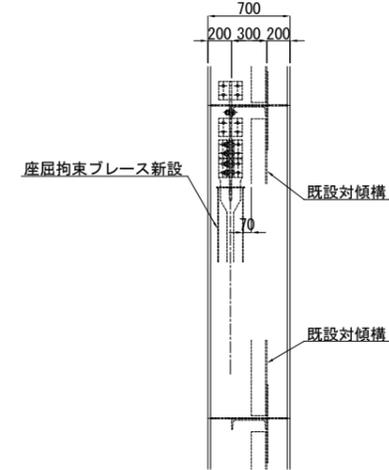
“d”部詳細 S=1:20 箇所数: 2



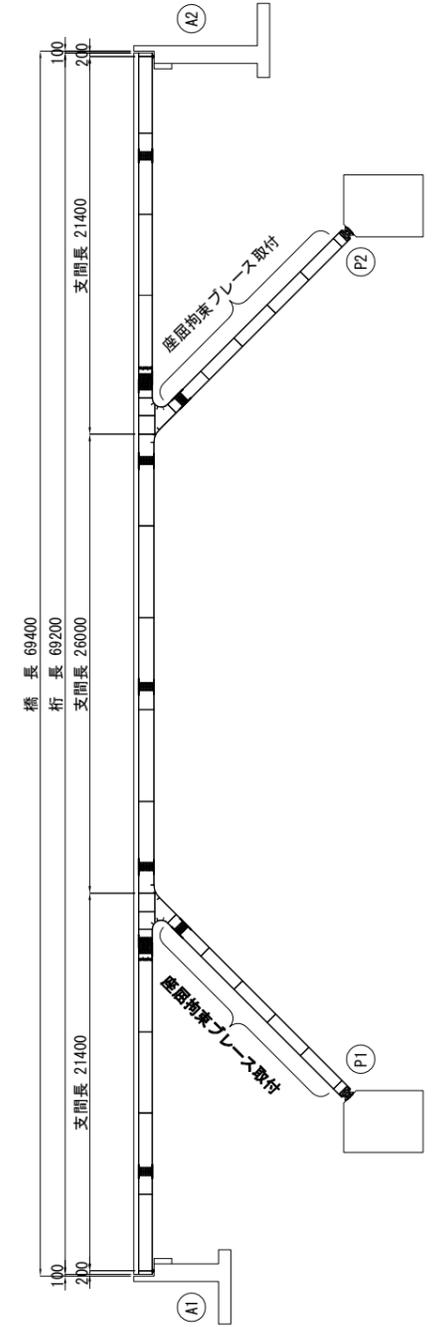
新設ブレース材追加 P1・P2



A - A



配置図



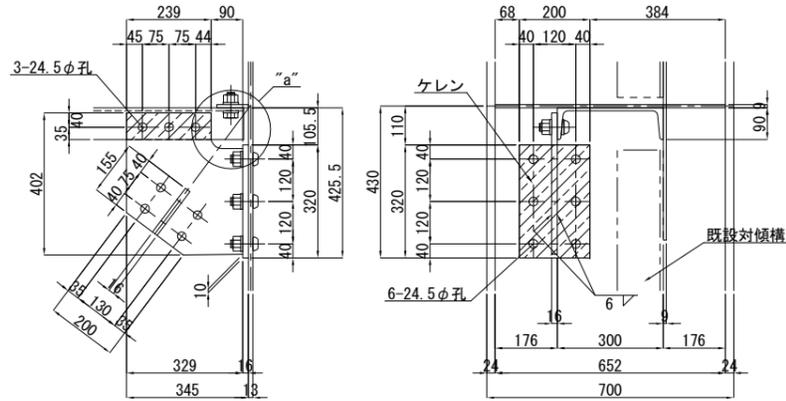
注記

1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
2. 特記なきスカーラップは35Rとする。
3. 鋼材加工及びブラケットの取付位置等は、現地再調査の上、最終決定すること。寸法等を変更する場合は必要に応じて各構造の応力計算を行うこと。
4. 必要に応じて、不陸調整など実施すること。
5. 既設部材の撤去やグラインダー仕上げに際しては、既設部材を損傷させない様、十分に留意すること。
6. 既設部材の撤去は、座屈拘束ブレースの設置後に行うこと。

工事設計図			
工事番号	図面番号	1 / 2	
路線名	川津畑橋(市道川津畑六ツ原線)		
工事箇所	大月市 七保町 瀬戸 地内		
図名	座屈拘束ブレース取付図(その1)	縮尺	図示
測量	平成28年1月	枚数	11/35
測量者	株式会社 長大		

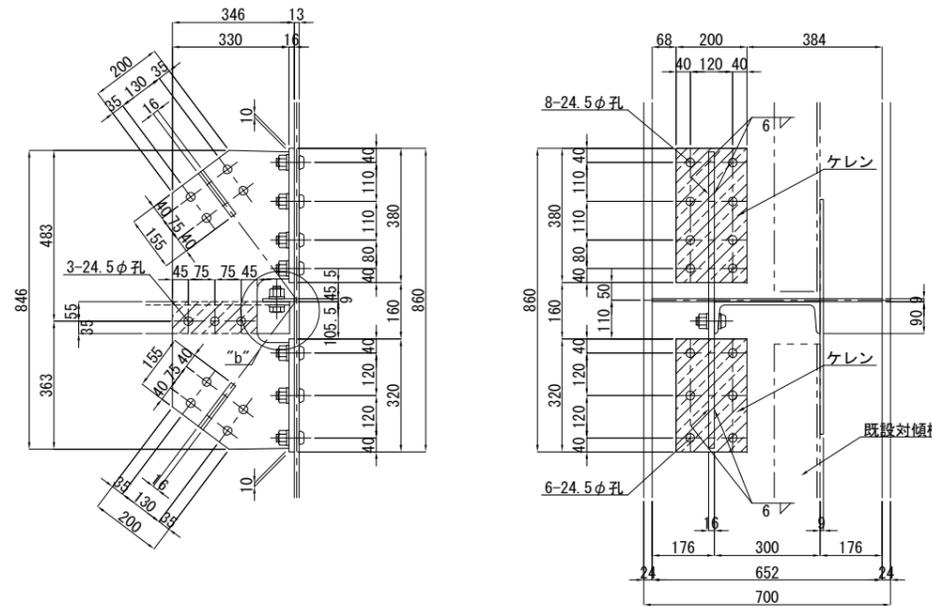
川津畑橋 座屈拘束ブレース取付図 (その2) S=1:10

GUSS1



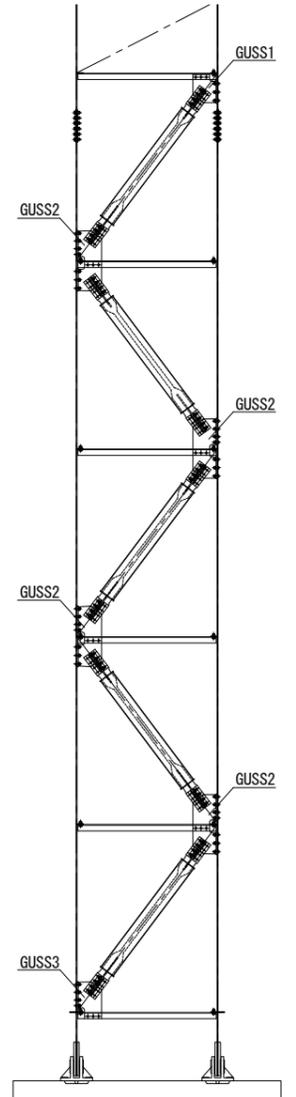
- 箇所数 : 2
 1-PL 329 x 16 x 402
 1-PL 200 x 16 x 320
 2-PL 92 x 16 x 155
 3-TCB M22 x 70 (S10T)
 3-TW M22 (5°) (SS400)
 6-TCB M22 x 65 (S10T)

GUSS2

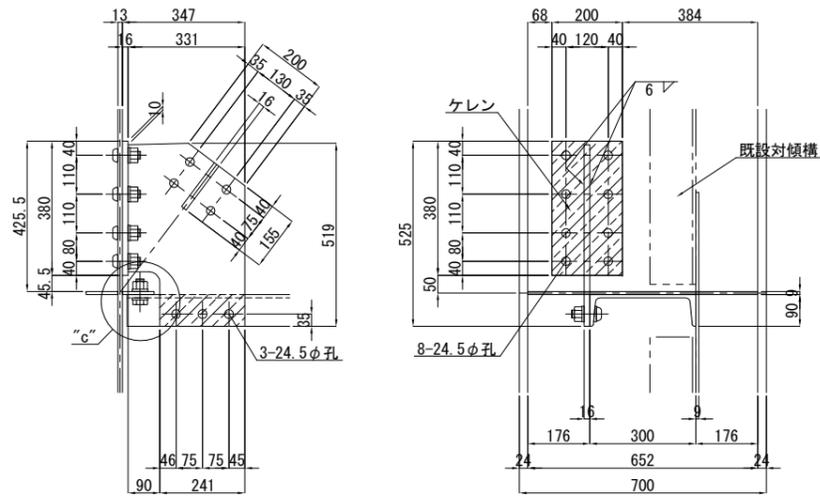


- 箇所数 : 8
 1-PL 330 x 16 x 846
 1-PL 200 x 16 x 320
 1-PL 200 x 16 x 380
 4-PL 92 x 16 x 155
 3-TCB M22 x 70 (S10T)
 3-TW M22 (5°) (SS400)
 14-TCB M22 x 65 (S10T)

配置図

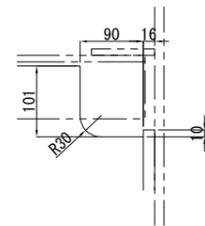


GUSS3

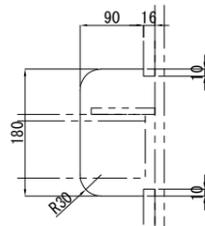


- 箇所数 : 2
 1-PL 331 x 16 x 519
 1-PL 200 x 16 x 380
 2-PL 92 x 16 x 155
 3-TCB M22 x 70 (S10T)
 3-TW M22 (5°) (SS400)
 8-TCB M22 x 65 (S10T)

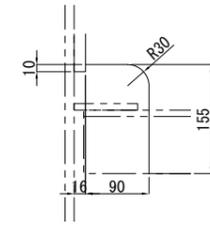
"a"部詳細 s=1:5



"b"部詳細 s=1:5



"c"部詳細 s=1:5



- 注記
 1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
 2. 特記なきスカーラップは35Rとする。
 3. 鋼材加工及びブラケットの取付位置等は、現地再調査の上、最終決定すること。寸法等を変更する場合は必要に応じて各構造の応力計算を行うこと。
 4. 必要に応じて、不陸調整など実施すること。
 5. 既設部材の撤去やグラインダー仕上げに際しては、既設部材を損傷させない様、十分に留意すること。
 6. 既設部材の撤去は、座屈拘束ブレースを設置後に行うこと。

工事設計図	
工事番号	図面番号 2 / 2
路線名	川津畑橋(市道川津畑六ツ原線)
工事箇所	大月市 七保町 瀬戸 地内
図名	座屈拘束ブレース取付図(その2) 縮尺 図示
測量	平成28年1月 枚数 12/35
測量者	株式会社 長大

川津畑橋 支承詳細図

(A1) (A2) 可動ゴム支承装置 (弾性荷重支持板)

設計条件

反力 (kN)		A1_A2	
最大反力	Rmax	260	
最大反力 (回転照査用)	Rmax2	258	
死荷重反力	RD	147	
照査荷重	R1L	57	
最大水平力	橋軸方向	RHeq1	26
	橋軸直角方向	RHeq2	440
	サイドブロック	RHeq3	440
上向きの地震力	Ru	-302	
変位量 (mm)			
照査荷重時の変位量	δ_{cL}	0.317	
回転変位量	δ_r	0.483	
水平変位量	常時・橋軸方向	$\Delta L1$	24
	地震時・橋軸方向	$\Delta Le1$	110
	地震時・橋軸直角方向	$\Delta Le2$	-
性能			
ゴムの種類及び呼び	材料・G	NR・G10	
圧縮ばね定数 (kN/mm)	Kv	180	
試験変位量	せん断ひずみ (%)	γ_S	-
	変位量 (mm)	UB	-

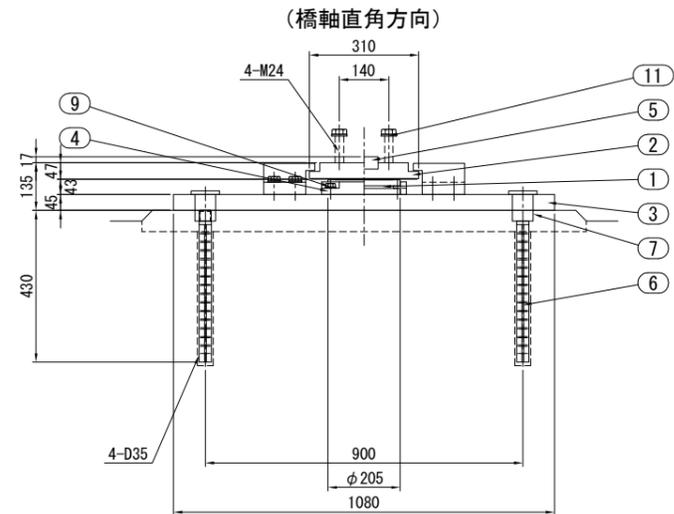
材料表 (1組当り)

部番	部品名称	材質	個数	重量(kg)	備考
1	弾性荷重支持板	NR, SS400, PTFE	1	7.7	HiPS-400
2	スライディングプレート	SM490A, SUS316	1	45.0	
3	下咨	SM490A	1	186.0	
4	ストッパープレート	SM490A or SCW480N	1	8.6	
5	せん断キー	SM490A or S35CN	1	1.4	上 用
6	アンカーボルト	SD345	4	12.9	
7	カップラー	S45CN	4	6.6	
8	サイドブロック	SM490A or SCW480N	2	40.1	
9	ストッパーボルト, ワッシャー	強度区分 8.8	4	0.4	
10	サイドブロックボルト, ワッシャー	強度区分 8.8	16	3.4	
11	桁取付ボルト, ワッシャー	強度区分 8.8	4	1.5	
				合計	313.6 (kg)

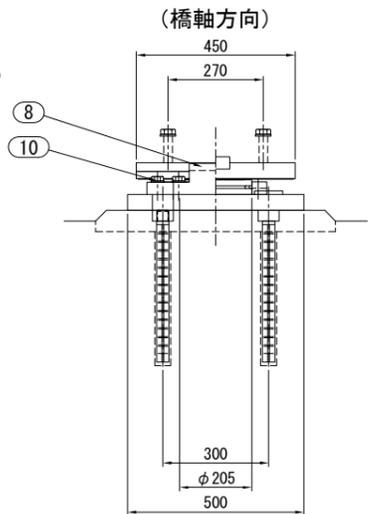
- ※1 道路橋支承便覧準拠。
- ※2 使用材料は道路橋支承便覧2.9に適合。
- ※3 部番を○で囲んだ部品は溶融亜鉛めっきとする。
JIS H 8641 HDZ55、ボルト類はHDZ35とする。
- ※4 ゴム支承の重量は施工上の参考重量を示す。
- ※5 製作・施工に必要なアイボルト穴は適宜設けること。
- ※6 必要なアイボルト本数は協議して決定すること。

- 9 ストッパーボルト, ワッシャー M16 x 35 強度区分 8.8
- 10 サイドブロックボルト, ワッシャー M20 x 55 強度区分 8.8
- 11 桁取付ボルト, ワッシャー M24 x 70 強度区分 8.8

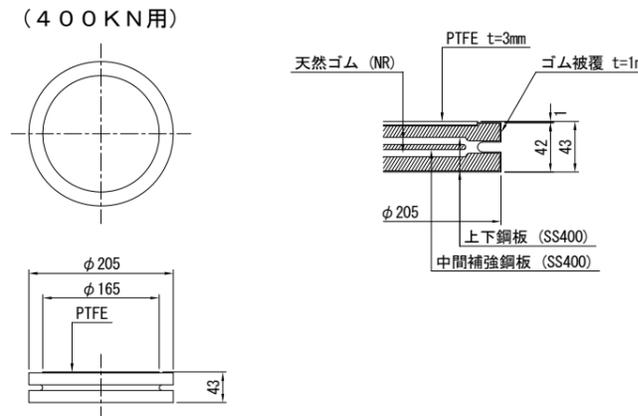
断面図 S=1:10 (橋軸直角方向)



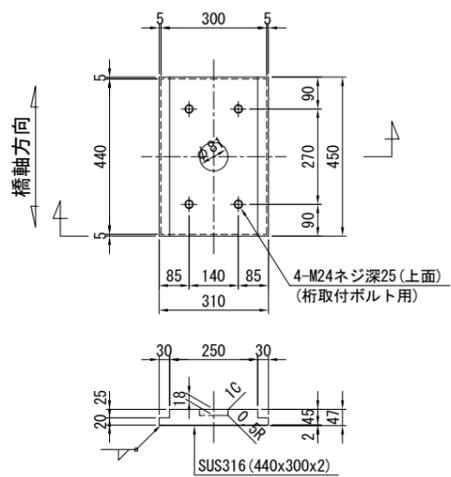
側面図 S=1:10 (橋軸方向)



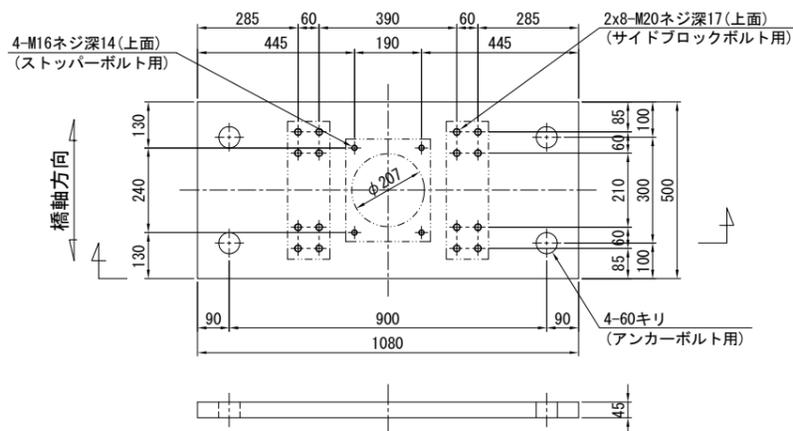
① 弾性荷重支持板 S=1:5 荷重支持板詳細図 S=1:3 (400kN用)



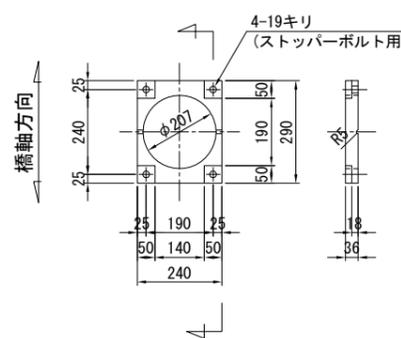
② スライディングプレート S=1:10



③ 下咨 S=1:10



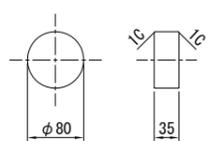
④ ストッパープレート S=1:10



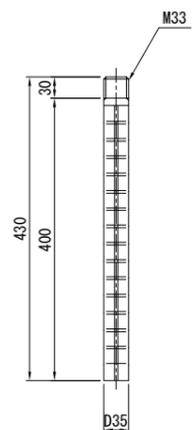
水切り溝詳細図 S=1:2



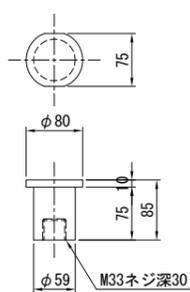
⑤ せん断キー S=1:5 上 用



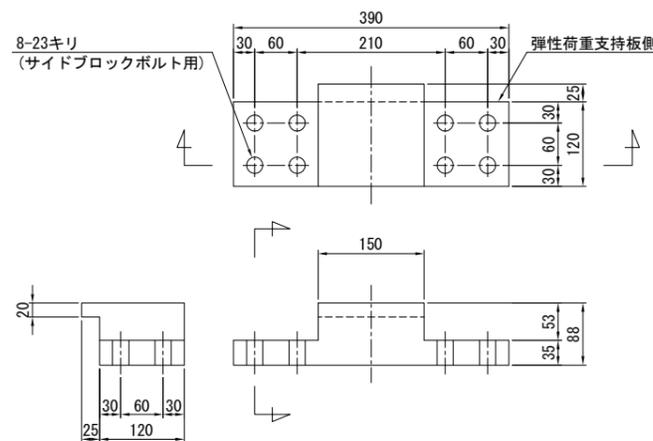
⑥ アンカーボルト S=1:5



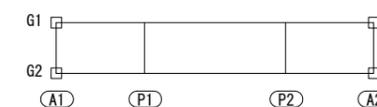
⑦ カップラー S=1:5



⑧ サイドブロック S=1:5



位置図

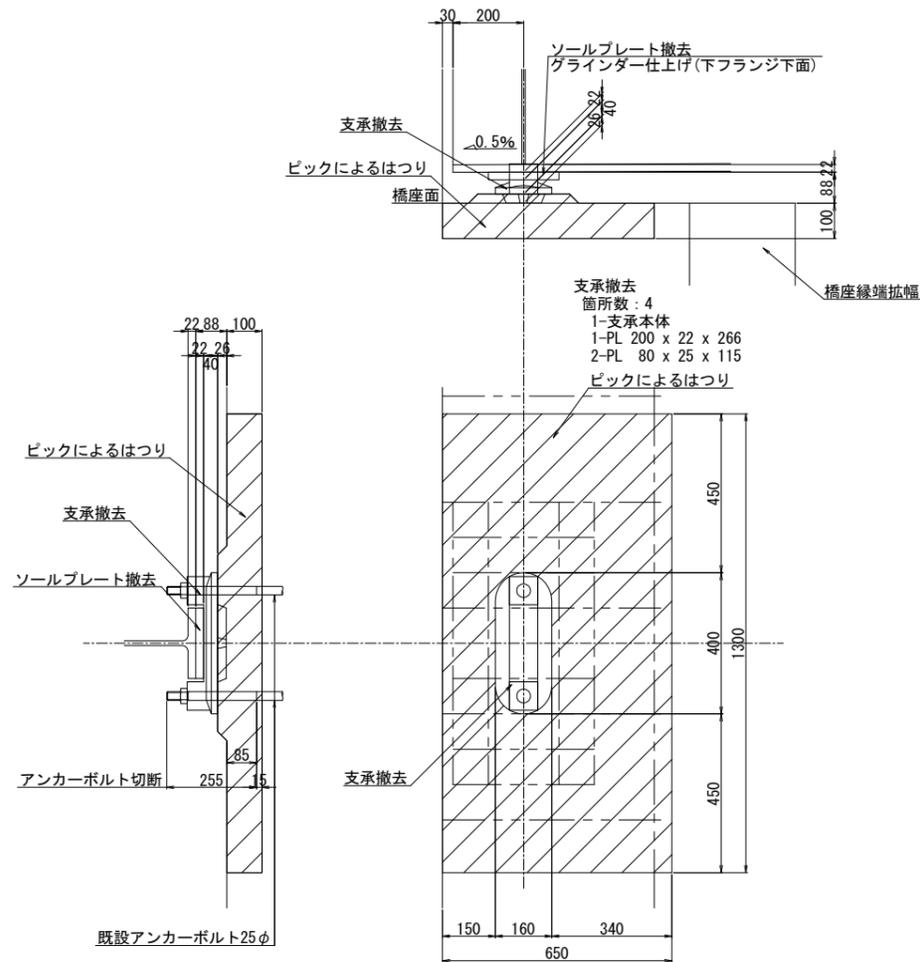


工事設計図	
工事番号	図面番号 1 / 1
路線名	川津畑橋(市道川津畑六ツ原線)
工事箇所	大月市 七保町 瀬戸 地内
図名	支承詳細図 縮尺 図示
測量	平成28年1月 枚数 13/35
測量者	株式会社 長大

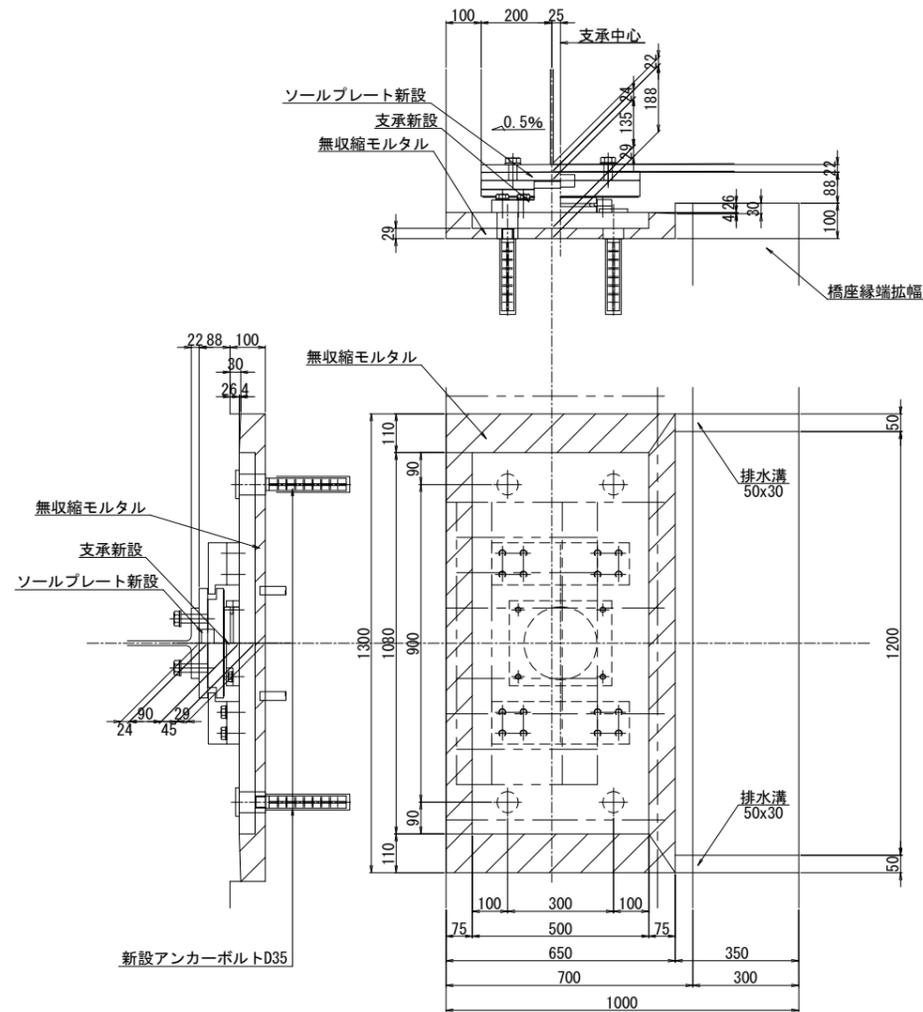
川津畑橋 端支点支承取替詳細図 S=1:10

A1, A2橋台

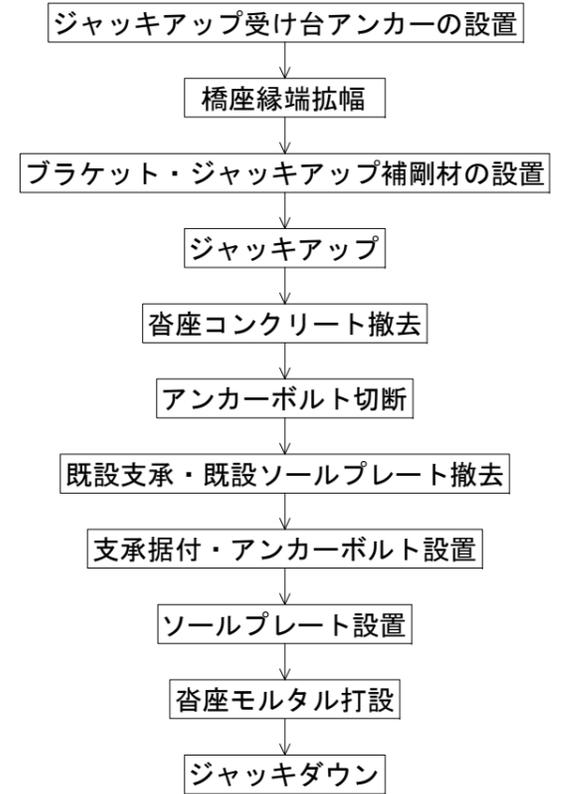
既設支承撤去詳細



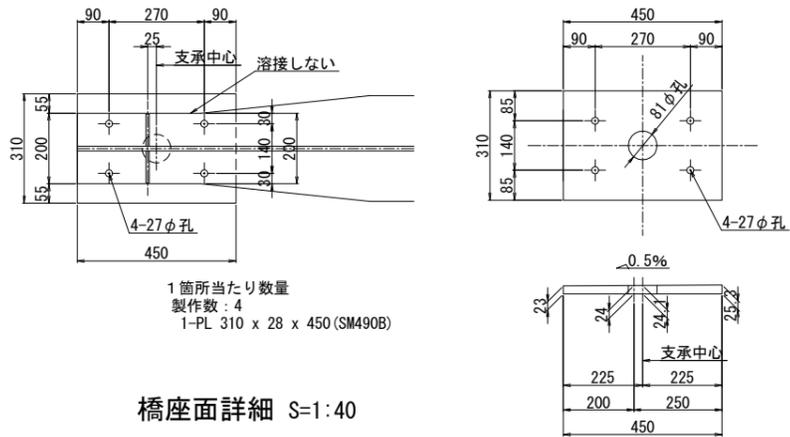
支承設置詳細



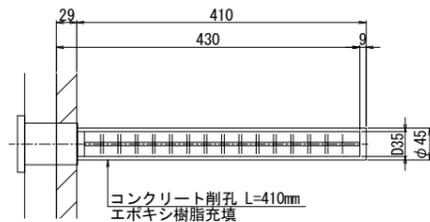
施工順序



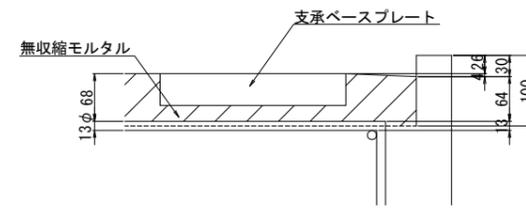
ソールプレート詳細



アンカ孔詳細 S=1:5



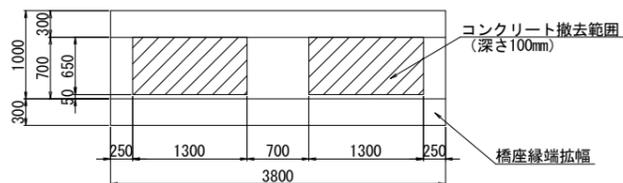
橋座部かぶり詳細 S=1:5



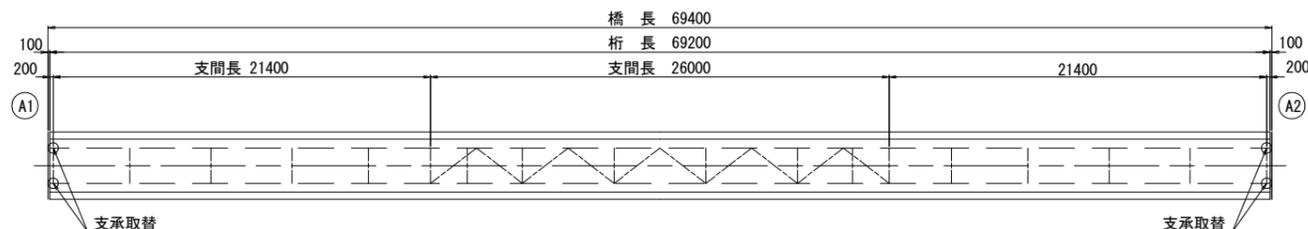
注記

1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
2. 特記なきスカーラップは35Rとする。
3. 鋼材加工及びブラケットの取付位置等は、現地再調査の上、最終決定すること。寸法等を変更する場合は必要に応じて各構造の応力計算を行うこと。
4. 既設部材の撤去やグラインダー仕上げに際しては、既設部材を損傷させない様、十分に留意すること。
5. 下部工の施工にあたっては事前に鉄筋探査を行い、鉄筋を切らないよう留意すること。
6. 必要に応じて、不陸調整など実施すること。
7. 既存支承モルタル撤去後は、チッピング処理を行い新設モルタルを充填すること。
8. 沓座モルタルには、滞水を防ぐため、4mmの排水勾配を設ける事。

橋座面詳細 S=1:40



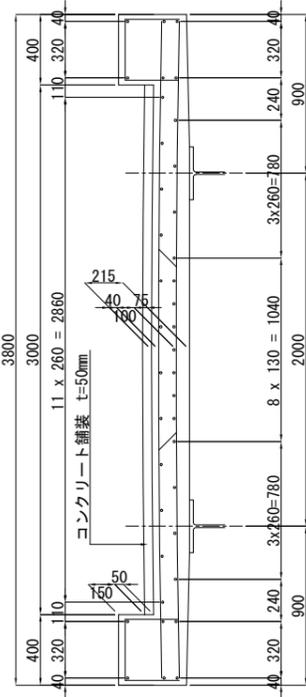
配置図



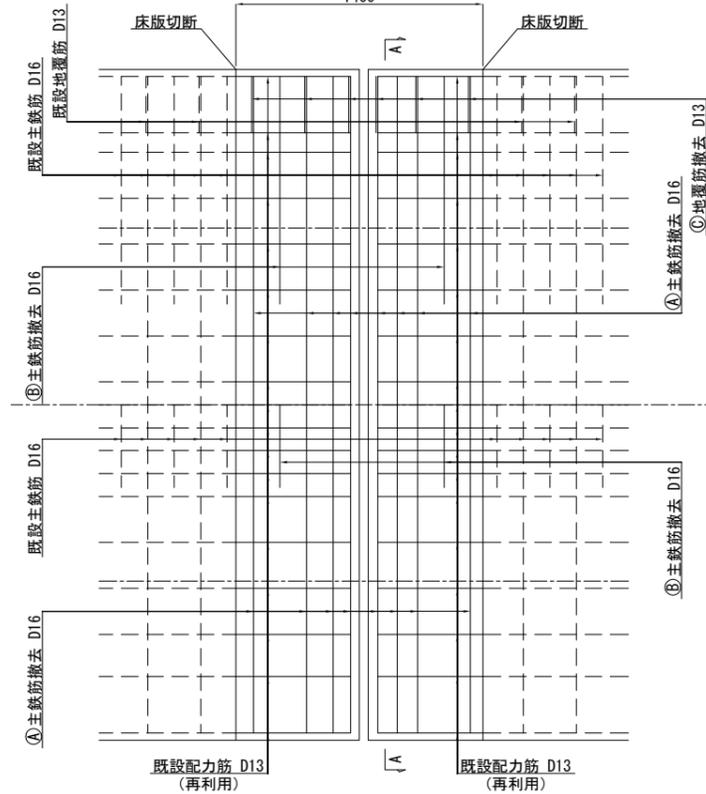
工事設計図			
工事番号	図面番号	1 / 1	
路線名	川津畑橋(市道川津畑六ツ原線)		
工事箇所	大月市 七保町 瀬戸 地内		
図名	端支点支承取替詳細図	縮尺	図示
測量	平成28年1月	枚数	14/35
測量者	株式会社 長大		

川津畑橋 ゲルバー部床版連続化詳細図 S=1:20

A-A 既設床版

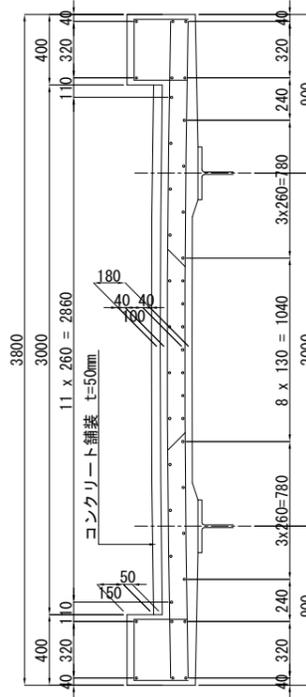


上版
下版

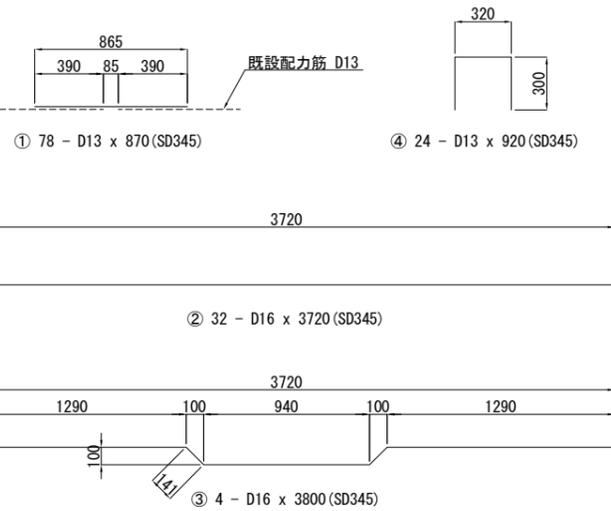
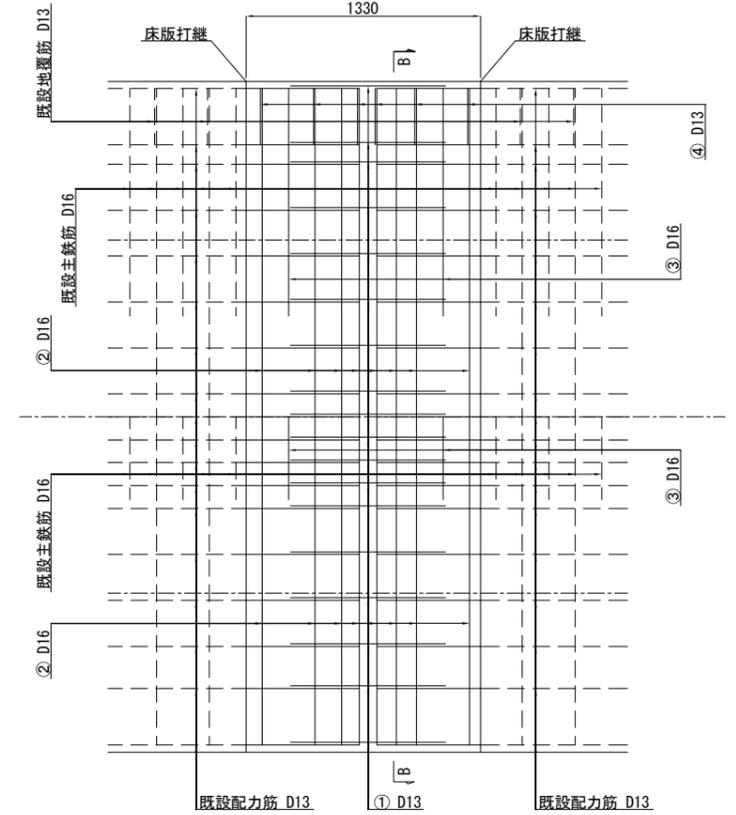


舗装コンクリート撤去数量 : 0.5 m³
床版コンクリート撤去数量 : 2.4 m³

B-B 床版連続化後



上版
下版



鉄筋表

記号	径	長さ	本数	単位質量	1本当り質量	質量	摘要
①	D13	870	78	0.995	0.866	68	—
②	D16	3720	32	1.56	5.80	186	—
③	D16	3800	4	1.56	5.93	24	—
④	D13	920	24	0.995	0.92	22	□

合計 300 Kg

D16 — 210 Kg
D13 — 90 Kg

コンクリート体積 2.9 m³ (超速硬コンクリート σ_{ck}=24N/mm²)
木製型枠面積 11.6 m²

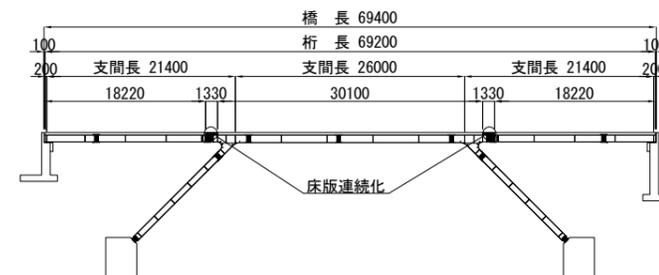
鉄筋撤去数量

記号	径	長さ	本数	単位質量	1本当り質量	質量	摘要
Ⓐ	D16	3720	32	1.56	5.80	186	—
Ⓑ	D16	3800	4	1.56	5.93	24	—
Ⓒ	D13	920	24	0.995	0.92	22	□

合計 232 Kg

D13 — 22 Kg
D16 — 210 Kg

配置図



注記

1. コンクリートの撤去に当たっては、主桁を損傷させないよう十分に注意すること。
2. 細部寸法は、現地調査実施の上、最終確認を行なうこと。
3. 特記なき鉄筋はSD345とする。
4. 既設との打ち継ぎ目はチッピングして、コンクリート打設前には散水・給水し、コンクリートが一体化するよう配慮すること。

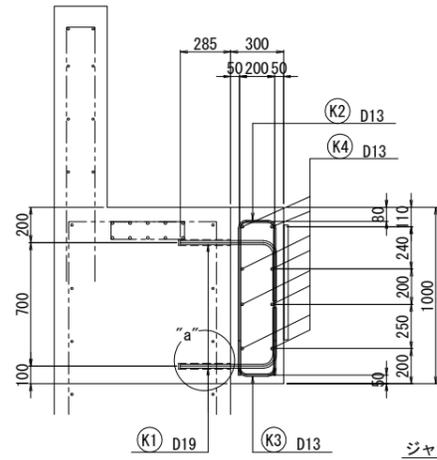
工事設計図

工事番号	図面番号	1 / 1
路線名	川津畑橋(市道川津畑六ツ原線)	
工事箇所	大月市 七保町 瀬戸 地内	
図名	ゲルバー部床版連続化詳細図	縮尺 S=1:20
測量	平成28年1月	枚数 15/35
測量者	株式会社 長大	

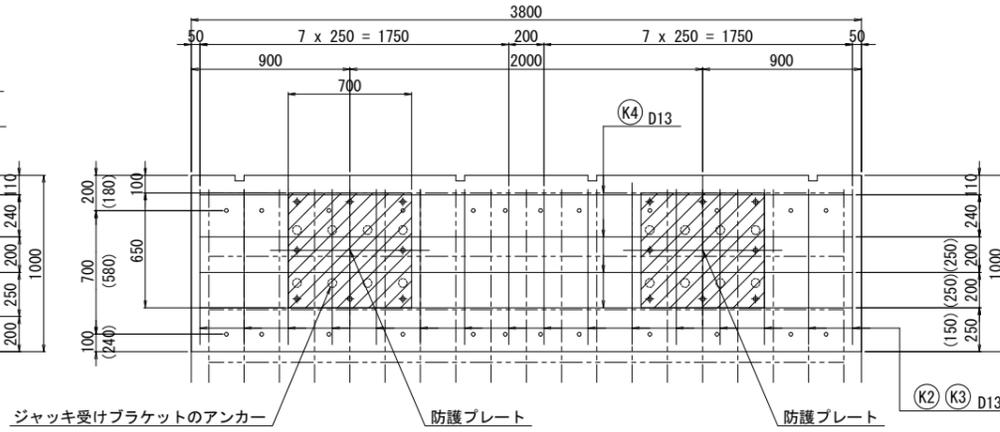
川津畑橋 橋座縁端拡幅配筋図 S=1:20

A1, A2橋台

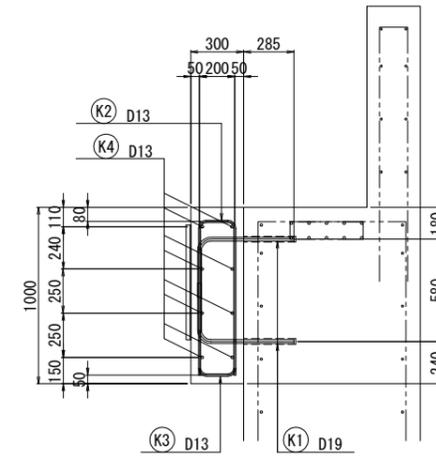
A1 橋台側面図



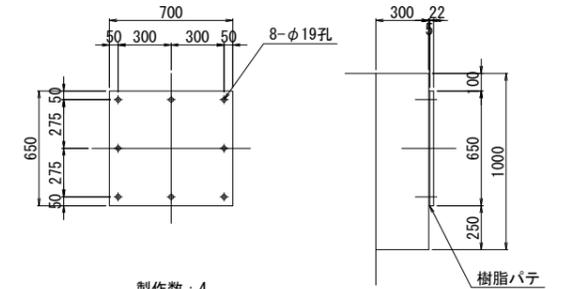
正面図
A1 (A2)



A2 橋台側面図

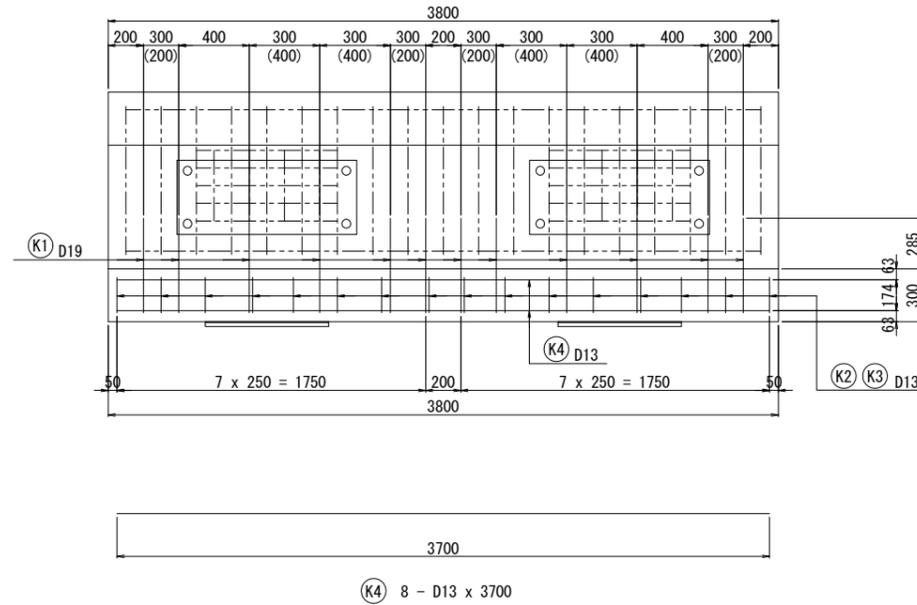


防護プレート詳細図



製作数 : 4
 ※ 1 - PL 650 x 22 x 700 (SS400)
 ※ 8 - コンクリートアンカー M16 x 100 (SS400)

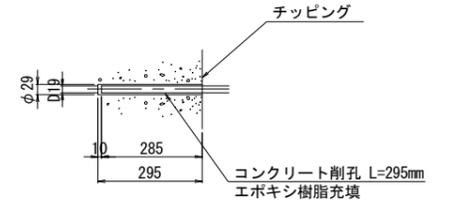
平面図
A1 (A2)



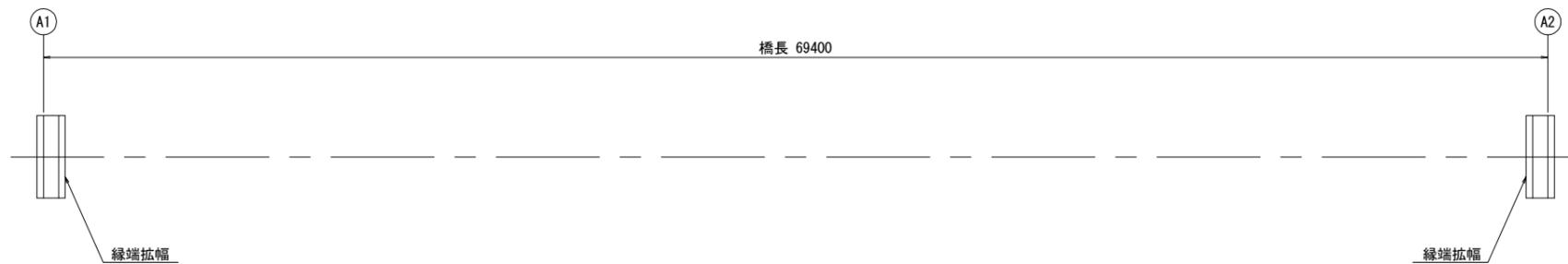
鉄筋表

記号	径	長さ	本数	単位質量	1本当り質量	質量	摘要
K1	D19	810	24	2.25	1.82	44	┌
K2	D13	1910	16	0.995	1.90	30	└
K3	D13	560	16	0.995	0.56	9	└
K4	D13	3700	8	0.995	3.68	29	—
A1橋台A2橋台共通							
1箇所当たり鉄筋質量合計						112 Kg	
D19				44 Kg x 2 =	88 Kg		
D13				68 Kg x 2 =	136 Kg		
合計				113 Kg	224 Kg		
コンクリート体積					2.3 Kg		
型枠面積					11.1 Kg		

"a"部詳細図 S=1:10



配置図

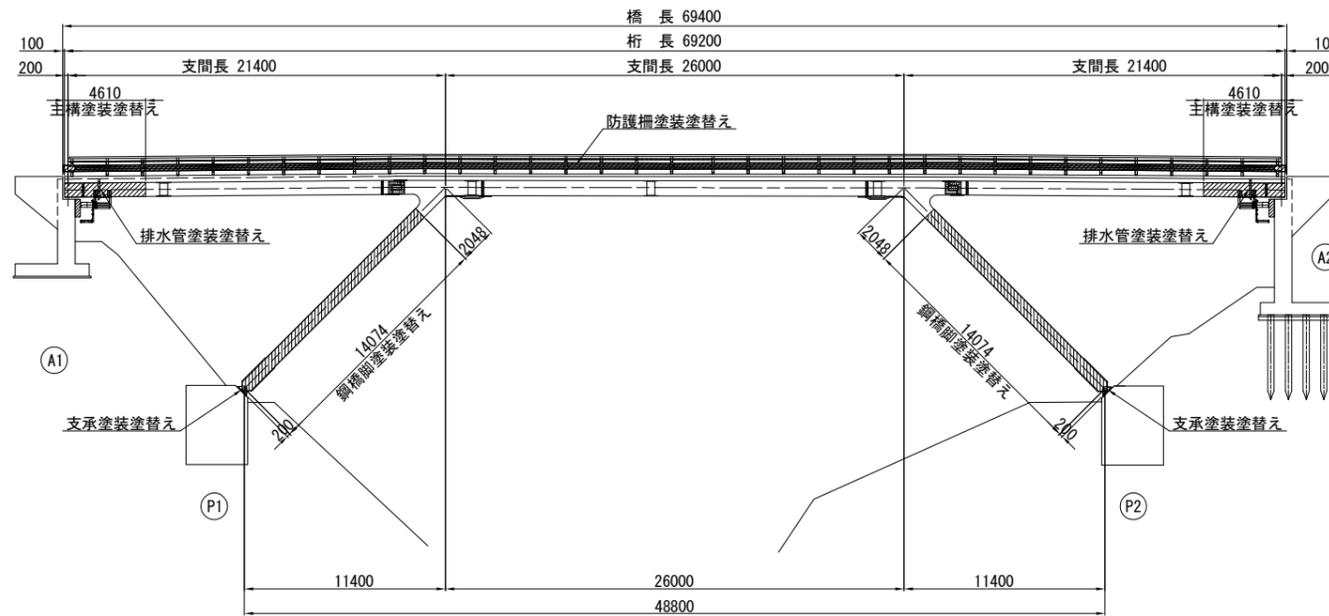


- 注) 1. 細部寸法は、現地調査実施の上、最終確認を行なうこと。
 2. コンクリート削孔は、鉄筋探査により既設鉄筋位置を確認し、切断しないように施工すること。
 3. 特記なき鉄筋はSD345とする。
 4. () 内寸法はA2橋台側を示す。
 5. ※印部材の表面処理は、溶融亜鉛メッキ処理とする。亜鉛の付着量は、JIS H8641 2種HDZ55とする。但しボルト、ナット及び板厚3.2mm未満の付着量は、2種HDZ35とする。

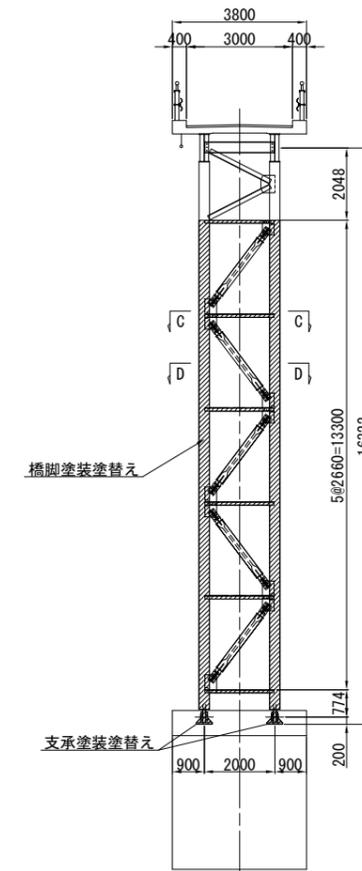
工事設計図	
工事番号	図面番号 1 / 1
路線名	川津畑橋(市道川津畑六ツ原線)
工事箇所	大月市 七保町 瀬戸 地内
図名	橋座縁端拡幅配筋図
縮尺	図示
測量	平成28年1月 枚数 16/35
測量者	株式会社 長大

川津畑橋 塗装塗替詳細図 S=1:200

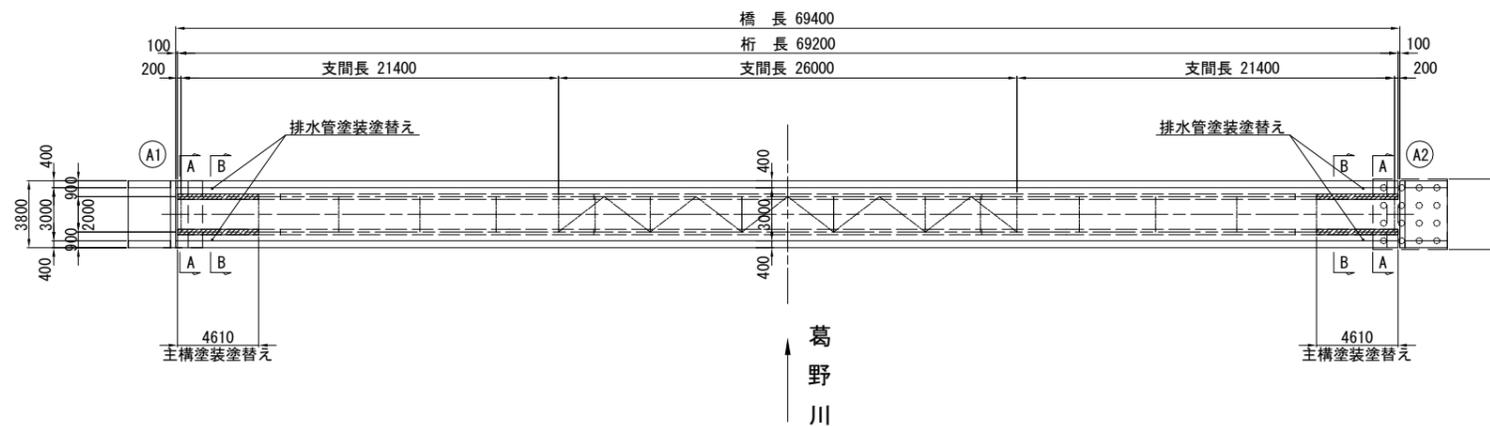
側面図



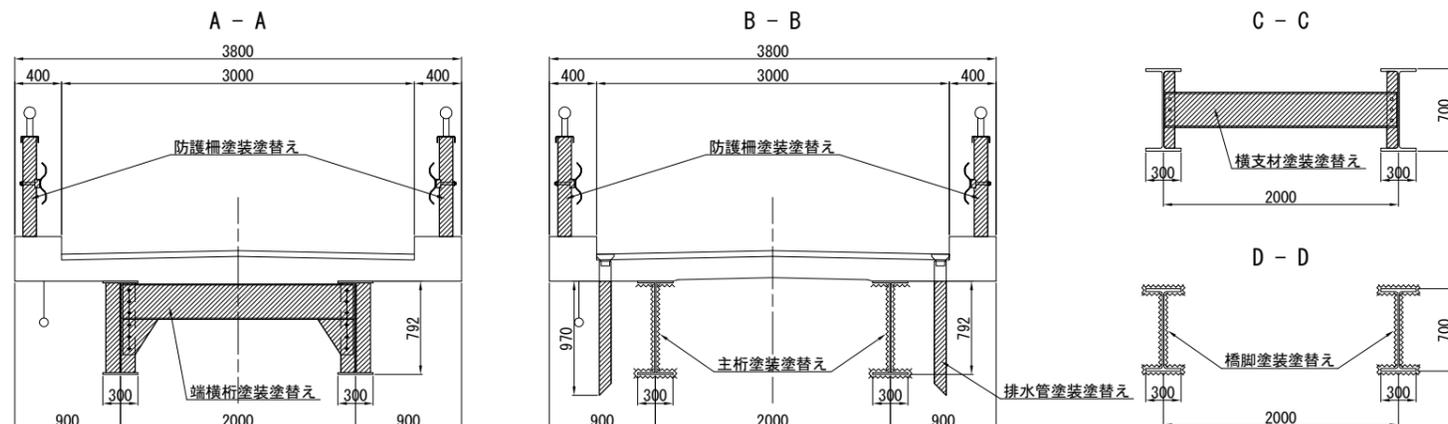
橋脚断面図 S=1:100



平面図



断面図 S=1:30



塗装面積数量表 (Rc-I)

部位	塗装箇所	面積(m ²)	合計(m ²)
部材取付部	当板補強部	56.0	108.9
	桁連結部	14.8	
	制震装置取付部	31.9	
	支承取替部	1.3	
	排水装置取付部	4.9	
既設塗替部	主桁部	52.8	201.1
	橋脚部	144.3	
	脚基部支承	2.8	
	排水装置	1.2	
塗装面積 合計			310.0

塗装面積数量表 (Rc-III)

塗装箇所	面積(m ²)	合計(m ²)
防護柵	176.1	176.1
塗装面積 合計		176.1

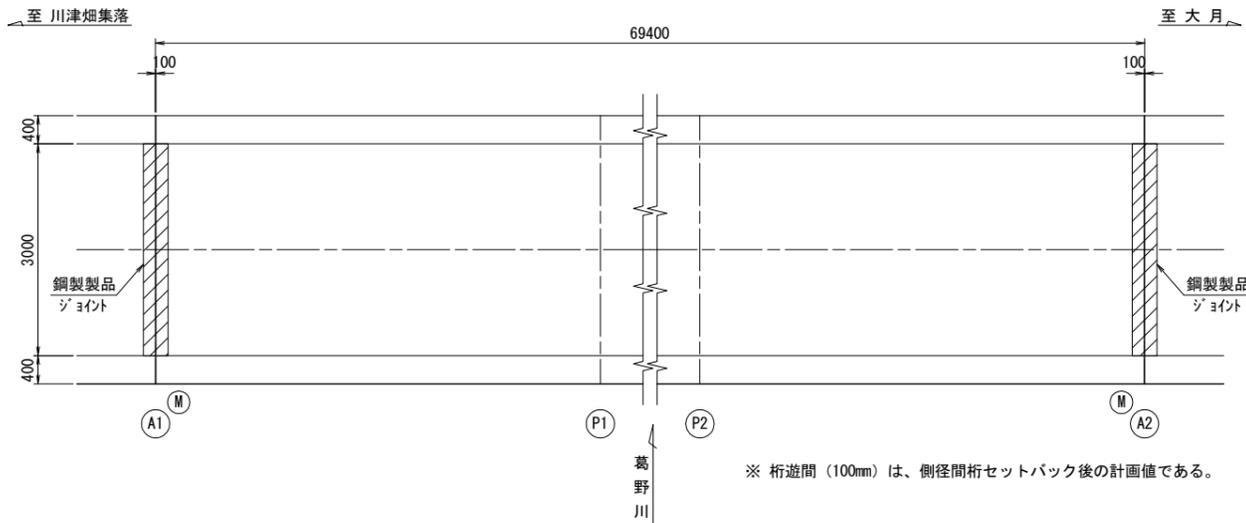
工事設計図

工事番号	図面番号	1 / 1
路線名	川津畑橋(市道川津畑六ツ原線)	
工事箇所	大月市 七保町 瀬戸 地内	
図名	塗装塗替詳細図	縮尺 S=1:200
測量	平成28年1月	枚数 17/35
測量者	株式会社 長大	

注記
 1. 施工にあたっては、現地確認を行うこと。
 2. 既設塗膜には、有害物質(鉛、クロム)が含まれるため、湿式法にて剥離すること。

川津畑橋 伸縮装置取替図【参考図】

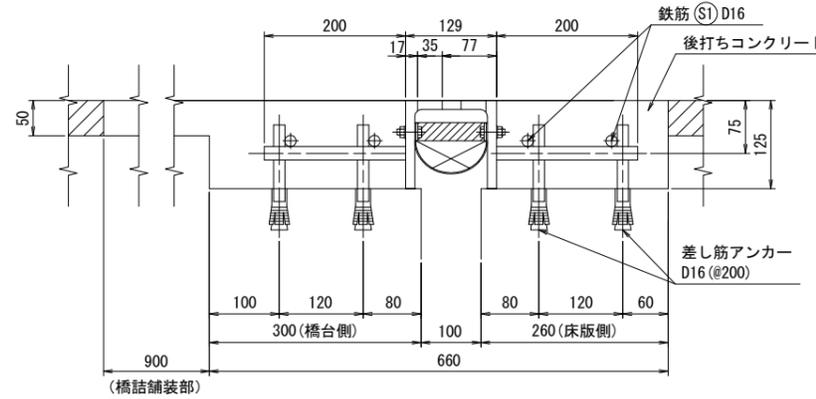
平面図 S=1:50(縦)
S=1:150(横)



※ 桁遊間 (100mm) は、側間桁セットバック後の計画値である。

取付断面図 (A1側) S=1:5

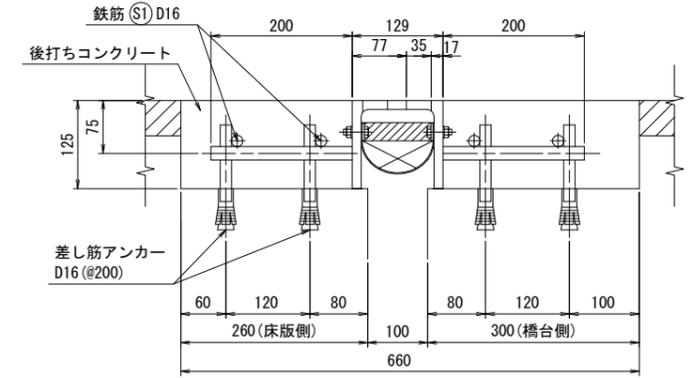
荷重支持型鋼製製品ジョイント
(許容伸縮量 50mm 以上)



※ 舗装補修詳細図を参照のこと。

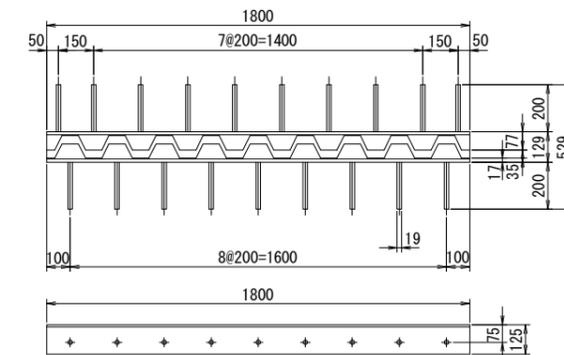
取付断面図 (A2側) S=1:5

荷重支持型鋼製製品ジョイント
(許容伸縮量 50mm 以上)



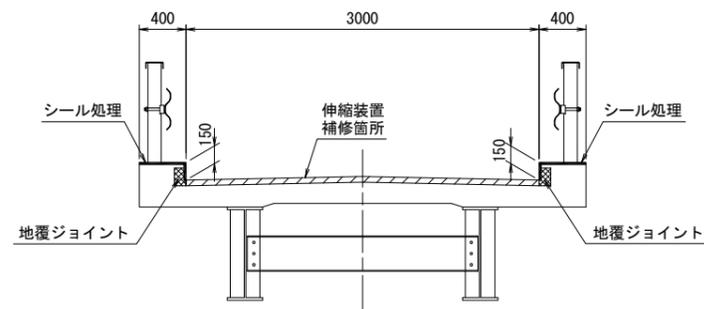
製品図 S=1:15

荷重支持型鋼製製品ジョイント
(許容伸縮量 50mm 以上)

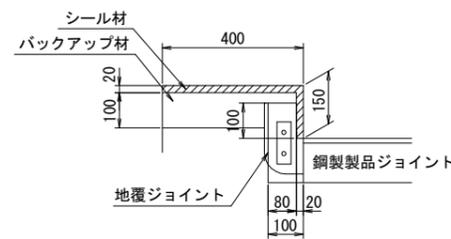


① 4 - D16 × 3000 (SD345)

断面図 S=1:30

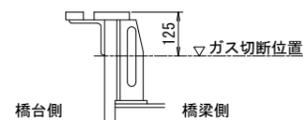


地覆部詳細図 S=1:10



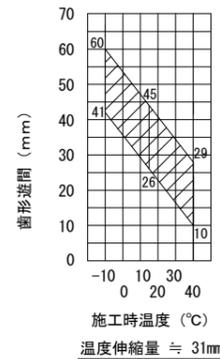
既設伸縮装置断面図 S=1:10

(鋼重ねジョイント)



歯形遊間グラフ

(A1, A2) 許容伸縮量 50mm



数量表

品名	仕様・規格	単位	A1	A2	合計	備考
荷重支持型鋼製製品ジョイント	許容伸縮量 50mm 以上	m	3.000	3.000	6.000	
地覆ジョイント	許容伸縮量 50mm 対応	箇所	2	2	4	
鉄筋 (S1)	D16 SD345	kg	18.7	18.7	37.4	
差し筋アンカー	D16 異形鉄筋付	本	60	60	120	
後打ちコンクリート	ジェットコンクリート (超速硬)	m ³	0.34	0.20	0.54	$\sigma_{ok} = 24 \text{ N/mm}^2$
コンクリート切断		m	6.000	6.000	12.000	
コンクリート破砕		m ³	0.37	0.23	0.60	
シール材	シリコーン系	ℓ	2.24	2.24	4.48	ロス率20%考慮
シールプライマー	500g缶	缶	-	-	1	最小ロット
バックアップ材	軟質ウレタンフォーム	ℓ	8.00	8.00	16.00	
既設伸縮装置撤去	鋼重ねジョイント	m	3.000	3.000	6.000	上端部ガス切断

注記

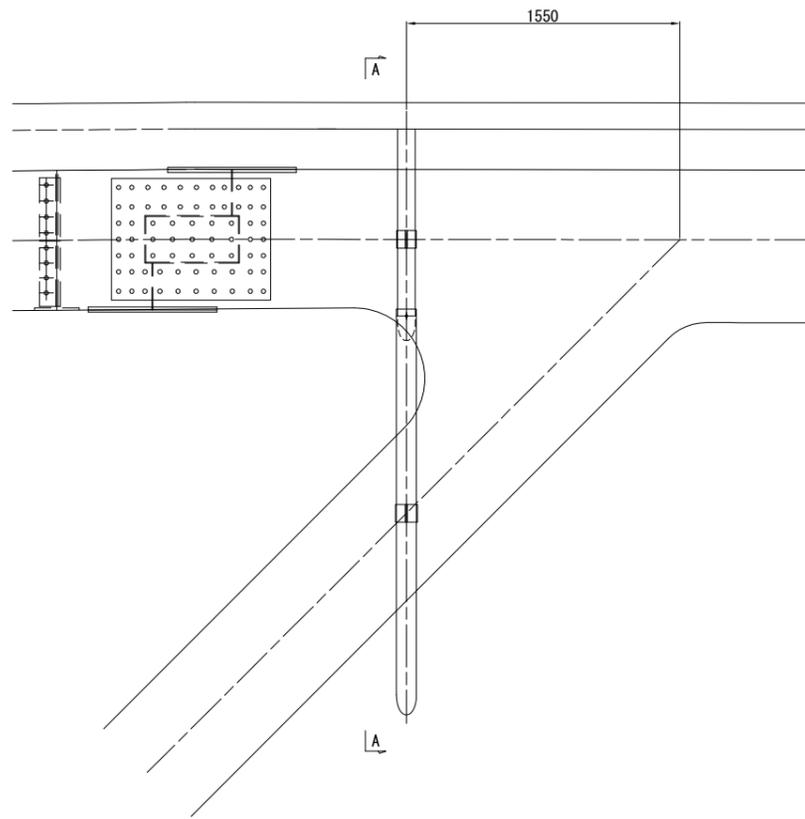
- 事前に現橋寸法計測を行い、図面表記との整合を確認すること。
- 図示の遊間量は、標準温度 (+15°C) の寸法であるため、伸縮装置の遊間量は設置時の温度に応じて調整すること。

工事設計図

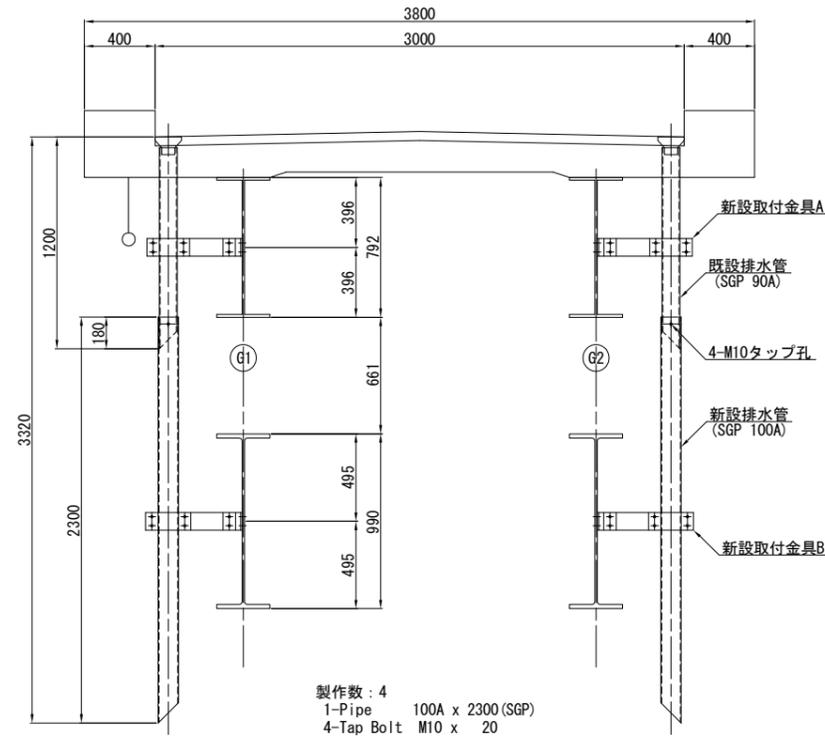
工事番号	図面番号	1 / 1
路線名	川津畑橋(市道川津畑六ツ原線)	
工事箇所	大月市 七保町 瀬戸 地内	
図名	伸縮装置取替図【参考図】	縮尺 図示
測量	平成28年1月	枚数 18/35
測量者	株式会社 長大	

川津畑橋 排水管改築詳細図 S=1:20

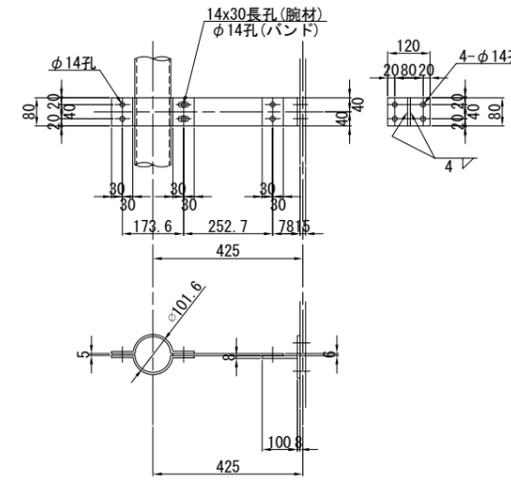
側面図



A - A

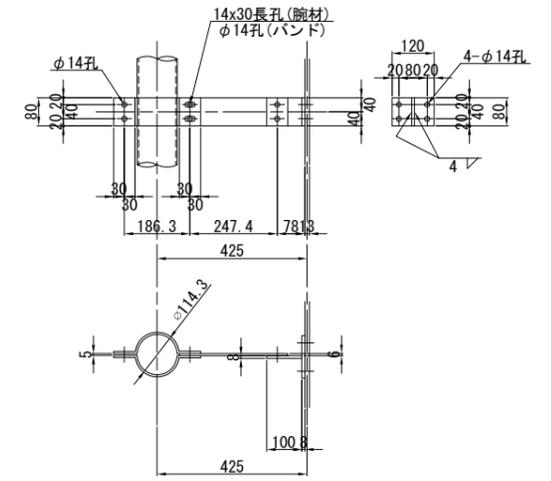


新設取付金具A S=1:10



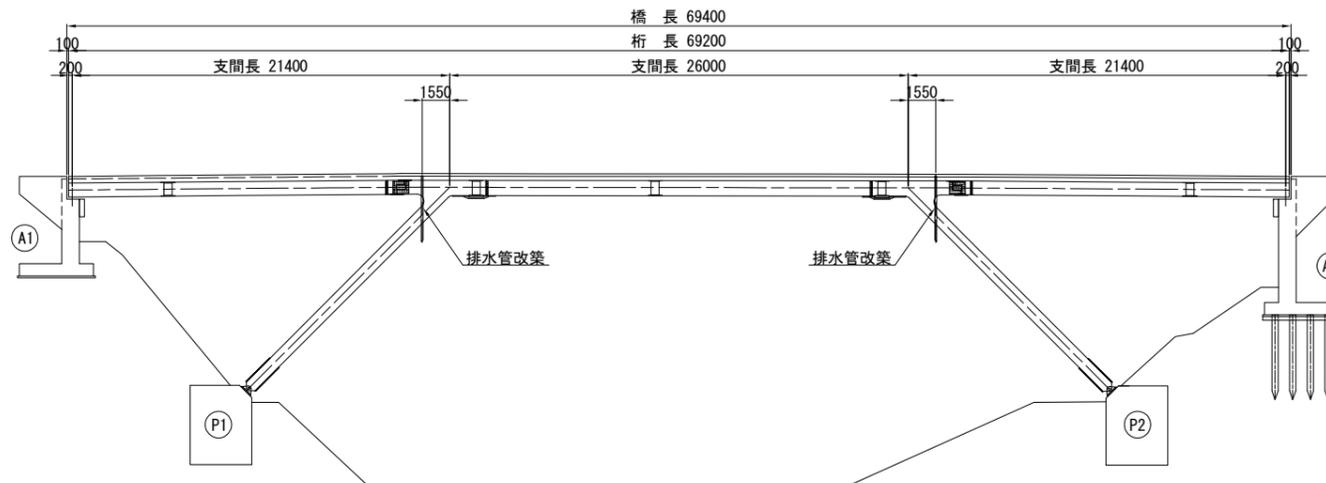
- 製作数 : 4
 2-PL 80 x 6 x 284
 1-PL 80 x 6 x 213
 1-PL 80 x 8 x 100 (SM400A)
 1-PL 80 x 8 x 120 (SM400A)
 6-BN M12 x 40 (1-W, 1-SW付)
 4-BN M12 x 45 (1-W, 1-SW付)

新設取付金具B S=1:10



- 製作数 : 4
 2-PL 80 x 6 x 304
 1-PL 80 x 6 x 307
 1-PL 80 x 8 x 100 (SM400A)
 1-PL 80 x 8 x 120 (SM400A)
 6-BN M12 x 40 (1-W, 1-SW付)
 4-BN M12 x 45 (1-W, 1-SW付)

配置図



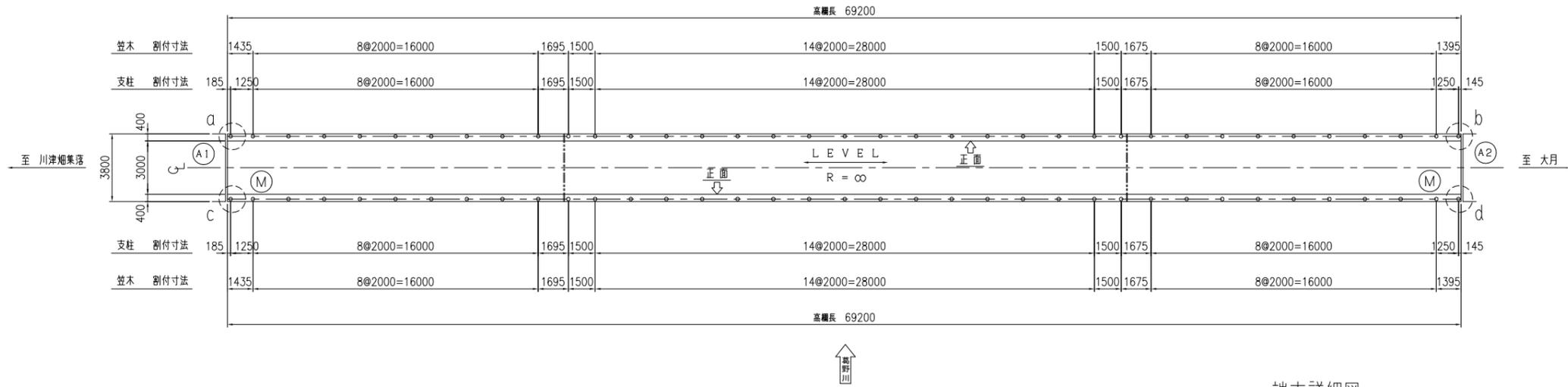
注記

- 特記なき材質は全てSS400とする。
- 特記なきスカーラップは35Rとする。
- 鋼材加工及びブラケットの取付位置等は、現地再調査の上、最終決定すること。
- 必要に応じて、不陸調整など実施すること。
- 既設部材の撤去やグラインダー仕上げに際しては、既設部材を損傷させない様、十分に留意すること。

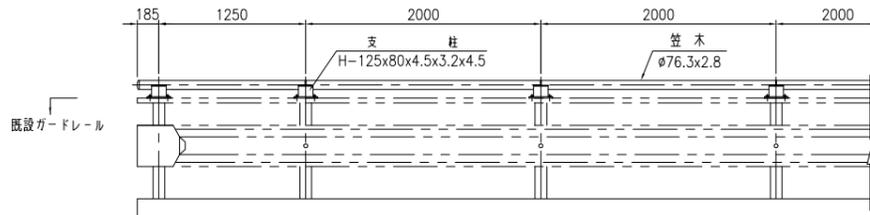
工事設計図			
工事番号		図面番号	1 / 1
路線名	川津畑橋(市道川津畑六ツ原線)		
工事箇所	大月市 七保町 瀬戸 地内		
図名	排水管改築 詳細図	縮尺	図示
測量	平成28年1月	枚数	19/35
測量者	株式会社 長大		

川津畑橋 防護柵嵩上げ詳細図

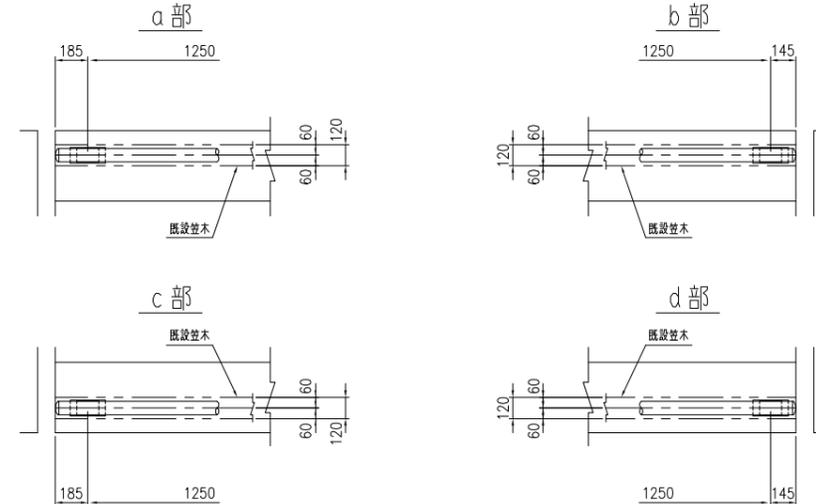
計 画 図 S=1:150



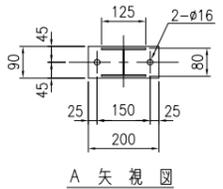
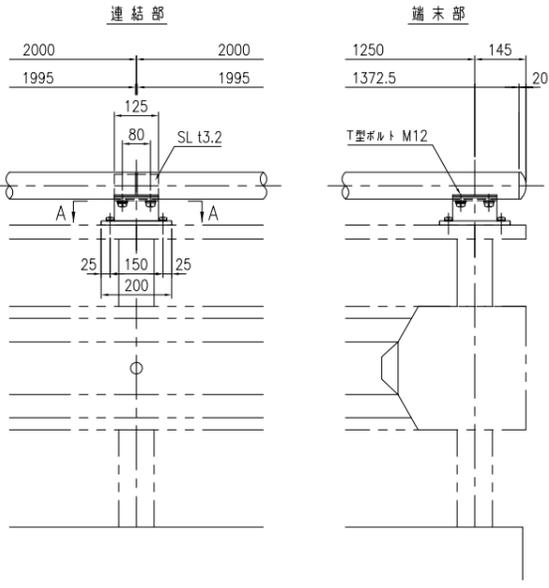
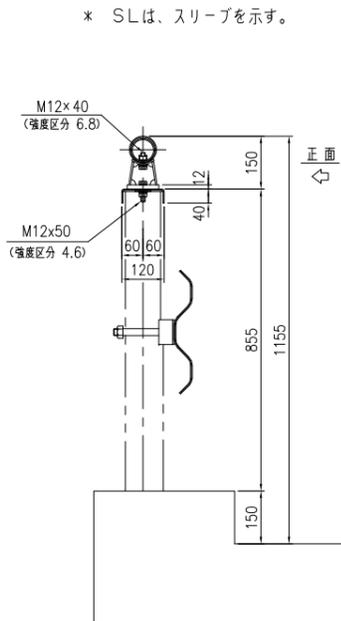
正面展開図 S=1:30



端末詳細図 S=1:20



支柱図 S=1:10



部材数量表

品名	寸法 (mm)	単位	数量	単位質量 (kg/単位)	質量 (kg)	材質
支柱	H-125x80x4.5x3.2x4.5	本	74	2.67	197.58	SS400
笠木	φ76.3x2.8	m	138.400	5.08	703.07	STK400
笠木スリーブ	φ67.0x3.2x125	個	70	0.63	44.10	SGH400
取付ボルト	M12x40	セット	140	0.06	8.40	強度区分 6.8
T型ボルト	M12	#	8	0.07	0.56	強度区分 4.6
アンカーボルト	M12x50	セット	148	0.08	11.84	強度区分 4.6
				合計質量	965.55 kg	
既設ガードレール笠木取付ボルト撤去			丸頭ボルト M12x25		147 本	

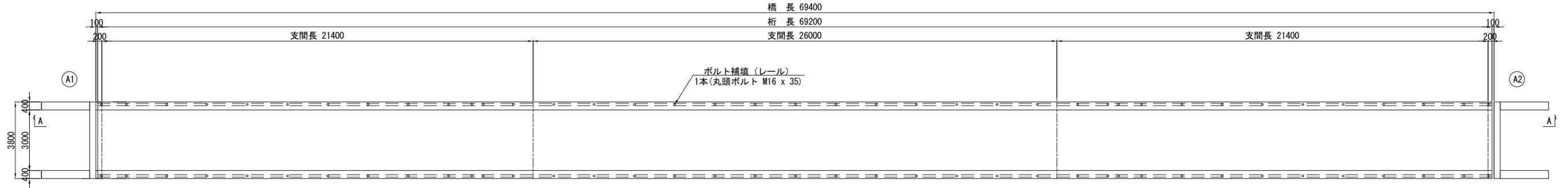
注記)

- 防護柵延長は、アンカー中心での寸法を示す。
- 防護柵延長および地覆計上寸法等は、現地計測により検証して決定すること。
- 支柱および笠木は、溶融亜鉛メッキ (HDZ35) + 静電粉体塗装 (平均50μm以上) とする。
- スリーブは、亜鉛メッキ+静電粉体塗装 (平均50μm以上) とする。
- 取付ボルト類は、溶融亜鉛メッキ (HDZ35) 仕上げとする。
- 支柱の設置は、既設ガードレール笠木の取付ボルトを撤去し、当該ボルト孔は利用する。
- ガードレール笠木の既設取付ボルトは1本欠落しているため、撤去本数が1本少ない。

工事設計図			
工事番号		図面番号	1 / 1
路線名	川津畑橋(市道川津畑六ツ原線)		
工事箇所	大月市 七保町 瀬戸 地内		
図名	防護柵嵩上げ 詳細図	縮尺	図示
測量	平成28年1月	枚数	20/35
測量者	株式会社 長大		

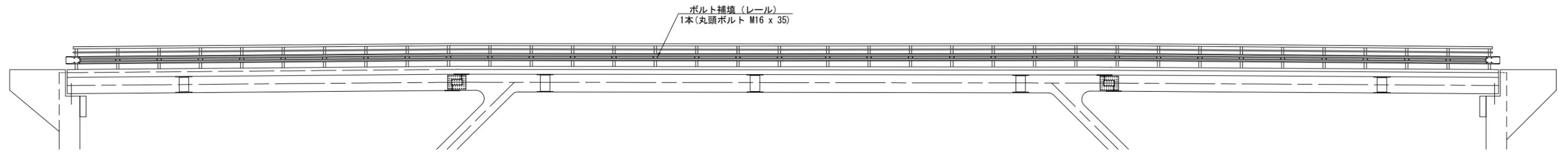
川津畑橋 防護柵ボルト補填詳細図 S=1:100

平面図



葛野川

A - A



材料表	
丸頭ボルト	M16 x 35 (SS400) x 1

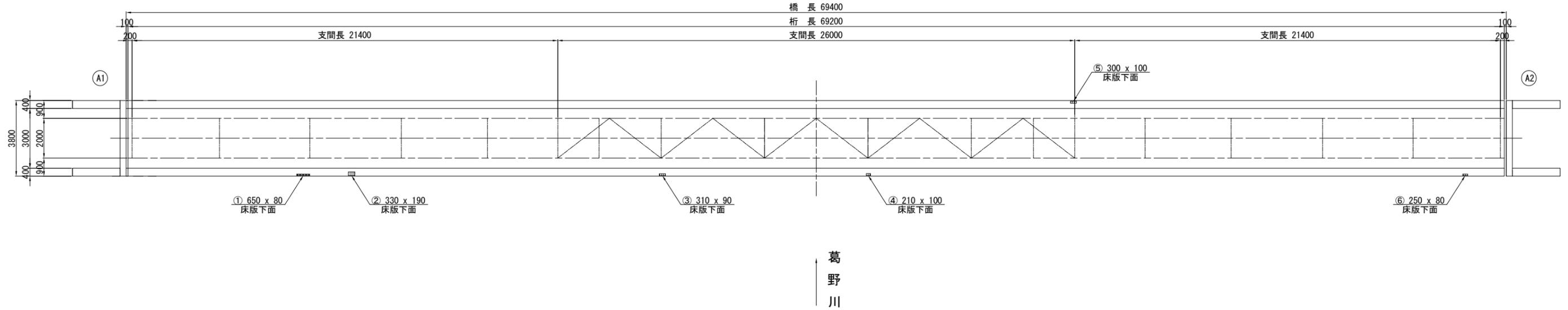
注記

1. 施工にあたっては、現地確認を行うこと。
2. 笠木の欠落ボルト (1本) は、嵩上げ防護柵で付け替えられるため対策不要。

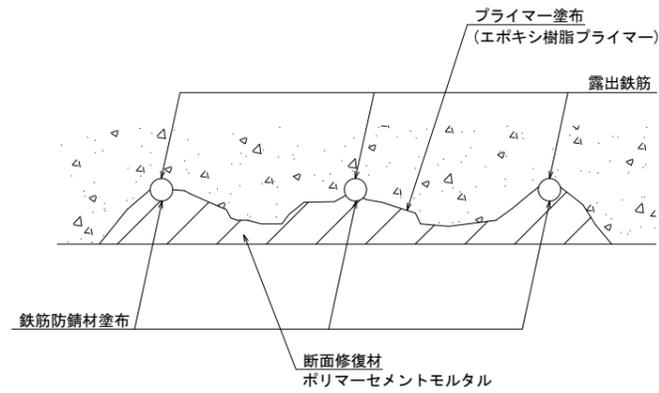
工事設計図			
工事番号		図面番号	1 / 1
路線名	川津畑橋 (市道川津畑六ツ原線)		
工事箇所	大月市 七保町 瀬戸 地内		
図名	防護柵ボルト補填詳細図	縮尺	S=1:100
測量	平成28年1月	枚数	21/35
測量者	株式会社 長大		

川津畑橋 床版補修詳細図 S=1:100

平面図



断面修復工（鉄筋露出）



断面修復工

測点	寸法 (m)	面積 (m ²)
①	0.65 × 0.08 × 1	0.052
②	0.33 × 0.19 × 1	0.063
③	0.31 × 0.09 × 1	0.028
④	0.21 × 0.10 × 1	0.021
⑤	0.30 × 0.10 × 1	0.030
⑥	0.25 × 0.080 × 1	0.020
合計		0.214 m ²

施工手順



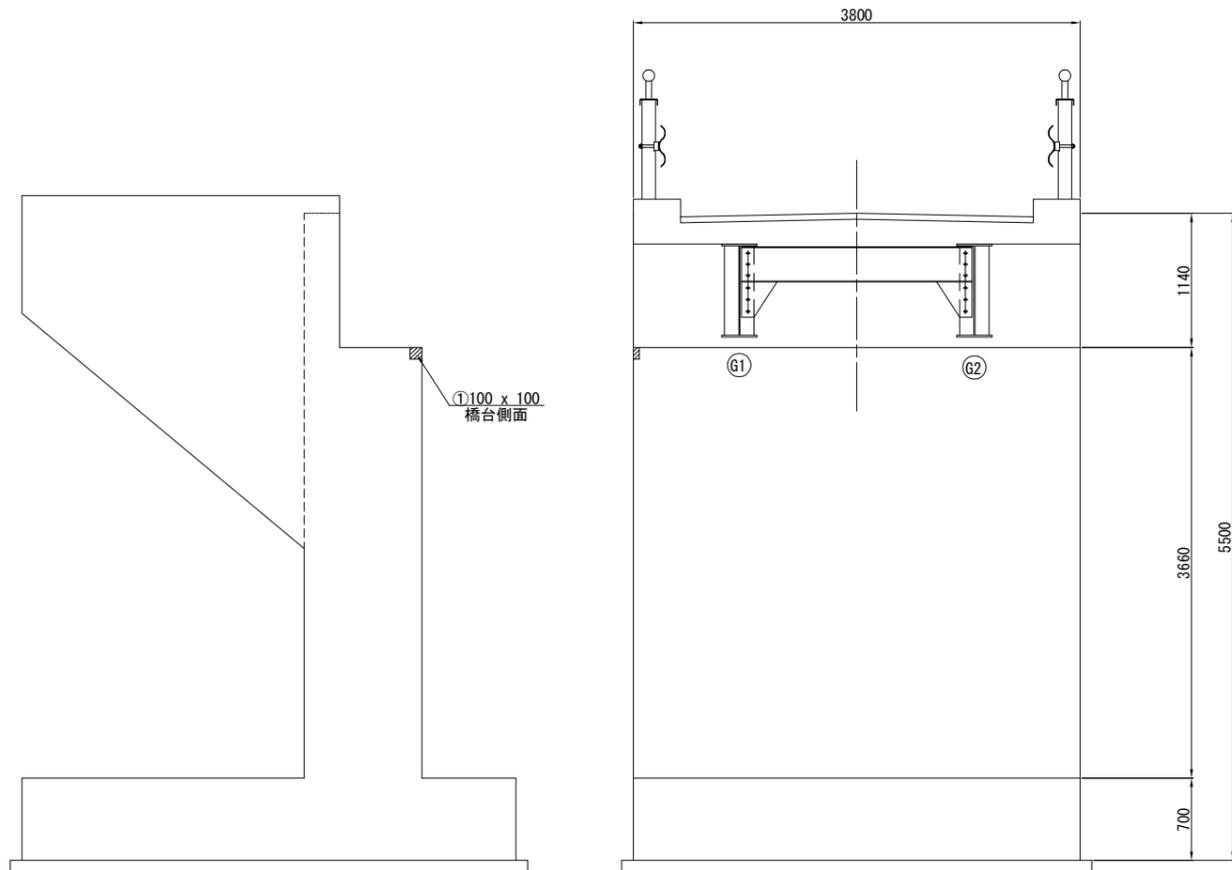
注記
 1. 施工にあたっては、現地確認を行うこと。

工事設計図

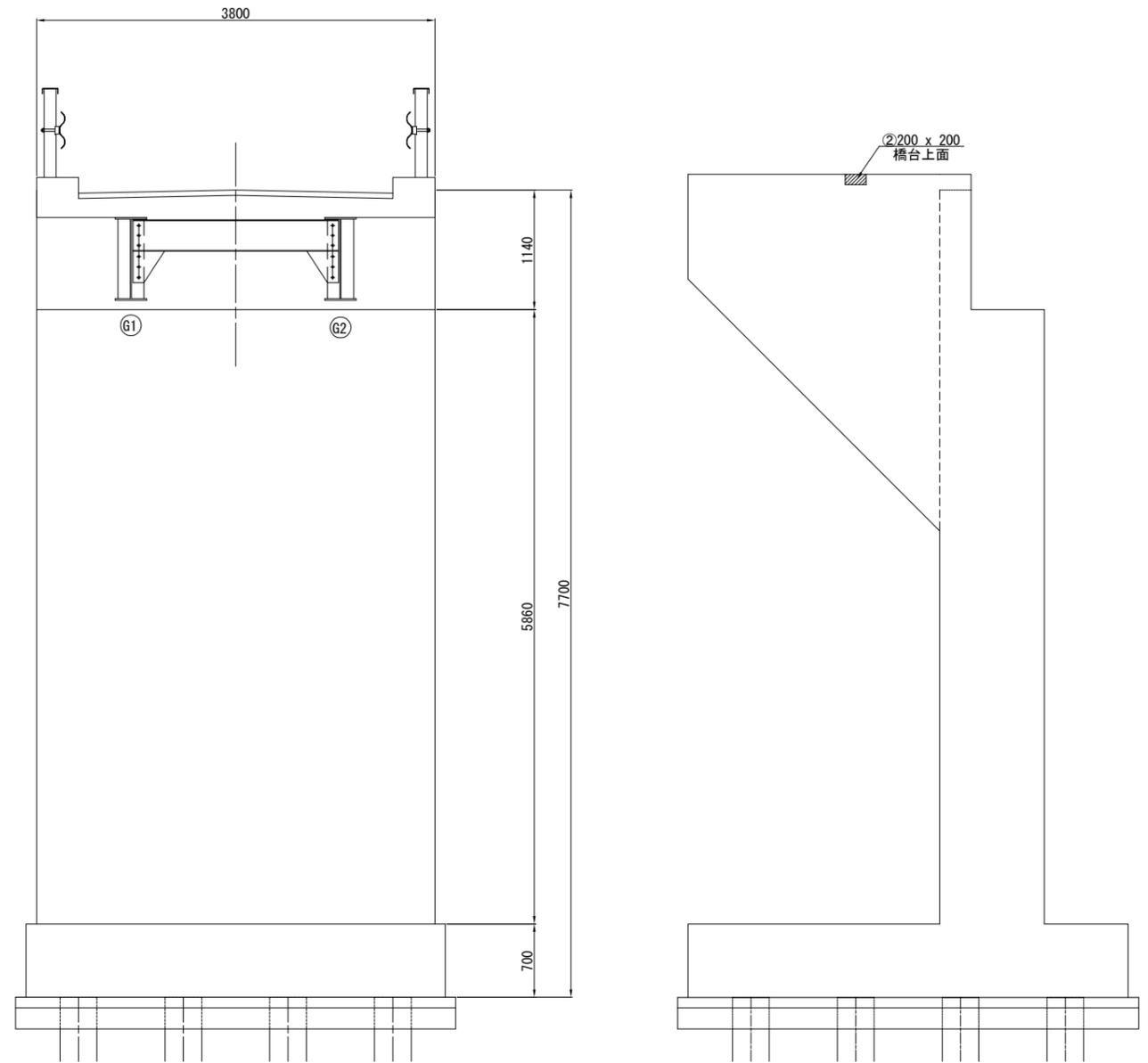
工事番号	図面番号	1 / 1
路線名	川津畑橋(市道川津畑六ツ原線)	
工事箇所	大月市 七保町 瀬戸 地内	
図名	床版補修詳細図	縮尺 S=1:100
測量	平成28年1月	枚数 22/35
測量者	株式会社 長大	

川津畑橋 橋台補修詳細図 S=1:30

A1橋台



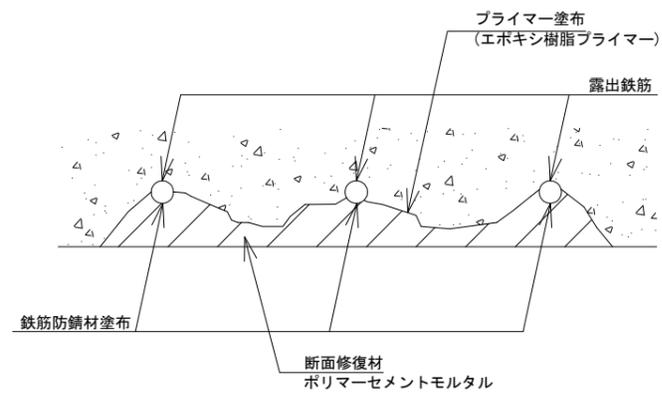
A2橋台



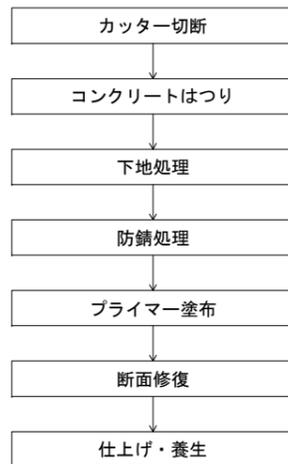
葛野側

葛野側

断面修復工（鉄筋露出）



施工手順



断面修復工

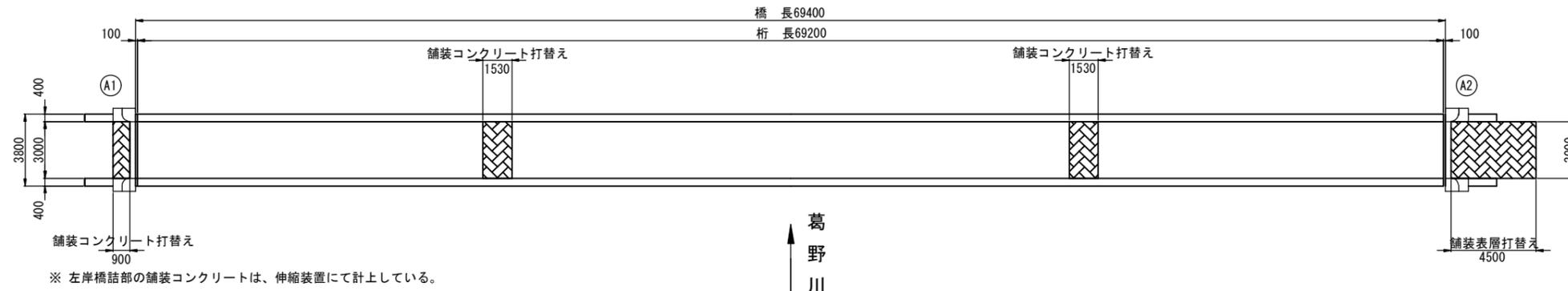
測点	寸法 (m)	面積 (m2)
①	0.10 × 0.10 × 1	0.010
②	0.20 × 0.20 × 1	0.040
合計		0.050 m2

工事設計図

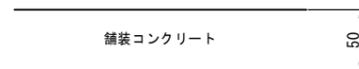
工事番号	図面番号	1 / 1
路線名	川津畑橋(市道川津畑六ツ原線)	
工事箇所	大月市 七保町 瀬戸 地内	
図名	橋台補修詳細図	縮尺 S=1:30
測量	平成28年1月	枚数 23/35
測量者	株式会社 長大	

注記
1. 施工にあたっては、現地確認を行うこと。

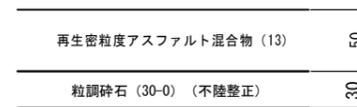
平面図



舗装コンクリート打替え構成図



表層打替え舗装構成図



施工手順



舗装コンクリート打替え工 (橋面上) 数量

名称	規格	単位	数量	備考
舗装取壊し	コンクリート t=50mm	m ³	0.5	
舗装敷設	コンクリート t=50mm	m ³	0.5	$\sigma_{ck} = 24 \text{ N/mm}^2$
舗装切断延長	コンクリート t=50mm	m	12.0	

※ 舗装コンクリートは、床版コンクリートと一体打ちとする。

表層打替え工 (右岸橋詰部) 数量

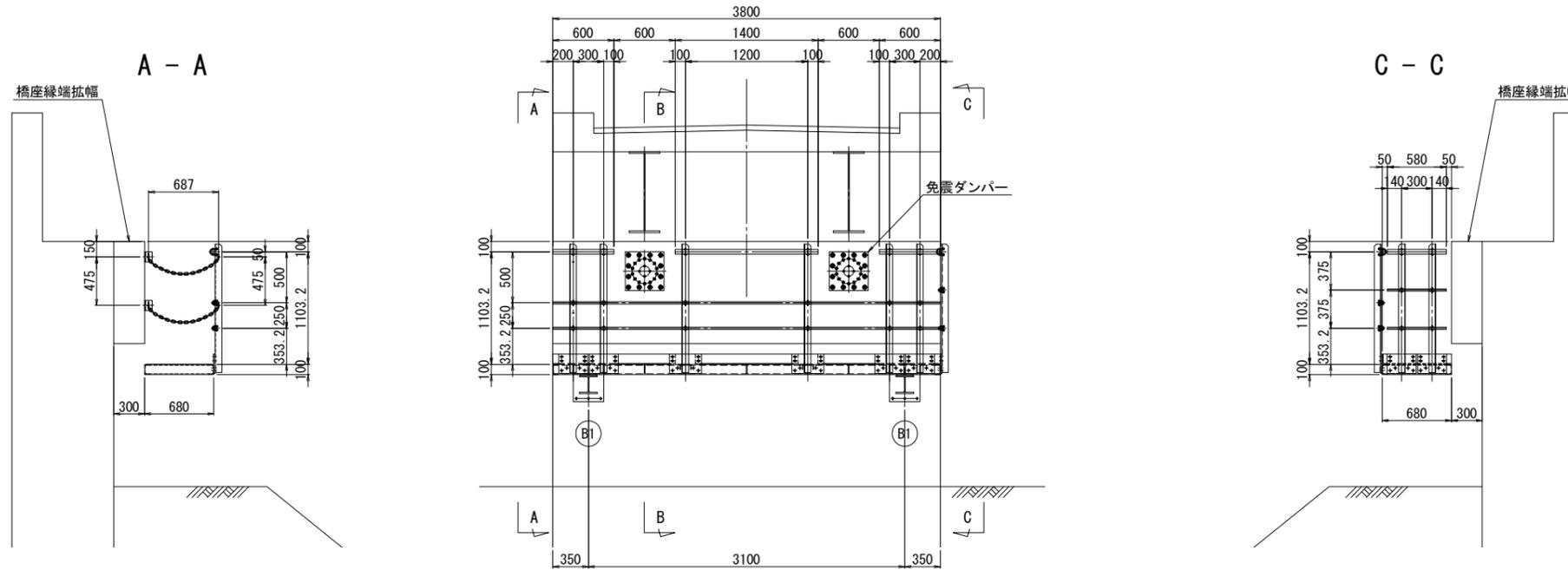
名称	規格	単位	数量	備考
舗装撤去	アスファルト舗装 t=50mm	m ³	0.7	アスファルト舗装
舗装敷設	アスファルト舗装 t=50mm	m ²	13.5	再生密粒度アスファルト混合物(13) 粒調砕石(30-0)
産廃処理	アスファルト舗装	m ³	0.7	アスファルト舗装
舗装切断延長	アスファルト舗装 t=50mm	m	3.0	

注記
1. 施工にあたっては、現地確認を行うこと。

工事設計図			
工事番号		図面番号	1 / 1
路線名	川津畑橋 (市道川津畑六ツ原線)		
工事箇所	大月市 七保町 瀬戸 地内		
図名	舗装補修詳細図	縮尺	S=1:150
測量	平成28年1月	枚数	24 / 35
測量者	株式会社 長 大		

川津畑橋 下部工検査路 (その1) S=1:30

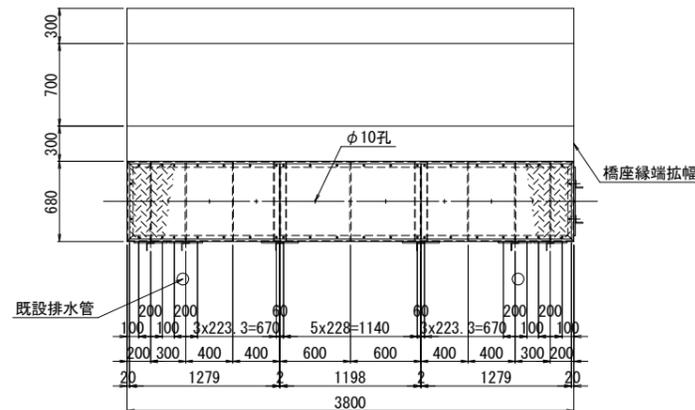
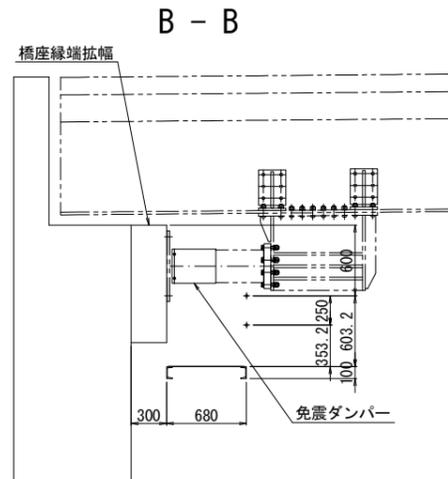
A1橋台



- 立入防止チェーン
- 2 - L 75 x 75 x 12 x 100
 - 2 - PL 40 x 4.5 x 60 (SM400A)
 - 2 - U.Bolt 呼び32C(2-Uナット付)
 - 2 - チェーン φ6 x 690(1-φ20リンク付)
 - 4 - ホールインアンカー M16 x 100

- 2 - Pipe φ42.7 x 2.3 x 600 (STK400)
- 1 - Pipe φ42.7 x 2.3 x 1400 (STK400)
- 2 - Pipe φ21.7 x 1.9 x 3800 (STK400)
- 2 - PL 90 x 3.2 x 1203
- 1 - PL 90 x 3.2 x 1005
- 6 - L 65 x 65 x 6 x 1258
- 4 - PL 190 x 12 x 285 (SM400A)
- 2 - PL 190 x 12 x 315 (SM400A)
- 24 - B.N M16 x 45 (2-W付)
- 24 - B.N M10 x 35 (2-W付)
- 6 - U.Bolt 呼び32C
- 12 - U.Bolt 呼び15C

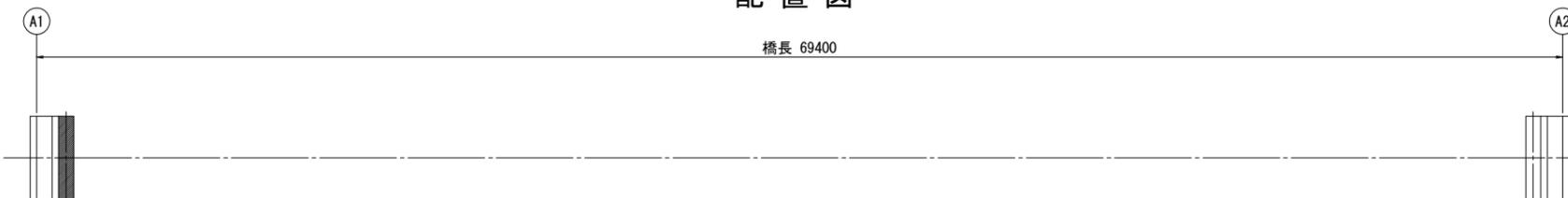
- 1 - Pipe φ42.7 x 2.3 x 580 (STK400)
- 2 - Pipe φ21.7 x 1.9 x 580 (STK400)
- 1 - PL 90 x 3.2 x 670
- 2 - L 65 x 65 x 6 x 1258
- 2 - PL 190 x 12 x 285 (SM400A)
- 8 - B.N M16 x 45 (2-W付)
- 8 - B.N M10 x 35 (2-W付)
- 2 - U.Bolt 呼び32C
- 4 - U.Bolt 呼び15C



- 2 - Ch.PL 640 x 3.2 x 1279 (SS400相当品)
- 1 - Ch.PL 640 x 3.2 x 1198 (SS400相当品)
- 2 - CH 100 x 50 x 5 x 7.5 x 680
- 2 - CH 100 x 50 x 5 x 7.5 x 3800
- 4 - L 50 x 50 x 6 x 670
- 7 - F.B 90 x 9 x 670
- 2 - PL 160 x 9 x 660
- 44 - B.N M10 x 35 (1-W, 1-TW付)

配置図

橋長 69400

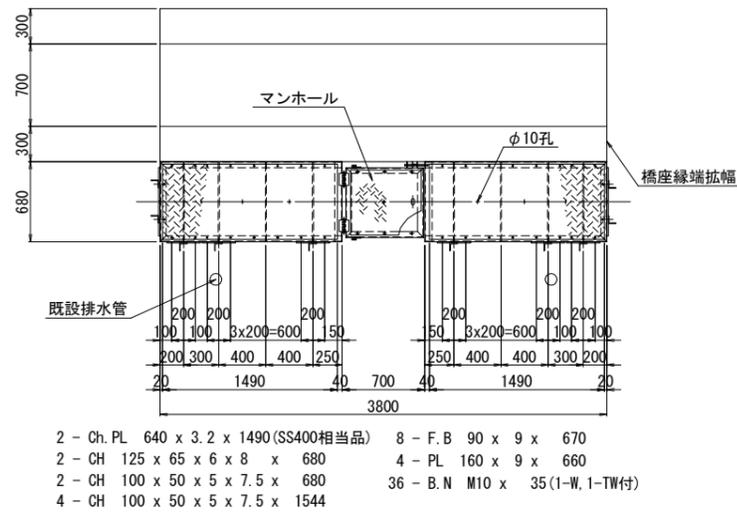
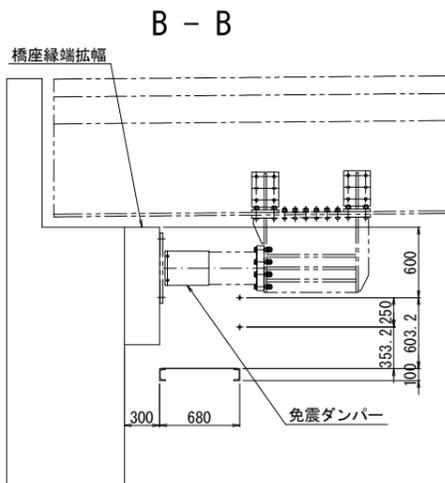
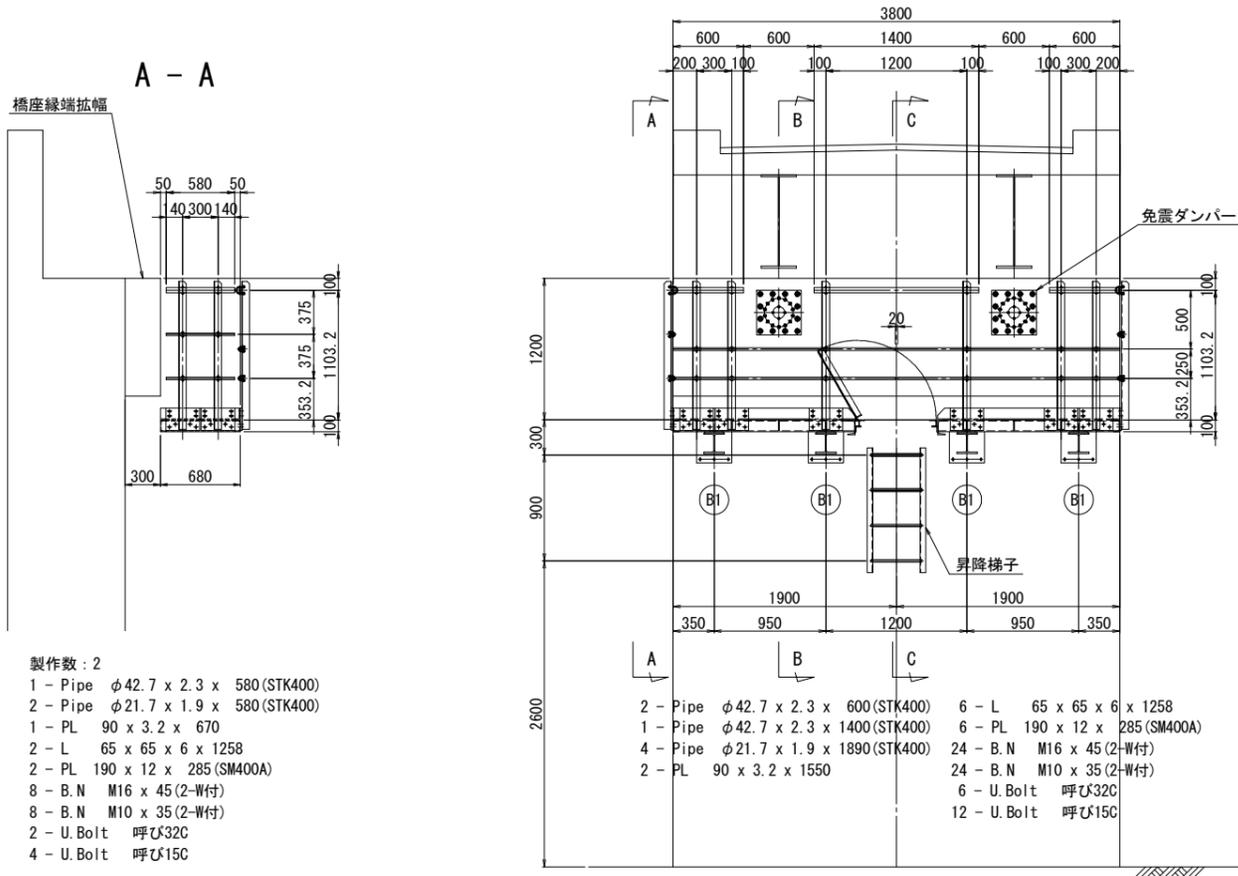


- 注記
1. 細部寸法は、現地調査実施の上、最終確認を行なうこと。
 2. 特記なき材質は、全てSS400とする。
 3. Uボルト付き以外のナットは、全て弛み止めナットを使用すること。
 4. 本体付きを除く検査路の表面処理は、溶融亜鉛メッキとする。亜鉛の付着量は、JIS H8641 2種HDZ55とする。但しボルト、ナット及び板厚3.2mm未満の付着量は、2種HDZ35とする。

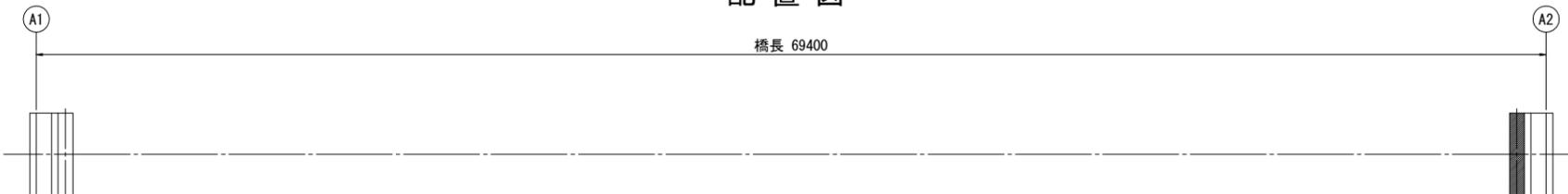
工事設計図		
工事番号	図面番号	1 / 4
路線名	川津畑橋(市道川津畑六ツ原線)	
工事箇所	大月市 七保町 瀬戸 地内	
図名	下部工検査路(その1)	縮尺 S=1:30
測量	平成28年1月	枚数 25/35
測量者	株式会社 長大	

川津畑橋 下部工検査路 (その2) S=1:30

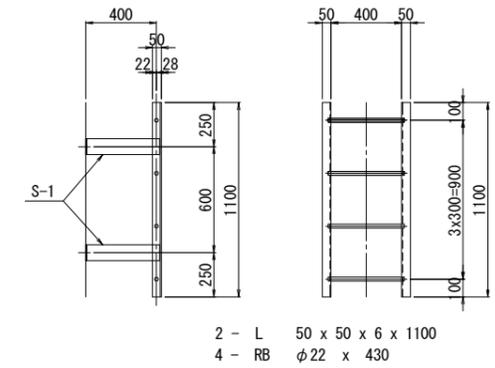
A2橋台



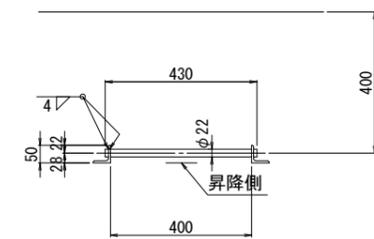
配置図



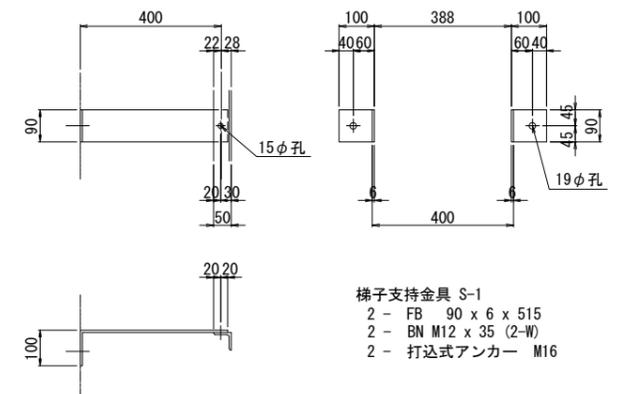
昇降梯子 S=1:20



梯子断面 S=1:10



支持金具 S-1 S=1:10



注記

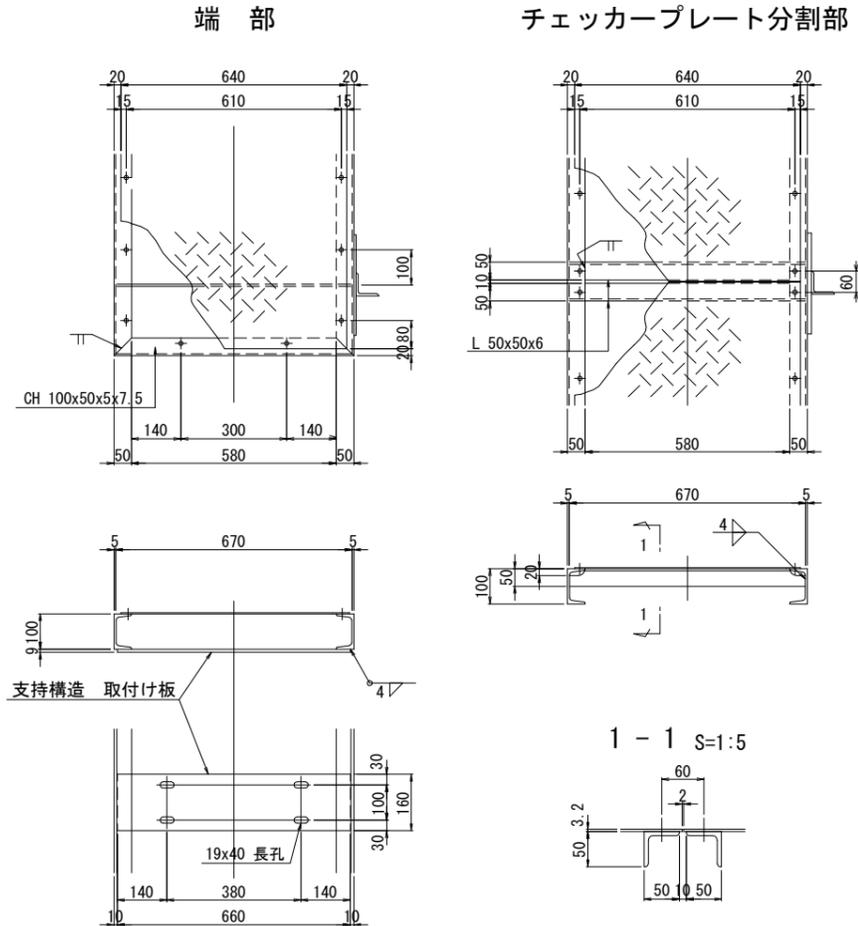
1. 細部寸法は、現地調査実施の上、最終確認を行なうこと。
2. 特記なき材質は、全てSS400とする。
3. Uボルト付き以外のナットは、全て弛み止めナットを使用すること。
4. 本体付きを除く検査路の表面処理は、溶融亜鉛メッキとする。亜鉛の付着量は、JIS H8641 2種HDZ55とする。但しボルト、ナット及び板厚3.2mm未満の付着量は、2種HDZ35とする。

工事設計図	
工事番号	図面番号 2 / 4
路線名	川津畑橋(市道川津畑六ツ原線)
工事箇所	大月市 七保町 瀬戸 地内
図名	下部工検査路 (その2) 縮尺 図示
測量	平成28年1月 枚数 26/35
測量者	株式会社 長大

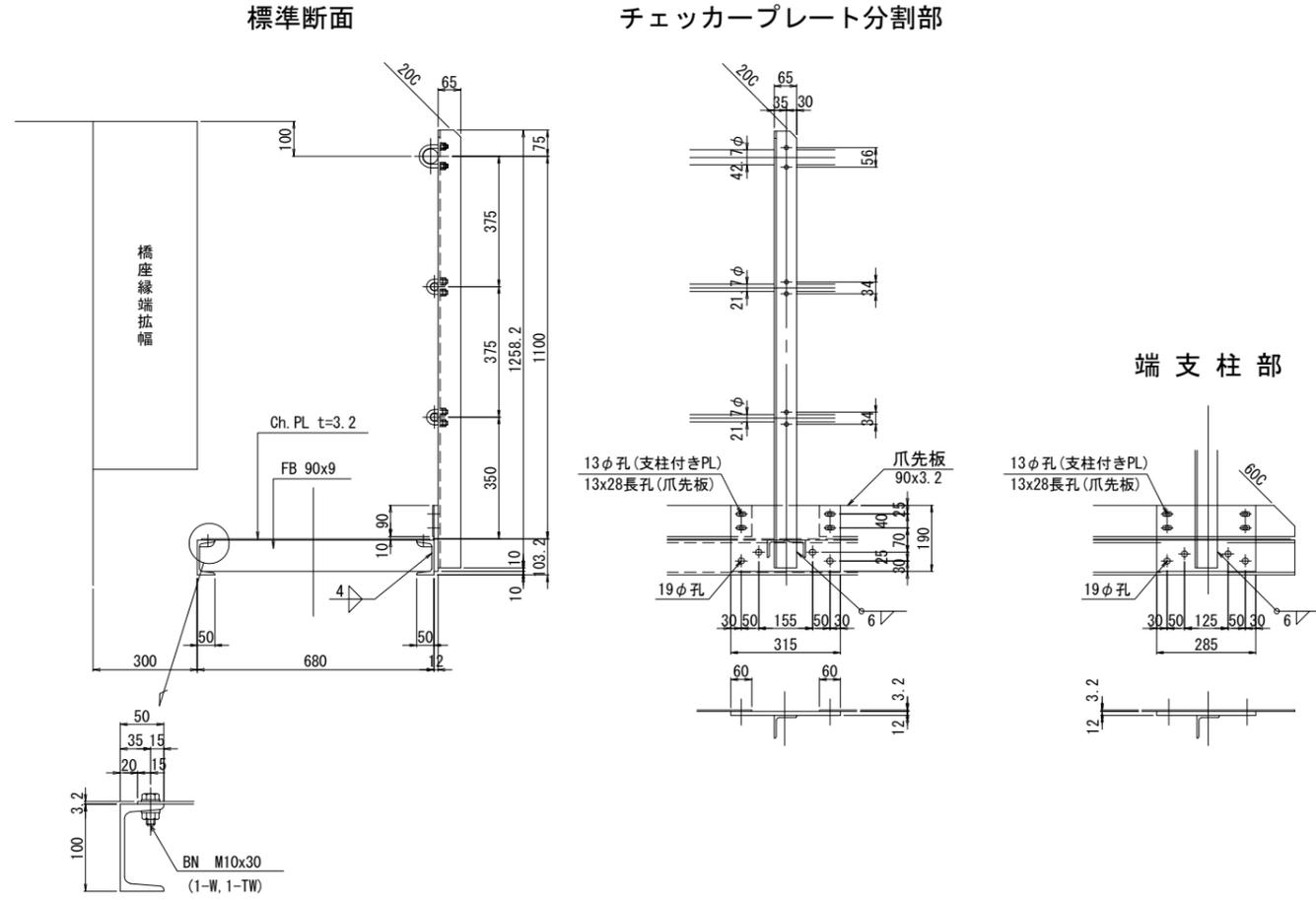
川津畑橋 下部工検査路 (その3) S=1:10

A1, A2橋台

歩廊詳細図
チェッカープレート分割部

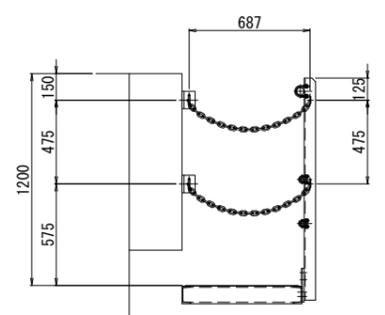
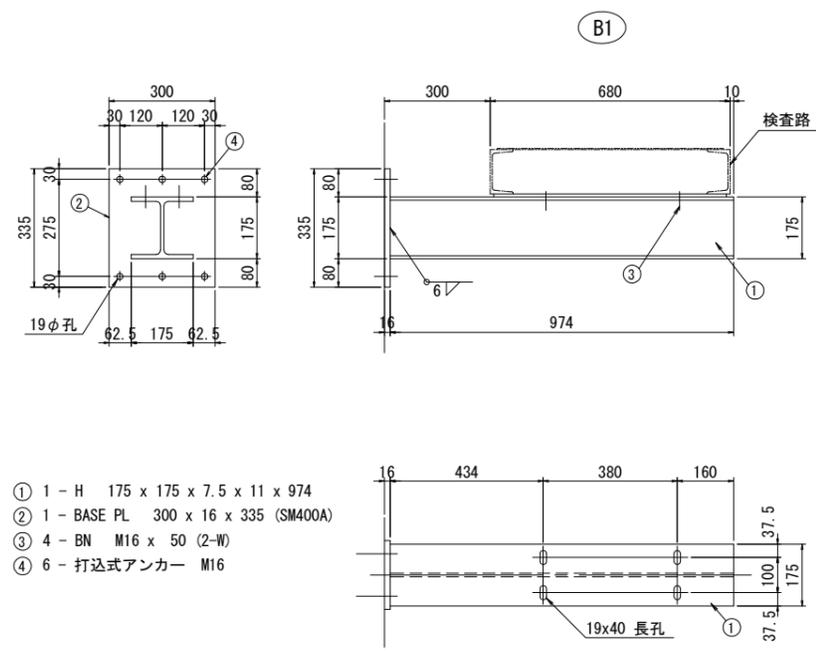


歩廊断面 及び 構造詳細図



立入防止チェーン取付位置図 S=1:20

チェーン取付金具詳細 S=1:5



- 注記
1. 細部寸法は、現地調査実施の上、最終確認を行なうこと。
 2. 特記なき材質は、全てSS400とする。
 3. Uボルト付き以外のナットは、全て弛み止めナットを使用すること。
 4. 本体付きを除く検査路の表面処理は、熔融亜鉛メッキとする。亜鉛の付着量は、JIS H8641 2種HDZ55とする。但しボルト、ナット及び板厚3.2mm未満の付着量は、2種HDZ35とする。

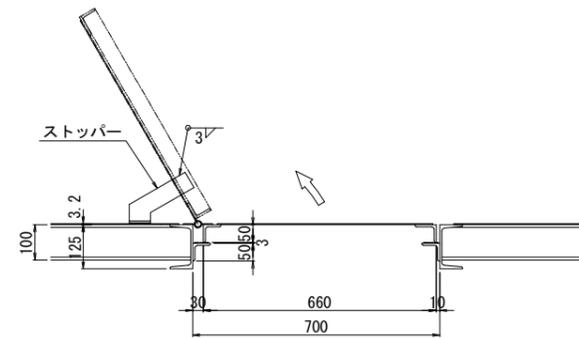
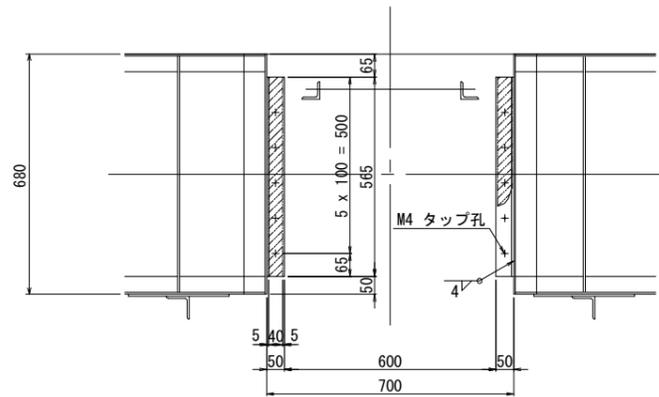
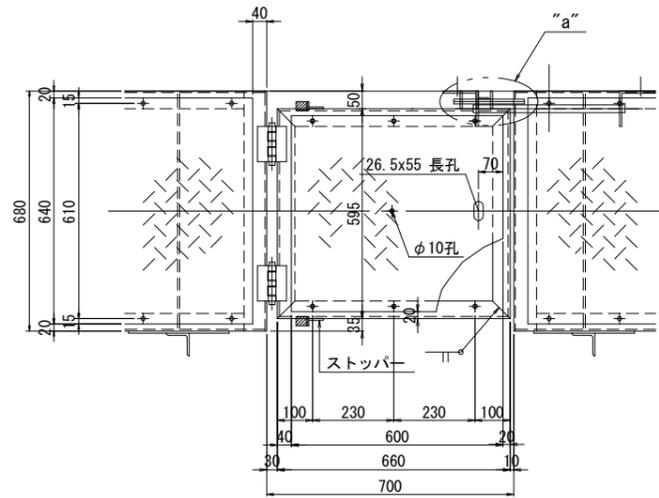
- ① 1 - H 175 x 175 x 7.5 x 11 x 974
- ② 1 - BASE PL 300 x 16 x 335 (SM400A)
- ③ 4 - BN M16 x 50 (2-W)
- ④ 6 - 打込式アンカー M16

工事設計図	
工事番号	図面番号 3 / 4
路線名	川津畑橋(市道川津畑六ツ原線)
工事箇所	大月市 七保町 瀬戸 地内
図名	下部工検査路 (その3) 縮尺 図示
測量	平成28年1月 枚数 27/35
測量者	株式会社 長大

川津畑橋 下部工検査路 (その4) S=1:10

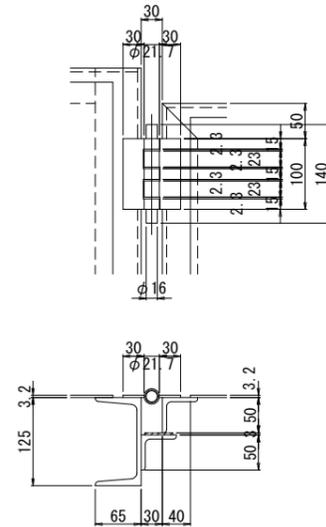
A2橋台

マンホール詳細図



- 2 - L 50 x 50 x 6 x 660
- 2 - L 50 x 50 x 6 x 595
- 1 - Ch. PL 555 x 3.2 x 600 (SS400 相当品)
- 6 - BN M10 x 30 (2-W)
- 1 - L 50 x 50 x 6 x 565
- 1 - ゴム 40 x 3 x 565 (エチレンプロピレンゴム)
- 5 - 皿ネジ M4 x 8
- 1 - L 50 x 50 x 6 x 565
- 1 - ゴム 40 x 3 x 565 (エチレンプロピレンゴム)
- 5 - 皿ネジ M4 x 8
- 2 - FB 50 x 6 x 50
- 1 - FB 50 x 6 x 50

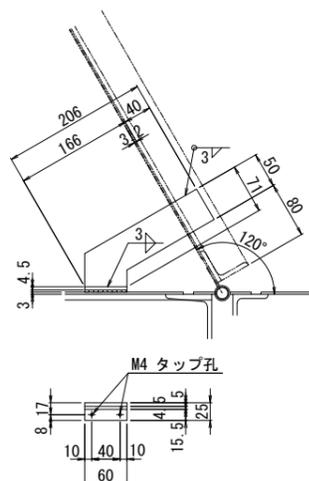
蝶番詳細図 S=1:5



1箇所当り部材 (設置数: 2箇所)

- 2 - PL 30 x 3.2 x 100 (SM400A)
- 3 - PIPE φ21.7 x 1.9 x 15 (STK400)
- 2 - PIPE φ21.7 x 1.9 x 23 (STK400)
- 1 - RB φ16 x 140
- 2 - 割ピン φ5 x 36 (SWRM8)

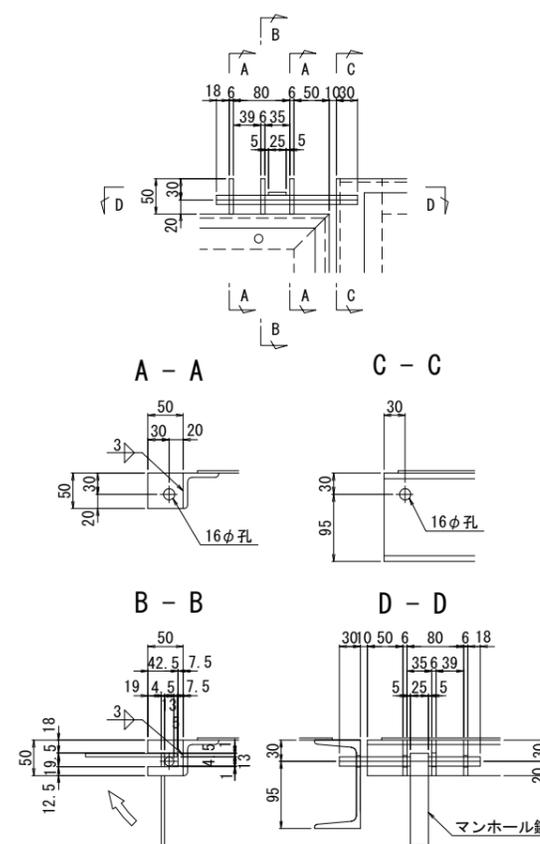
ストップバー詳細図 S=1:5



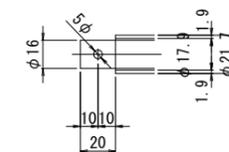
1箇所当り部材 (設置数: 2箇所)

- 1 - PL 25 x 4.5 x 60 (SM400A)
- 1 - PL 71 x 4.5 x 206 (SM400A)
- 1 - ゴム 25 x 3 x 60 (エチレンプロピレンゴム)
- 2 - 皿ネジ M4 x 8

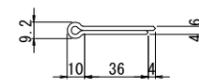
"a"部詳細図 S=1:5



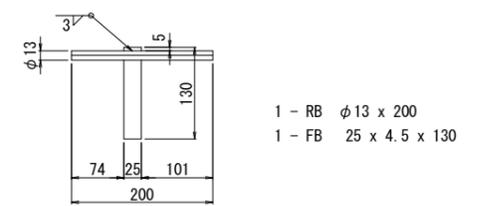
ピン端部詳細図 S=1:2



割ピン詳細図 S=1:2



マンホール鍵詳細図 S=1:5



- 1 - RB φ13 x 200
- 1 - FB 25 x 4.5 x 130

注記

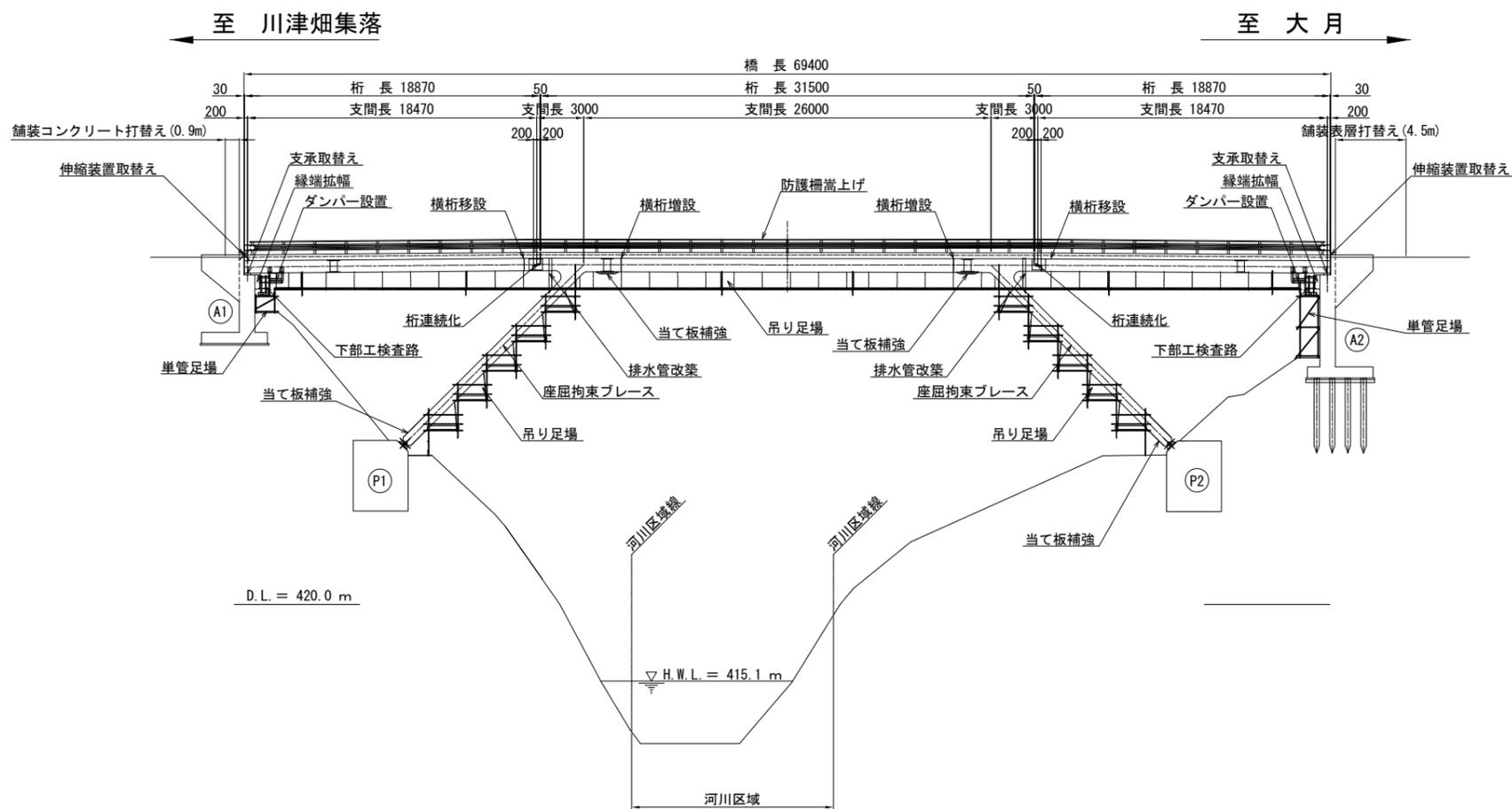
1. 細部寸法は、現地調査実施の上、最終確認を行なうこと。
2. 特記なき材質は、全てSS400とする。
3. Uボルト付き以外のナットは、全て弛み止めナットを使用すること。
4. 本体付きを除く検査路の表面処理は、溶融亜鉛メッキとする。亜鉛の付着量は、JIS H8641 2種HDZ55とする。但しボルト、ナット及び板厚3.2mm未満の付着量は、2種HDZ35とする。

工事設計図			
工事番号		図面番号	4 / 4
路線名	川津畑橋(市道川津畑六ツ原線)		
工事箇所	大月市 七保町 瀬戸 地内		
図名	下部工検査路(その4)	縮尺	図示
測量	平成28年1月	枚数	28/35
測量者	株式会社 長大		

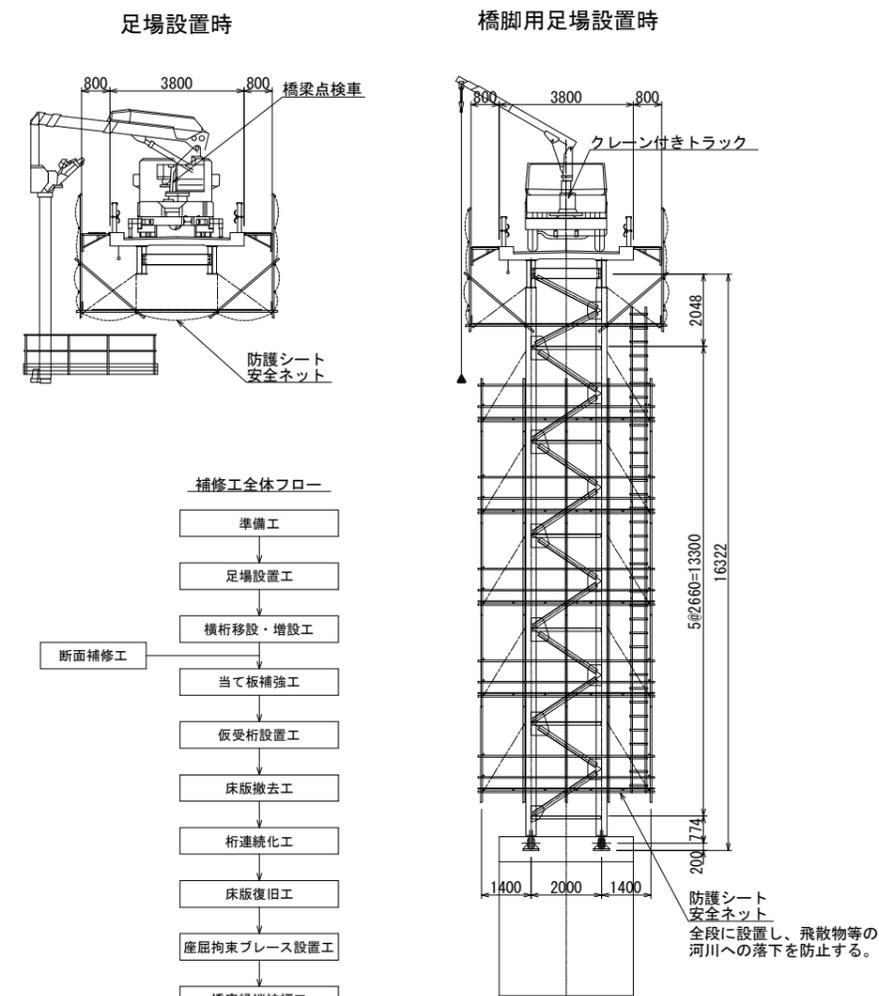
川津畑橋 施工要領図 S=1:200

【参考図】

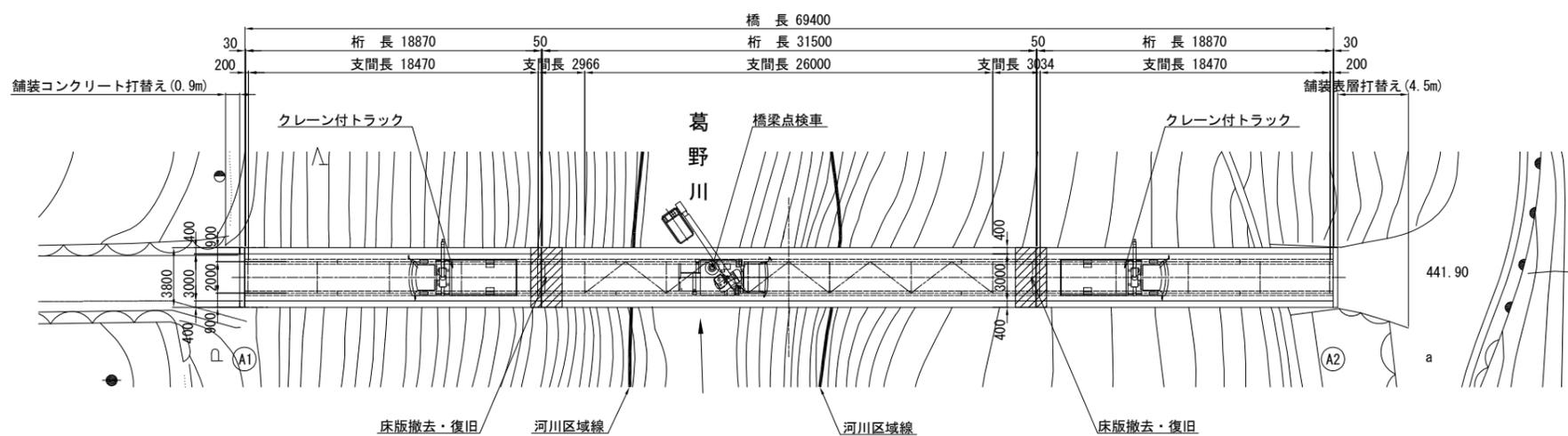
側面図



断面図 S=1:100



平面図



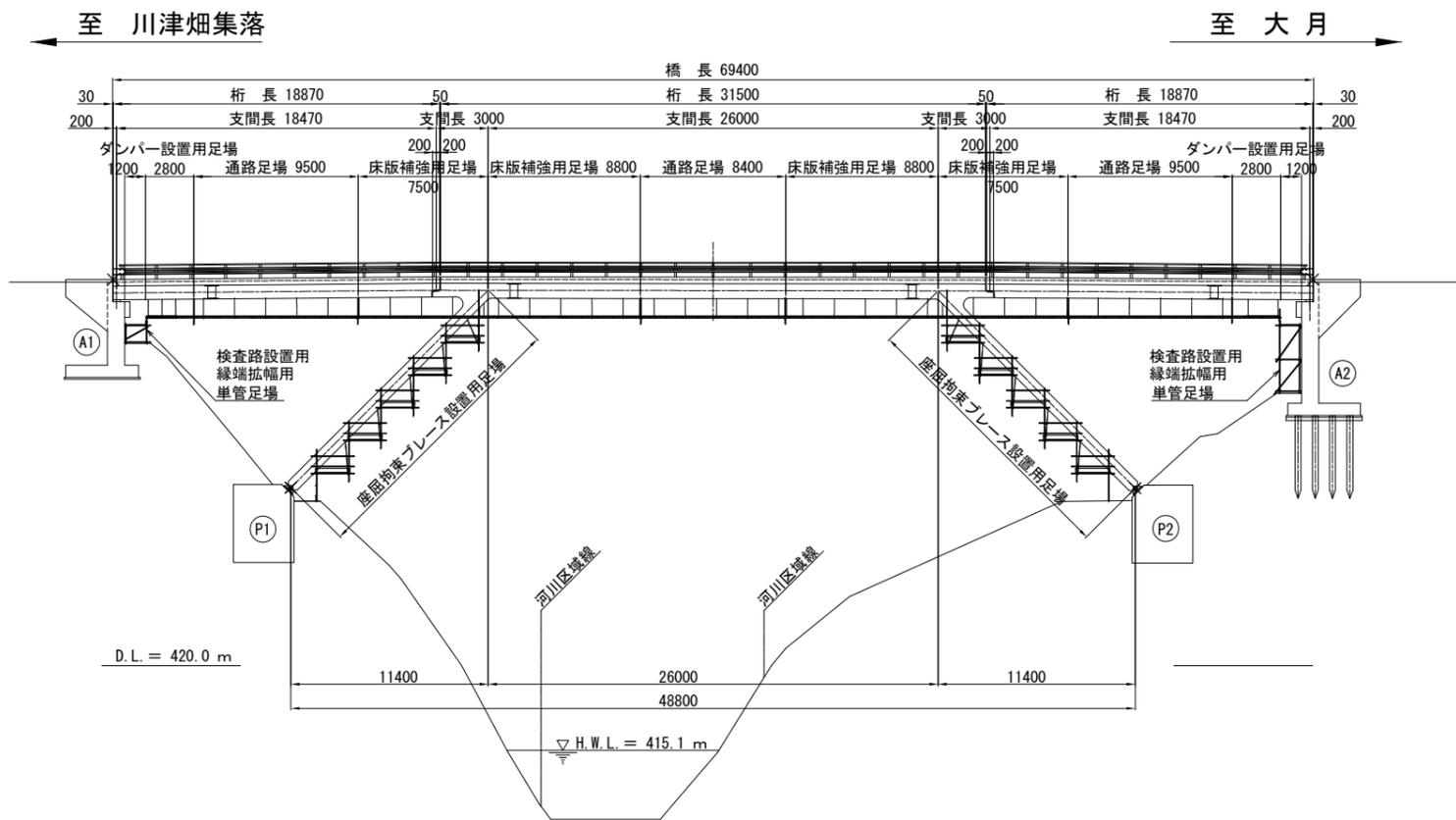
注)
1.施工前には現況寸法実測を行い、図面照合等の確認ののち施工を行うこと。

工事設計図		
工事番号	図面番号	1 / 1
路線名	川津畑橋(市道川津畑六ツ原線)	
工事箇所	大月市 七保町 瀬戸 地内	
図名	施工要領図 【参考図】	縮尺 S=1/200
測量	平成28年1月	枚数 29/35
測量者	株式会社 長大	

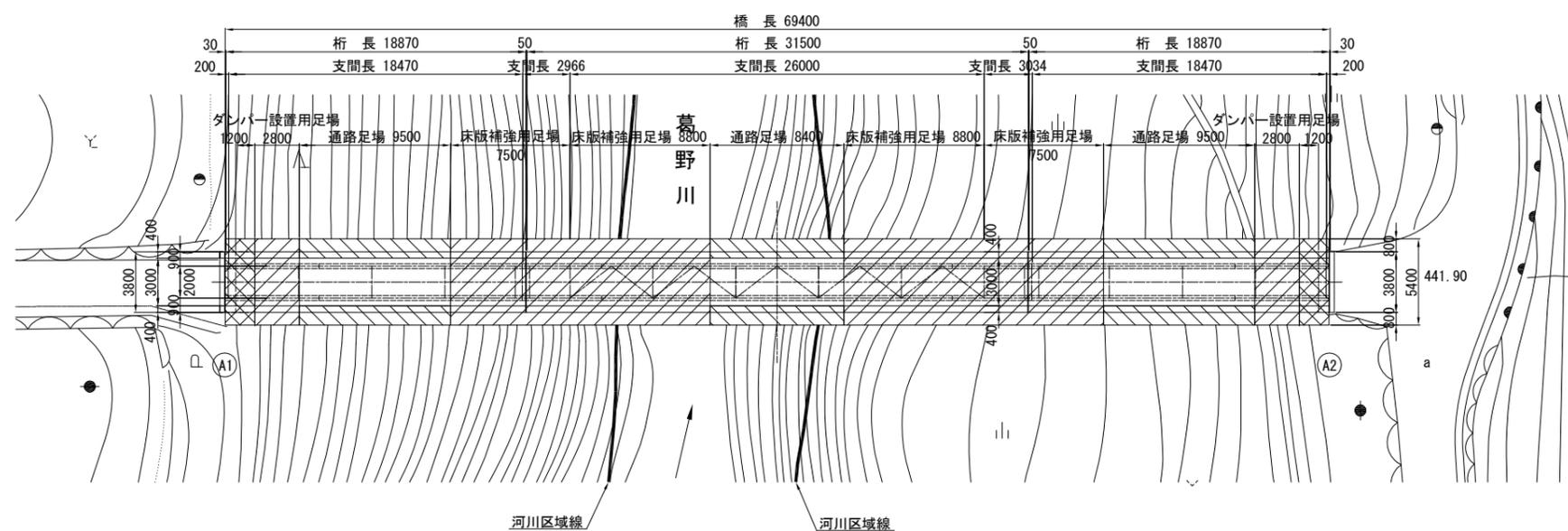
川津畑橋 足場一般図 S=1:200

【参考図】

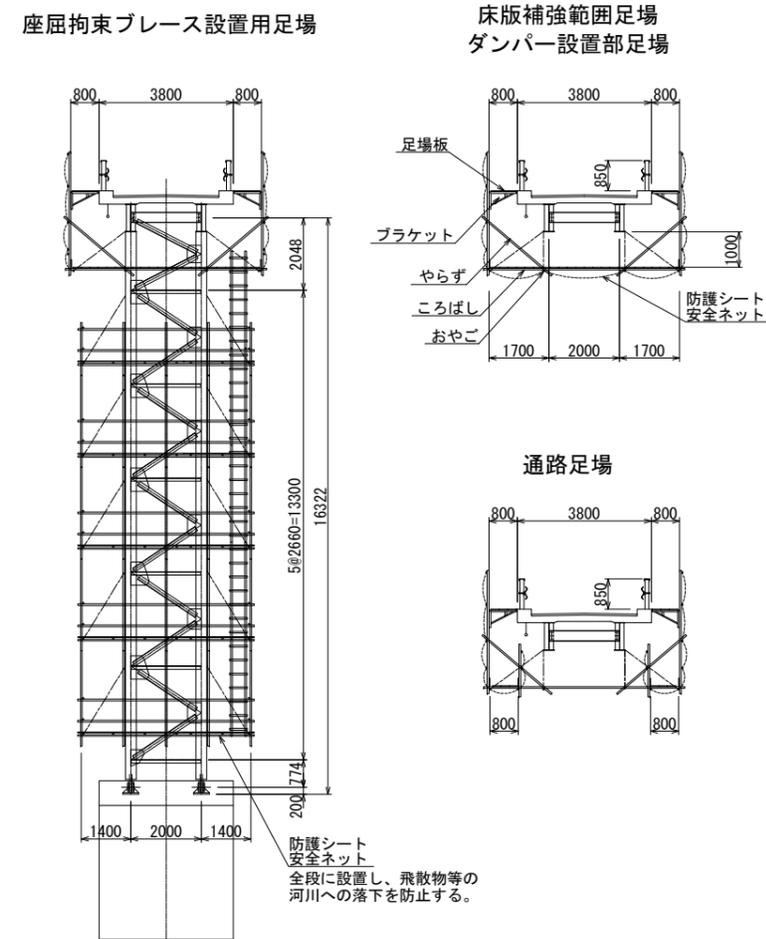
側面図



平面図



断面図 S=1:100



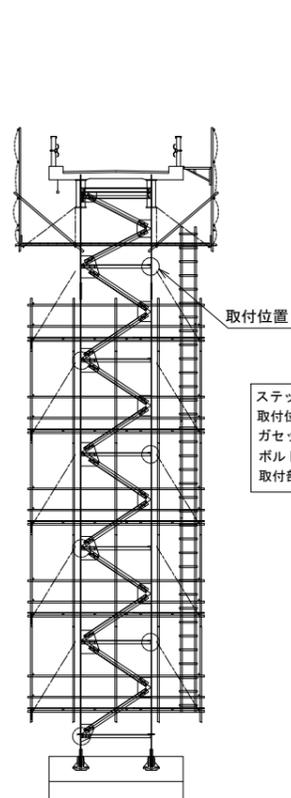
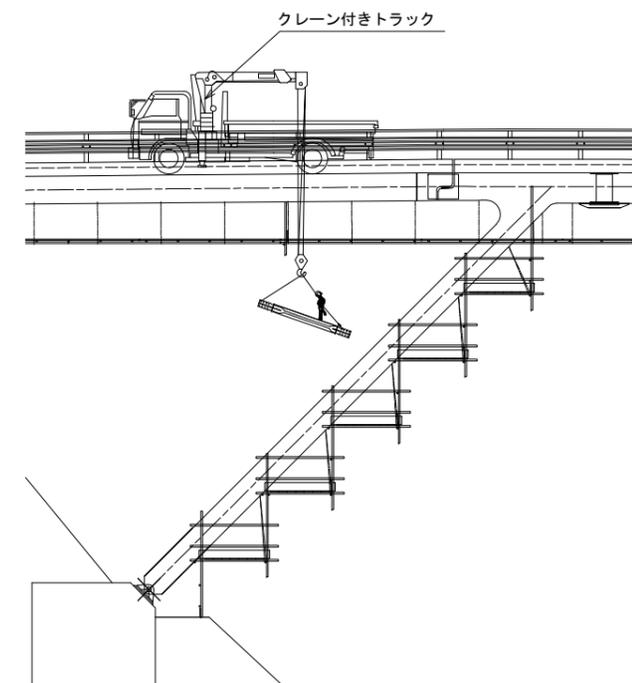
注) 1. 施工前には現況寸法実測を行い、図面照合等の確認ののち施工を行うこと。

工事設計図		
工事番号	図面番号	1 / 1
路線名	川津畑橋(市道川津畑六ツ原線)	
工事箇所	大月市 七保町 瀬戸 地内	
図名	足場一般図	縮尺 S=1/200
測量	平成28年1月	枚数 30/35
測量者	株式会社 長大	

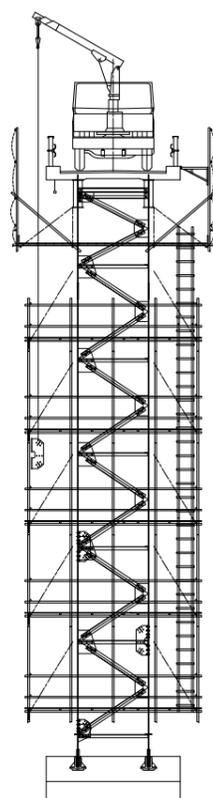
川津畑橋 座屈拘束ブレース設置施工要領図 S=1:100

【参考図】

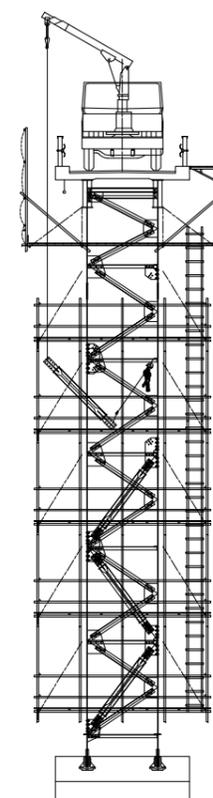
側面図



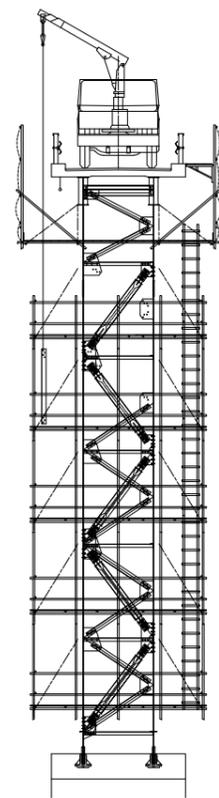
ステップ 1
取付位置の清掃
ガセット取付位置のボルト孔位置の卦書
ボルト孔明け
取付部分の塗装・ボルト孔のバリ撤去



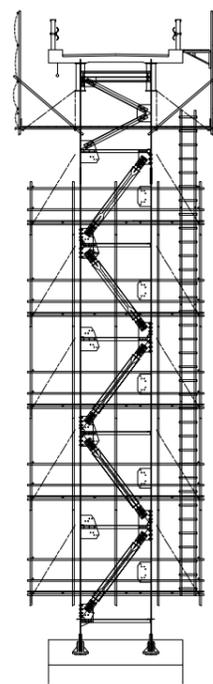
ステップ 2
ガセットプレートの取付



ステップ 3
座屈拘束ブレースの取付



ステップ 4
全座屈拘束ブレースの取付完了
既設ブレース材の撤去

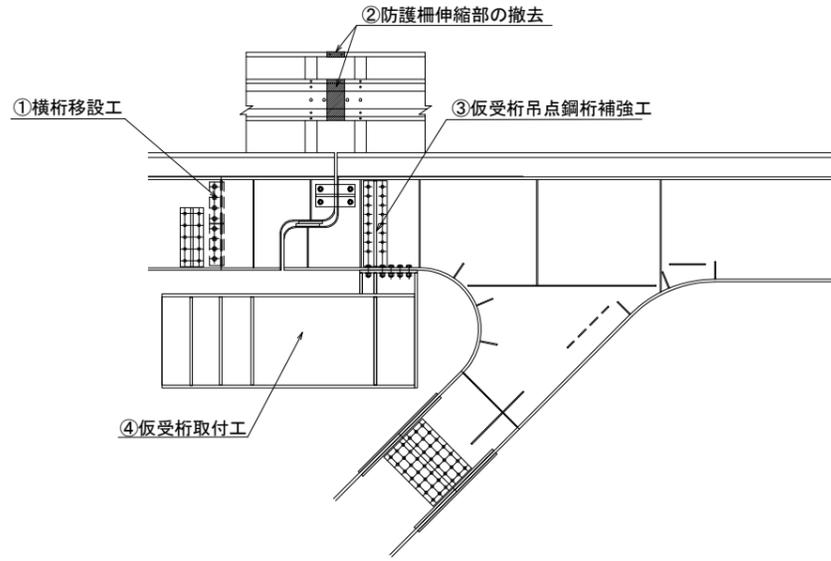


ステップ 4
既設ブレースガセットは残存
既設ブレースガセットのボルト孔及び部材接合面の
錆の除去後、塗装
座屈拘束ブレースの設置ボルトの塗装

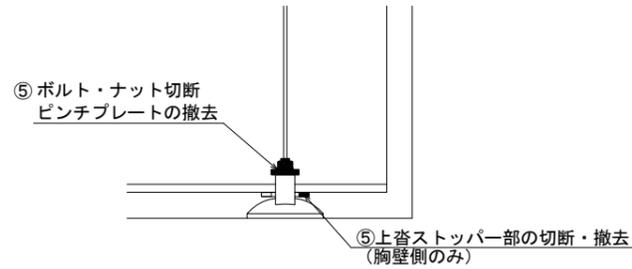
注)
1. 施工前には現況寸法実測を行い、図面
照合等の確認ののち施工を行うこと。

工事設計図			
工事番号	図面番号	1 / 1	
路線名	川津畑橋(市道川津畑六ツ原線)		
工事箇所	大月市 七保町 瀬戸 地内		
図名	座屈拘束ブレース 設置施工要領図	縮尺	S=1/100
測量	平成28年1月	枚数	31/35
測量者	株式会社 長大		

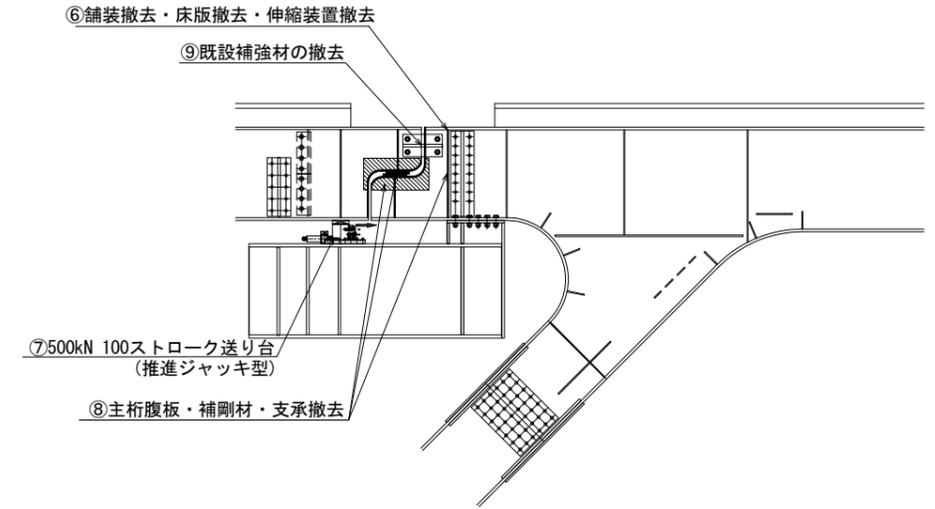
- ①横桁移設工
 - 1) 撤去横桁の垂直材はジャッキ盛替後に行う
 - 2) 下フランジの加工は桁連結後に行う
- ②防護柵伸縮部の撤去
- ③仮受桁吊点鋼桁補強工
- ④仮受桁取付工



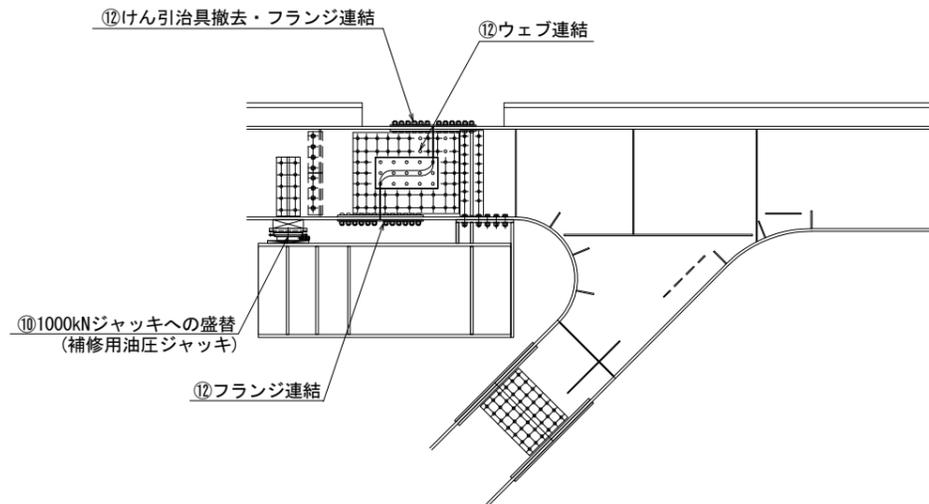
- ⑤固定支承ボルト・ナット切断・撤去
ピンチプレートの撤去
上沓ストッパー部の切断・撤去



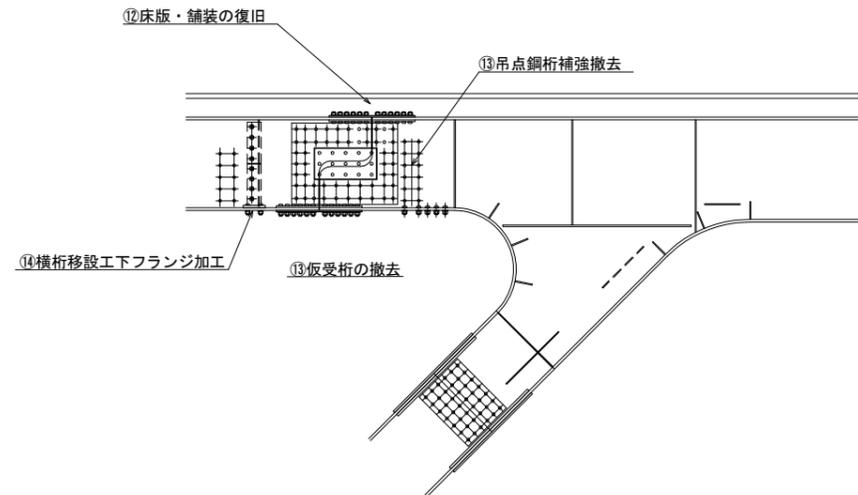
- ⑥舗装撤去・床版撤去・伸縮装置撤去
- ⑦側径間側鋼桁を送り台(推進ジャッキ)にて仮受
- ⑧支承・鋼桁一部をガス切断・撤去
- ⑨既設補強材(右岸側のみ)の撤去
送り台(推進ジャッキ型)用いて所定の遊間距離まで側径間側桁をけん引



- ⑩けん引後補修用ジャッキに盛替、推進ジャッキを撤去
- ⑪ワイヤー等で横移動防止を行う
- ⑫桁の連結作業工



- ⑬仮受桁の撤去・吊点桁補強撤去、残ボルト孔をトルシア型高力ボルトにて充填
- ⑭横桁移設工下フランジ加工
- ⑮床版・舗装の復旧・防護柵の復旧



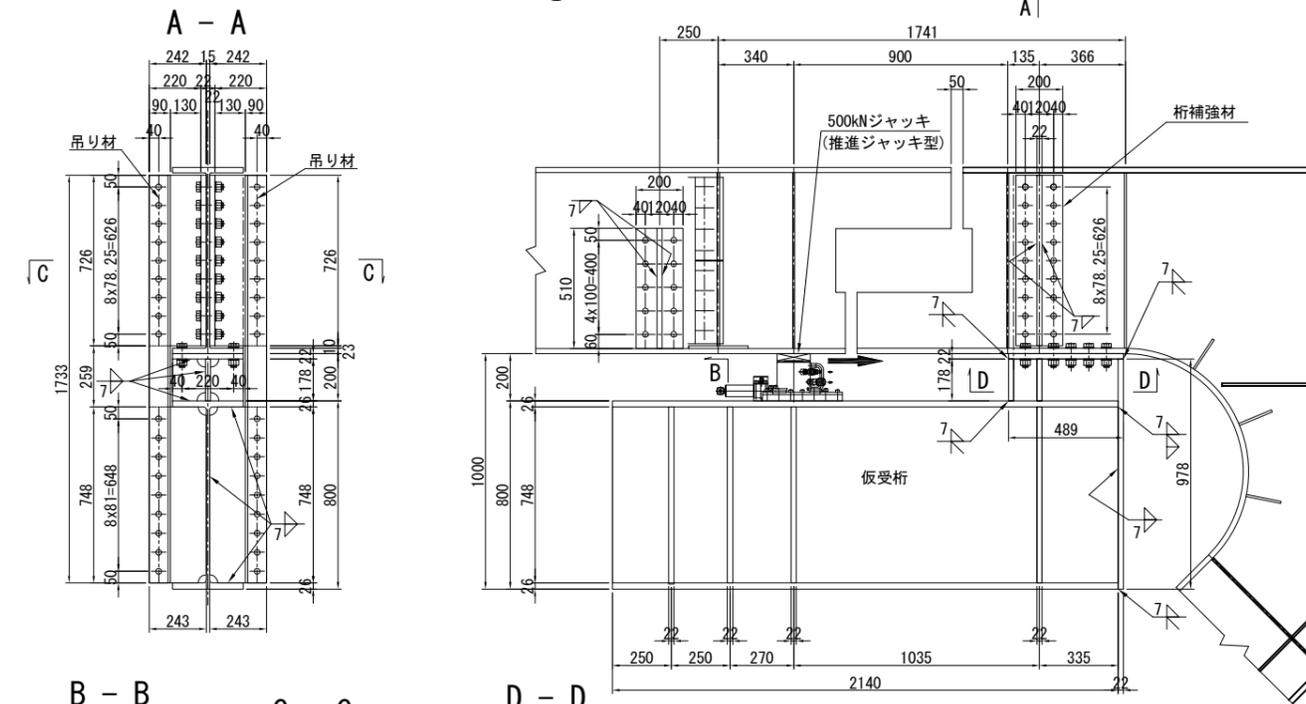
工事設計図			
工事番号		図面番号	1 / 1
路線名	川津畑橋(市道川津畑六ツ原線)		
工事箇所	大月市 七保町 瀬戸 地内		
図名	ゲルバー部 連結手順詳細図	縮尺	図示
測量	平成28年1月	枚数	32/35
測量者	株式会社 長大		

川津畑橋 ゲルバー部仮受桁詳細図

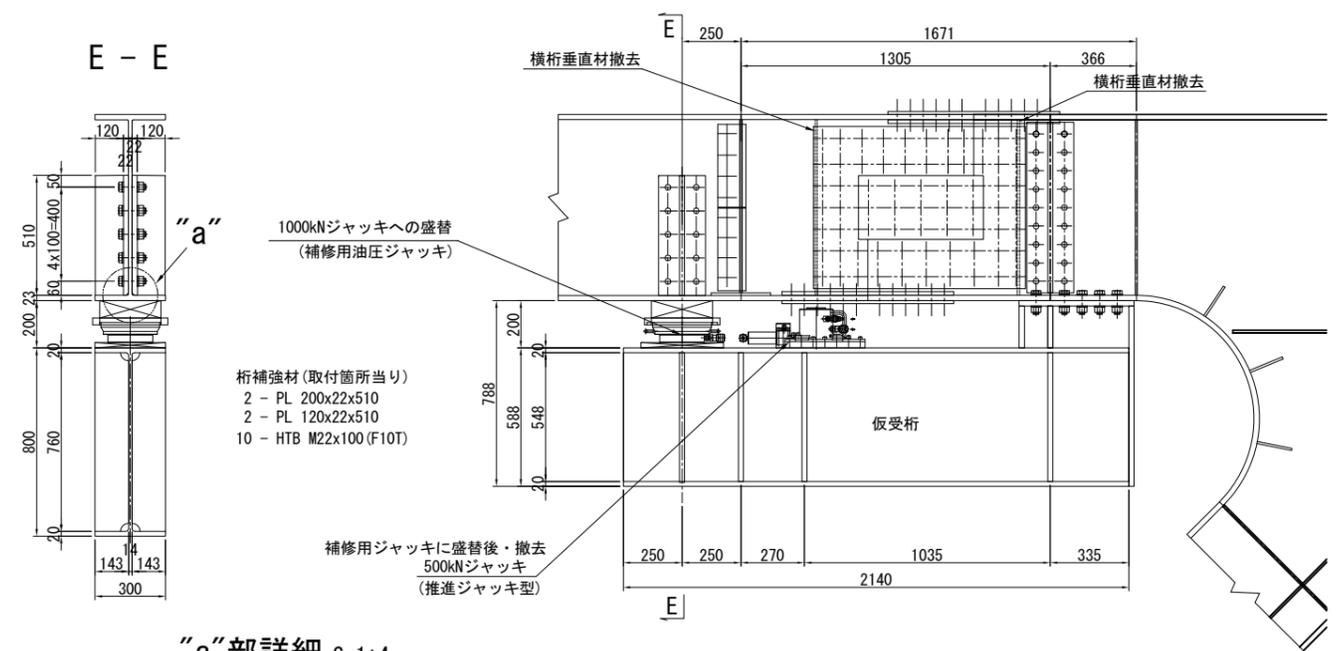
S=1:15

【参考図】

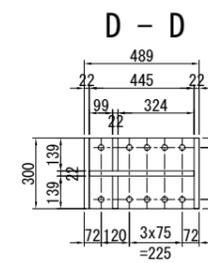
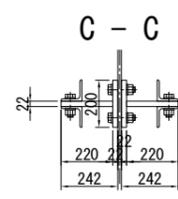
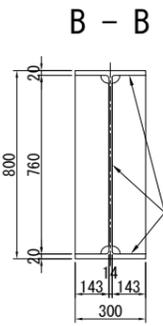
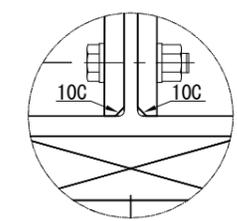
①けん引前



②けん引後ジャッキ盛替

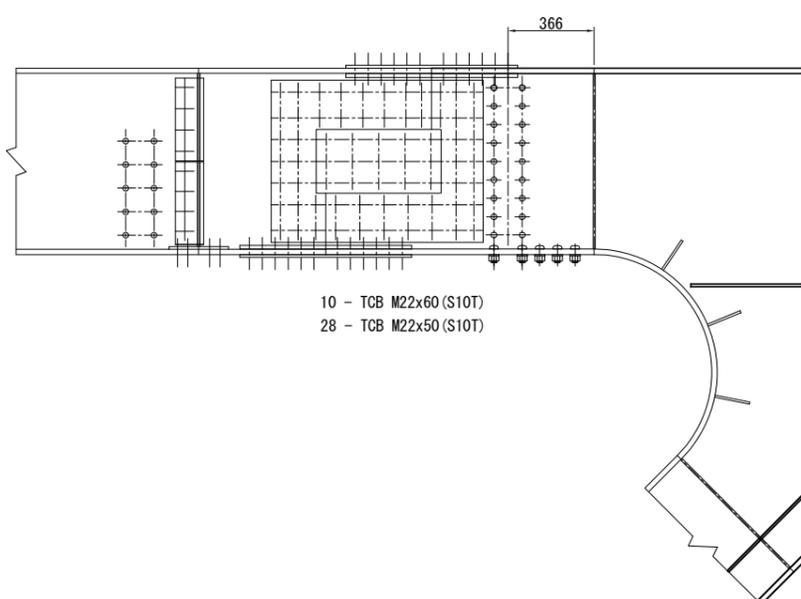


"a"部詳細 S=1:4



- B**
- 仮受桁 (1箇所当り)
- 1 - H 800x300x14x26x2140 (SS400)
 - 6 - PL 748x22x143
 - 2 - PL 748x22x243
 - 2 - PL 178x22x139
 - 1 - PL 178x22x300
 - 1 - PL 178x22x445
 - 1 - PL 300x22x489
 - 1 - PL 300x22x978
 - 20 - HTB M22x85 (F10T)
- A**
- 桁補強材 (取付箇所当り)
- 2 - PL 200x22x726
 - 2 - PL 220x22x726
 - 18 - HTB M22x100 (F10T)
- 吊り材 (取付箇所当り)
- 4 - L 90x90x10x1733 (SS400)
 - 36 - HTB M22x85 (F10T)

③仮受桁撤去後



- 注記
1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
 2. 特記なきスカーラップは35Rとする。
 3. 鋼材加工及びブラケットの取付位置等は、現地再調査の上、最終決定すること。寸法等を変更する場合は必要に応じて各構造の応力計算を行うこと。
 4. 必要に応じて、不陸調整など実施すること。
 5. 既設部材の撤去やグラインダー仕上げに際しては、既設部材を損傷させない様、十分に留意すること。
 6. 径間側桁の引込は500kNジャッキ (推進ジャッキ型)にて行う。
 7. 主桁付補強材および仮受け桁は仮設材であるため、防錆処理は不要とする。
 8. 摩擦接合面にはリン酸塩処理を施す事。

工事設計図			
工事番号		図面番号	1 / 1
路線名	川津畑橋(市道川津畑六ツ原線)		
工事箇所	大月市 七保町 瀬戸 地内		
図名	ゲルバー部 仮受桁詳細図	縮尺	図示
測量	平成28年1月	枚数	33/35
測量者	株式会社 長大		

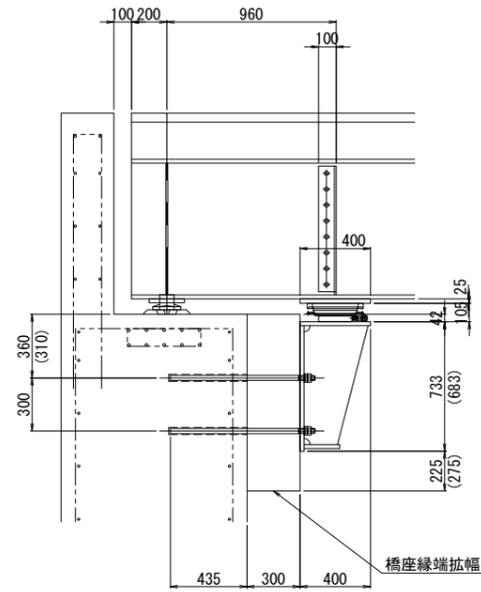
川津畑橋 端支点ジャッキアップ補強詳細図

S=1:20

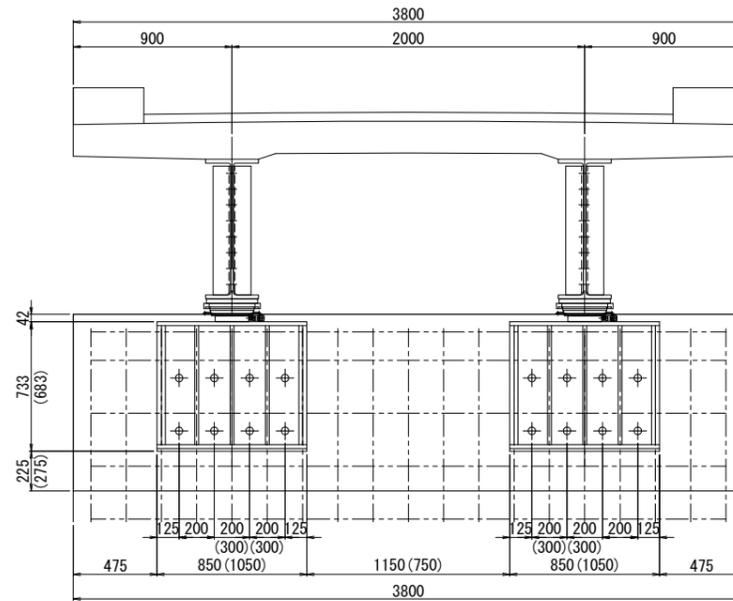
【参考図】

A2(A1)橋台

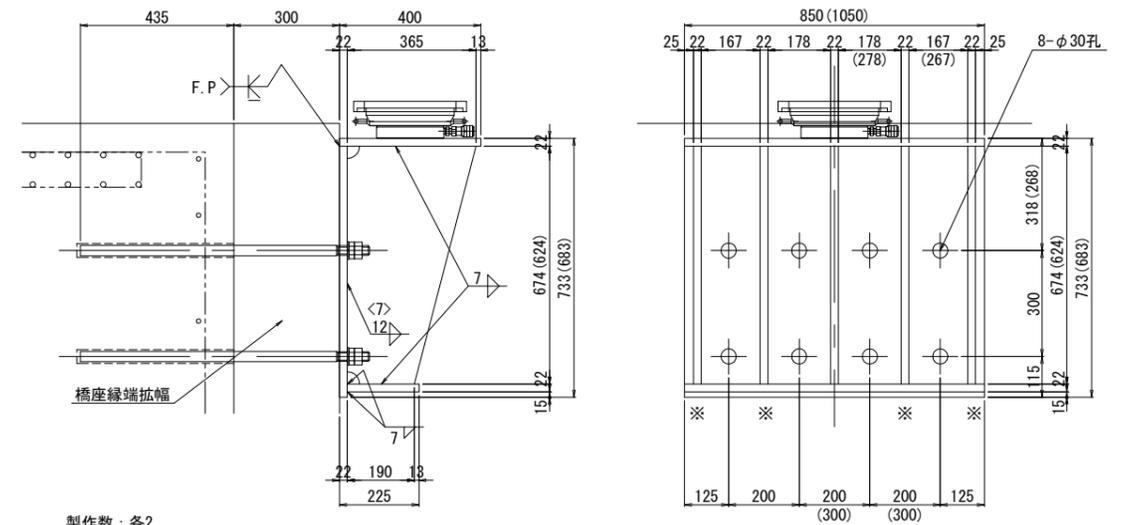
側面図



正面図



ジャッキ受けブラケット詳細図 S=1:10



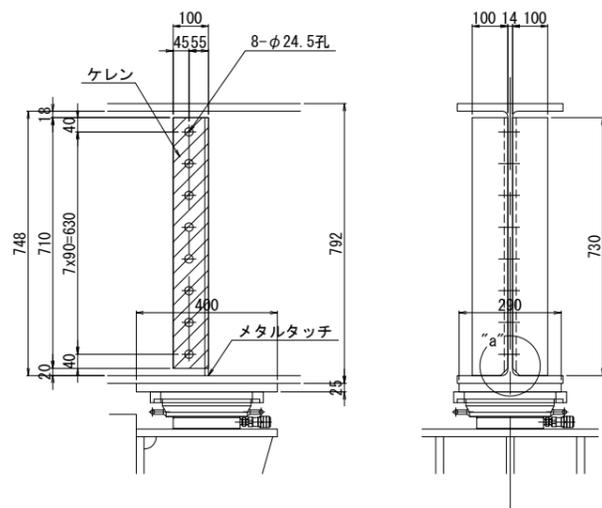
製作数：各2

(1か所当たり)

- ☆1 - PL 400 x 22 x 850(1050)
- ☆1 - PL 203 x 22 x 850(1050)
- ☆1 - PL 661 x 22 x 850(1050)
- ☆5 - PL 365 x 22 x 674(624)
- ☆8 - ANCHO BOLT D29 x 820 (SD345)
- ☆8 - NUT M27 1種 (SS400)
- ☆8 - NUT M27 3種 (SS400)
- ☆8 - WASHER M27 (SS400)

< >内の溶接サイズは※位置のリブを示す。

ジャッキ補強詳細図 S=1:10

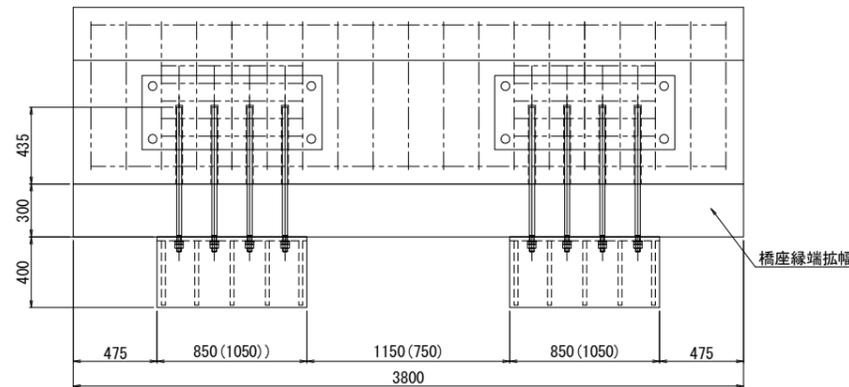


製作数：4

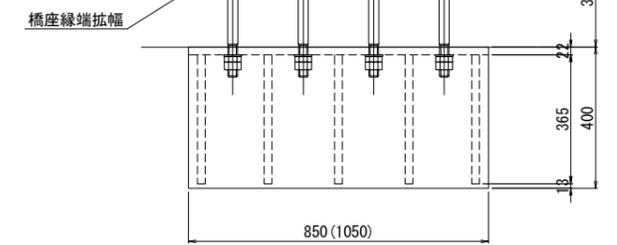
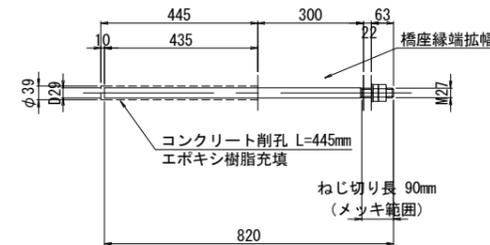
(1か所当たり)

- 2 - L 100 x 100 x 10 x 730 (SS400)
- ☆1 - PL 290 x 25 x 400 (SS400)
- 8 - TCB M22 x 70 (S10T)

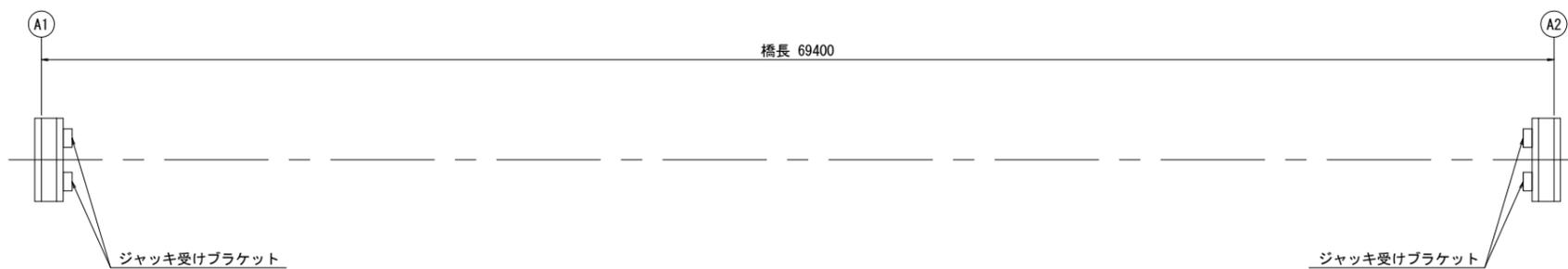
平面図



アンカーボルト詳細図 S=1:10



配置図



"a"部詳細図 S=1:5



- 注) 1. 細部寸法は、現地調査実施の上、最終確認を行なうこと。
2. コンクリート削孔は、鉄筋探査により既設鉄筋位置を確認し、切断しないように施工すること。
3. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
4. 特記なきスカーラップは全て35Rとする。
5. 桁付け補強材は塗装仕様とし、ジャッキ受けブラケットは仮設材であるため、防錆処理は不要とする。
6. ☆印部材は、使用后スクラップとする。
7. 施工後は、アンカーボルトのネジ部を切断し、モルタル等で後埋めしておくこと。

工事設計図			
工事番号		図面番号	1 / 1
路線名	川津畑橋(市道川津畑六ツ原線)		
工事箇所	大月市 七保町 瀬戸 地内		
図名	橋台ジャッキアップ補強詳細図【参考図】	縮尺	図示
測量	平成28年1月	枚数	34/35
測量者	株式会社 長大		